

6. 研究活動

〔分子・構造学講座〕

(1) 細胞情報学分野

1. 研究の概要

血管再生の分子メカニズム、特に脂肪由来間葉系幹細胞の血管形成細胞への分化誘導とその臨床応用、さらにレドクス制御とアンチエイジング、特にレドクスシグナル制御による細胞増殖と分化誘導能をテーマに研究を進めてきた。しかし、研究室メンバーであった池亀助教の転職もあり、研究テーマはこの三年間でシフトした。細胞分裂における重要なキナーゼである Aurora-A, -B, -C (Aik, Aik2, AIK3) 遺伝子をクローニングし、それらの機能を解析してきた木村講師を新たにメンバーとして迎えた。Aurora 阻害剤の抗がん剤としての効果も検討されており、細胞分裂と発がんの分子メカニズムを明らかにするために、Aurora を中心に細胞周期制御の研究を進めている。また、レドクスシグナルの研究を細胞周期制御とドッキングさせ、相互関連性のある以下の三つのテーマを中心に研究を行っている。

- 1) 細胞周期制御の分子メカニズム
- 2) レドクスシグナルによる細胞増殖制御
- 3) 細胞増殖制御にかかわる新規分子の探索

2. 名簿

教授： 中島 茂 Shigeru Nakashima
講師： 木村正志 Masashi Kimura

3. 研究成果の発表

著書 (和文)

- 1) 中島 茂(分担執筆協力). 標準生化学：藤田道也編. 東京：医学書院；2012年.

著書 (欧文)

なし

総説 (和文)

なし

総説 (欧文)

- 1) Ikegame Y, Yamashita K, Nakashima S, Nomura Y, Yonezawa S, Asano Y, Shinoda J, Hara H, Iwama T. Fate of graft cells: what should be clarified for development of mesenchymal stem cell therapy for ischemic stroke? *Front Cell Neuroci.* 2014;8/322. doi: 10.3389/fncel.2014.00322.

原著 (和文)

なし

原著 (欧文)

- 1) Tawada M, Hayashi S, Osada S, Nakashima S, Yoshida K. Human gastric cancer organizes neighboring lymphatic vessels via recruitment of bone marrow-derived lymphatic endothelial progenitor cells. *J Gastroenterol.* 2012;47:1057-1060. IF 4.020
- 2) Ikegame Y. Among mesenchymal stem cells: for the best therapy after ischemic stroke. *Stem Cell Res Ther.* 2013;4:9. IF 4.634
- 3) Tsuruma K, Yamauchi M, Sugitani S, Otsuka T, Ohno Y, Nagahara Y, Ikegame Y, Shimazawa M, Yoshimura S, Iwama T, Hara H. Progranulin, a major secreted protein of mouse adipose-derived stem cells, inhibits light-induced retinal degeneration. *Stem Cell Transl Med.* 2014;3:42-53. IF 3.596
- 4) Tawada M, Hayashi S, Ikegame Y, Nakashima S, Yoshida K. Possible involvement of tumor-producing VEGF-A in the recruitment of lymphatic endothelial progenitor cells from bone marrow. *Oncol Rep.* 2014;32:2359-2364. IF 2.191

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者名：池亀由香；学術研究助成基金助成金若手研究(B)：ポリフェノールによる腫瘍幹細胞

制御機構の解明；平成 24-25 年度；4,420 千円(2,210：2,210 千円)

2) 受託研究

- 1) 中島 茂：還元水素水の抗炎症・抗アレルギーならびに抗がん作用効果の測定及び測定結果の解析；平成 21-24 年度；130 千円；桂鉦社
- 2) 中島 茂：植物マグマの放射線防御効果に関する研究；平成 24-25 年度；3,000 千円；大自然株式会社

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

中島 茂：

- 1) 日本生化学会評議員・参与(～現在)
- 2) 日本脂質生化学会幹事(～現在)
- 3) 脳心血管抗加齢研究会評議員(～現在)

池亀由香：

- 1) 日本脳神経外科学会評議員(～平成 26 年 3 月)

2) 学会開催

なし

3) 学術雑誌

なし

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

中島 茂：

- 1) Metabosartan Forum in Gifu (平成 24 年 9 月, 岐阜, 座長)
- 2) 脳心血管抗加齢研究会 2012 (平成 24 年 12 月, 大阪, シンポジウム「脂質代謝異常症の抗加齢医療」座長)
- 3) 脳心血管抗加齢研究会 2012 (平成 24 年 12 月, 大阪, Young Investigator Award 審査口演 座長)
- 4) 脳心血管抗加齢研究会 2013 (平成 25 年 12 月, 大阪, Young Investigator Award 審査口演 座長)
- 5) 第 14 回日本抗加齢医学会総会(平成 26 年 6 月, 大阪, シンポジウム「そのあぶら大丈夫ですか? : 脂質分子と疾患の関連」座長)
- 6) 第 14 回日本抗加齢医学会総会(平成 26 年 6 月, 大阪, シンポジウム「そのあぶら大丈夫ですか? : 脂質分子と疾患の関連」シンポジスト「そのあぶら大丈夫ですか?」)
- 7) 第 14 回日本抗加齢医学会総会(平成 26 年 6 月, 大阪, 会長特別企画シンポジウム「和食の文化からアンチエイジングを語る」座長)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

中島 茂：

- 1) TIMA Foundation (Liechtenstein) Adviser (～平成 25 年 10 月)
- 2) 震災復興支援：一般社団法人 Lumiere et Espoir pour le Japon 理事(～平成 25 年 3 月)
- 3) 第 18 回国際血管生物学会準備委員(平成 24 年 11 月～平成 26 年 4 月)
- 4) 第 14 回日本抗加齢医学会プログラム委員(平成 25 年 7 月～平成 26 年 6 月)

5) 第18回国際血管生物学会ポスターアワード審査員(平成25年12月～平成26年4月)

10. 報告書

なし

11. 報道

なし

12. 自己評価

評価

研究については制限されたマンパワー、予算の中で量よりも質にこだわり、きちんと評価される研究を目指してきた。研究室のメンバーが交代し、教員としては細胞周期研究がテーマの木村講師を迎えた。H26年4月から大学院生も新しくメンバーに加わった。医学科学生研究員も定期的に研究に参加するようになり、“細胞増殖の分子メカニズムの解明”というキーワードのもとにまとまりのある研究体制が構築できつつある。主な研究テーマ、そして人員が代わったので目に見える研究成果はこれからであるが、次のステップアップのためのシーズは確実に蓄積している。

現状の問題点及びその対応策

基礎系分野共通の問題である研究者・大学院生の確保は、初期研修の義務化以降ますます困難となっている。旧帝大系でも基礎研究分野への医師の入局が激減しており、各分野あるいは大学単位の努力では限界に達していると思われる。研修医の大都市集中は日本全体の問題でもあり、旧帝大系を中心に学部学生時代から基礎医学へ誘導するプロジェクトが始まったが、地方への波及効果は不明である。しかし、岐阜大学でも学生研究員制度を制定して以来、少しずつではあるが研究室に定着する学生が出てきたのは喜ばしい傾向である。また、医学科学生の英語テキストの輪読会や勉強会への参加者も微増中のようであり、努力を続けていく必要を感じている。一方では、入学定員増加後、学業成績として評価されること以外には余り興味を示さず、夢とか希望という言葉が感じられない学生が増加しているように思われる。ゆとり教育の影響が大きいのかも知れないが、大学入学以前の家庭あるいは学校教育をきちんと見直していかなければ、医学部入学定員をいくら増やしても、本当に献身的な働きをしてくれる医師を育てるのは余り期待できないのでは、と思わざるを得ない。初等・中等教育、さらに社会システム全体の抜本的な改革がなされなければ、この国の医療体制のみならず、基礎医学研究は世界から取り残されるのではないかと強い危機感を感じている。発想の柔軟な若手研究者を確保する意味でも、これからは各分野が今以上に研究業績を内外にアピールし、学生達に研究の重要性やおもしろさを啓蒙していくことが重要になるであろう。研究資金はやりくり(創意工夫)で何とかなるが、やはり人材の確保が一番重要な問題である。また、臨床医のトレンドは研究よりも臨床スキルを上げて専門医獲得のようであるが、リサーチマインドはやはり重要ではないかと思われる。リサーチマインドを持った臨床医を育成する意味でも、基礎系が学生に向けてアピールをし続けなければ行けないのでは無いかと日々自問自答している。医学部入学定員は三割増しになっているので、そのうちに臨床の人員が充足する目処がつけば、研究指向の医師が増加することになるのではないかと密かに期待している。(あまり期待はできないかも知れないが、)明るい未来を信じて、努力することだけは続けたい(続けなければいけない)と思っている。

今後の展望

冒頭に記載した三つのテーマを中心に、細胞周期制御とそのシグナルについての研究を進める。また、学部学生に講義や選択テュートリアルを通して積極的にアピールし、学生研究員の獲得、そして育成に努める。実際に基礎医学研究の道に進む者は極めてわずかかも知れないが、リサーチマインドを持った臨床医を育てるためにも、努力を続けていく。

(2) 分子生理学分野

1. 研究の概要

1) タンパク質の高次構造と機能に関する物理化学的研究

ポストゲノムに続く研究領域はプロテオーム、メタボロームなどともいわれているが、遺伝情報の翻訳によってタンパク質が生合成されて生体内で実際にその機能を発揮するまでに、タンパク質は高次構造(二次、三次構造)を形成したあとに様々な翻訳後修飾を受ける。数あるタンパク質の中で血中に最も多く存在している血清アルブミン分子を例にして、さまざまな翻訳後修飾(酸化、カルボニル化、糖化、ニトロ化など)がアルブミンの生理機能、たとえばリガンド結合能などにどのような影響を及ぼしているかといった研究を行い、さらに翻訳後修飾と疾患との関連について研究している。

2) 生体内酸化ストレスとレドックス応答

生体はさまざまな外部環境要因によってさまざまなストレスを受けている。そのような酸化ストレスは生体高分子、すなわち核酸、タンパク質、脂質などを化学修飾することによって機能を低下させ、その結果、細胞の老化や癌化を引き起こすことが知られている。生体内のタンパク質、とくに血清アルブミンは生体内で最も多量に存在する唯一のSH基含有タンパク質で、細胞外酸化還元緩衝機能を有している。従って、血清アルブミンの酸化還元状態の動的解析によって、種々の疾患の病態解明や老化の本質解明に迫ることができる。

3) タンパク質と水分子間相互作用の分子メカニズム

水は生体の約60%を占める重要な分子集団で、さまざまな生体高分子にその活動の場を提供している。NMRという研究手段によって、タンパク質周辺の水分子集団の動的挙動、すなわちタンパク質-水分子間相互作用を検出することができる。その臨床応用としてMRIが知られているが、我々は現在、NMRとMRIとを用いて、新規の「分子・細胞イメージング法」の確立を目指して研究している。

2. 名簿

教授： 恵良聖一 Seichi Era
併任講師： 寺田知新 Tomoyoshi Terada
助教： 村山幸一 Koichi Murayama

3. 研究成果の発表

著書(和文)

- 1) 寺脇博之, 松山幸枝, 松尾七重, 小倉 誠, 三留 淳, 濱口明彦, 寺田知新, 恵良聖一, 細谷龍男. 腹膜透析患者において還元型アルブミンの低値は心血管系合併症と関連する: 腎とフリーラジカル 11集, 2013年: 93-95.
- 2) 鈴木祥史, 須田健二, 松山幸枝, 寺田知新, 恵良聖一, 副島昭典. 水素水および還元薬剤を添加した透析液を用いたアルブミンの透析とその効果: 腎とフリーラジカル 11集, 2013年: 162-167.
- 3) 寺脇博之, 中島章雄, 松本 啓, 三留 淳, 木村敬太, 小林政司, 濱口明彦, 小倉 誠, 細谷龍男, 松山幸枝, 寺田知新, 恵良聖一. 酢酸含有透析液から無酢酸透析液への切り替えが, 透析後の還元型アルブミン増加度に及ぼす影響に関する予備的検討: 腎とフリーラジカル 11集, 2013年: 168-169.
- 4) 鈴木祥史, 須田健二, 松山幸枝, 寺田知新, 恵良聖一, 副島昭典. 血漿アルブミンの還元化率を改善する還元薬剤の透析液への添加とその有効濃度: 腎とフリーラジカル 12集, 2014年: 66-70.

著書(欧文)

なし

総説(和文)

- 1) 恵良聖一, 松島 秀. MTC の原理から CEST イメージングへ. インナービジョン 2012年; 9巻: 25-28.

総説(欧文)

なし

原著(和文)

- 1) 寺脇博之, 恵良聖一. 基盤病態としてのアルブミン酸化還元比異常(S43), 日本生理学雑誌 2012年; 74巻: 245-246.
- 2) 恵良聖一. 血清アルブミンの構造・機能および酸化還元の病態生理, 日本生理学雑誌 2012年; 74巻: 246-247.
- 3) 寺田知新. ヒト白血球系株化細胞は酸化型アルブミンを還元型アルブミンに変換する: アルブミンの酸化

原著 (欧文)

- 1) Otsuki J, Nagai Y, Matsuyama Y, Terada T, Era S. The influence of the redox state of follicular fluid albumin on the viability of aspirated human oocytes. *Syst Biol Reprod Med.* 2012;58:149-153. IF 1.700
- 2) Terawaki H, Matsuyama Y, Matsuo N, Ogura M, Mitome J, Hamaguchi A, Terada T, Era S, Hosoya T. A lower level of reduced albumin induces serious cardiovascular incidence among peritoneal dialysis patients. *Clin Exp Nephrol.* 2012;16:629-635. IF 1.708
- 3) Terawaki H, Terada T, Ogura M, Era S, Hosoya T. The elevation of oxidative stress after the great East Japan earthquake. *Clin Exp Nephrol.* 2012;16:816-817. IF 1.708
- 4) Terawaki H, Yamagishi S, Funakoshi Y, Matsuyama Y, Terada T, Nakayama K, Ogura M, Hosoya T, Ito S, Era S, Nakayama M. Pigment epithelium-derived factor as a new predictor of mortality among chronic kidney disease patients treated with hemodialysis. *Ther Apher Dial.* 2013;17:625-630. IF 1.532
- 5) Terawaki H, Hayashi Y, Zhu W-J, Matsuyama Y, Terada T, Kabayama S, Watanabe T, Era S, Sato B, Nakayama M. Transperitoneal administration of dissolved hydrogen for peritoneal dialysis patients: a novel approach to suppress oxidative stress in the peritoneal cavity. *Med Gas Res.* 2013;3:14 (doi:10.1186/2045-9912-3-14).
- 6) Otsuki J, Nagai Y, Matsuyama Y, Terada T, Era S. The redox state of recombinant human serum albumin and its optimal concentration for mouse embryo culture. *Syst Biol Reprod Med.* 2013;59:53-59. IF 1.700
- 7) Terawaki H, Zhu W-J, Matsuyama Y, Terada T, Takahashi Y, Sakurai K, Kabayama S, Miyazaki M, Itami N, Nakazawa R, Ito S, Era S, Nakayama M. Effect of a hydrogen (H₂)-enriched solution on the albumin redox of hemodialysis patients. *Hemodial Int.* 2014;18:459-466. IF 1.363
- 8) Minami T, Terada T, Takahashi T, Arikawa H, Matsuyama Y, Kizaki K, Era S. Comparative studies on the heterogeneity of plasma-derived and recombinant human albumins in laboratory use. *Int J Biol Macromol.* 2014;69:79-87. IF 3.096
- 9) Matsushima S, Sato Y, Yamaura H, Kato M, Konosada Y, Era S, Takahashi K, Inaba Y. Visualization of liver uptake function using the luptake contrast-enhanced ratio in hepatobiliary phase imaging. *Magn Reson Imaging.* 2014;32:654-659. IF 2.022
- 10) Suzuki Y, Suda K, Matsuyama Y, Era S, Soejima A. Close relationship between redox state of human serum albumin and serum cysteine levels in non-diabetic CKD patients with various degrees of renal function. *Clin Nephrol.* 2014;82:320-325. IF 1.232

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者: 恵良聖一; 科学研究費補助金基盤研究(C): 磁気共鳴法による細胞集団の機能イメージング法への展開と臨床応用; 平成 22-24 年度; 3,100 千円(1,600 : 800 : 700 千円)
- 2) 研究代表者: 寺田知新, 研究分担者: 恵良聖一, 村山幸一; 科学研究費補助金基盤研究(C): 高親和性 IgE 受容体β鎖の構造解析と予防・治療・および創薬開発への応用; 平成 22-24 年度; 3,400 千円(1,900 : 800 : 700 千円)
- 3) 研究代表者: 寺田知新; 大学活性化経費(研究: 科研採択支援): 高親和性 IgE 受容体β鎖 D234 に会合する分子の同定と治療・創薬開発への応用; 平成 25 年度; 700 千円
- 4) 研究代表者: 富田美穂子(松本歯科大学), 研究分担者: 中野敬介, 寺田知新, 川上敏行; 科学研究費補助金基盤研究(C): 音楽が疼痛閾値に及ぼす影響と自律神経のバランスとの関係; 平成 25-27 年度; 3,900 千円(1,000 : 1,400 : 1,500 千円)
- 5) 研究代表者: 寺田知新, 研究分担者: 恵良聖一; 科学研究費補助金基盤研究(C): 高親和性 IgE 受容体β鎖 D234 に会合する分子の同定と治療・創薬開発への応用; 平成 26-28 年度; 3,800 千円(1,800 : 1,000 : 1,000 千円)

2) 受託研究

なし

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

恵良聖一：

- 1) 日本生理学会評議員(～現在)
- 2) 日本病態生理学会監事(～現在)
- 3) 日本病態生理学会評議員(～現在)
- 4) 日本磁気共鳴医学会代議員(～現在)

寺田知新：

- 1) 日本生理学会評議員(～現在)
- 2) 日本てんかん学会評議員(平成 25 年 10 月～現在)

2) 学会開催

なし

3) 学術雑誌

なし

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

恵良聖一：

- 1) 第 89 回日本生理学会大会(平成 24 年 3 月, 松本, 「The albumin redox disorder as a fundamental pathogenicity」座長)
- 2) 第 89 回日本生理学会大会(平成 24 年 3 月, 松本, 「Serum albumin: Recent progress in the understanding of its structure and pathophysiology」シンポジスト)
- 3) もとす医師会総会講演会(平成 24 年 5 月, 瑞穂, 「酸化ストレスと疾患(体の中の酸化還元状態と病気との関わり)」演者)
- 4) 第 40 回日本磁気共鳴医学会大会(平成 24 年 9 月, 京都, 「Saturation transfer (飽和移動): CEST, APT & MT」シンポジスト)

寺田知新：

- 1) 第 89 回日本生理学会学術集会(平成 24 年 3 月, 松本, 「Human leukocytic cell lines actively convert the oxidized form of albumin to the reduced form: affect of redox state of albumin and physiological significance.」シンポジスト)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

なし

10. 報告書

- 1) 恵良聖一：磁気共鳴法による細胞集団の機能イメージング法への展開と臨床応用：平成 22-24 年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書：1-4(平成 25 年 5 月)
- 2) 寺田知新：高親和性 IgE 受容体β鎖の構造解析と予防・治療および創薬開発への応用：平成 22-24 年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書：1-5(平成 25 年 5 月)

11. 報道

- 1) 寺田知新：「研究室から 大学はいま」アレルギー疾患の予防向上：岐阜新聞(2013 年 10 月 29 日)

12. 自己評価

評価

後述するが、分野の現員が非常に少ない(実働 2 名)中で研究の activity を上げるために、他大学や他

研究施設との共同研究を積極的に進めてきたが、大学院生2名も学位（博士（医学））を修得して、ようやくその成果が実ってきた感がある。

しかしこのような状況がいつまでも続くのはやはり異常な状態であろうし、いずれ解決されなければならないと考える。

現状の問題点及びその対応策

当該分野の記録として次の2点を残しておきたい：①平成16年の国立大学法人化の年に、学内の事情（黒木登志夫元学長の裁定による（旧）人獣共通感染防御研究センターの設立）によって、当該分野の准教授ポスト1が減員されたまま既に10年が経過している。さらに②医学部長プール定員（助手）によって採用した助手の問題が発生して、学部として未解決のまま既に10年が経過している。

この間、地域医療の崩壊に関連して学生の入学定員が80名から110名まで順次増員されてきているが、教員側の増員はまったくないままで今日に至り、学部学生ならびに大学院生の教育・研究を実質2名で行ってきた。このようなアンバランスな状態で従前通りの教育・研究の質と量の確保はままならない。対応策としては、員数の増員ほかない。

今後の展望

員数が少ないという上記の問題点は単に当該の1基礎医学分野に限った特殊な状態ではない。解決策としては、学部全体として人的資源の確保に取り組むことが不可欠であろう。それもし多くの要因で実現できないのであれば、今後の展望は現状以上にますます厳しいものとなるであろう。

(3) 薬理病態学分野

1. 研究の概要

薬理学的手法、細胞生物学的手法および分子生物学的手法を用い研究を行い、代謝性疾患・血栓症・動脈硬化症・消化器系疾患の病態の解明を通してヒトに有用な新たな創薬を目指し研究を行っている。

1) 種々の病態における低分子量ストレス蛋白質の役割の解明

生体のストレス応答において中心的役割を担うと考えられているストレス蛋白質 (heat shock protein:HSP) に注目し、中でも分子量が 10-30kDa の低分子量ストレス蛋白質 (low-molecular-weight HSP:HSPB) の機能を解析している。低分子量 HSP のファミリーの中で、HSPB6 (HSP20) と HSPB5 (α B クリスタリン) が従来の細胞内シャペロンとしての機能以外にストレス応答に際し、細胞外に遊離され血小板機能を抑制することを発見し、その活性部位を見出した。さらに、血小板からの顆粒分泌を HSPB1 (HSP27) のリン酸化が制御していることを明らかとしている。

また、肝癌の病態において HSPB1 (HSP27) のリン酸化の程度および HSPB6 (HSP20) の総発現量がヒト肝細胞癌における TNM ステージと逆相関することを見出し、HSP27 および HSP20 が癌細胞の増殖の細胞内情報伝達機構を制御していることを示した。さらに、最近、HSP20 の標的蛋白質が phosphatidylinositol 3-kinase および Bax であり、それぞれ、増殖・アポトーシスの機能を制御していることを明らかとした。

現在、低分子量ストレス蛋白質 (HSPB) の中でも、種々の臓器・細胞にユビキタスに存在している HSP27・HSP20・ α B クリスタリンおよび HSP22 の細胞内 (骨芽細胞・神経細胞・血小板・肝癌細胞・卵巣癌細胞)・細胞外での機能及び役割の詳細な検討を行っている。

2) 骨芽細胞・神経細胞・血管平滑筋細胞・肝細胞の細胞内情報伝達機構の解明

初代培養細胞およびモデルクローン化細胞を用いて、細胞増殖因子・サイトカイン・ホルモン等種々の生理活性物質の細胞内情報伝達機構について検討を行っている。細胞の増殖・細胞運動・分化やアポトーシスのメカニズム・その制御における役割を解析し、骨粗鬆症・血栓症・動脈硬化症・急性冠症候群・肝癌の病態の解明を試みている。さらに、これら疾患に使用されている種々の薬物の新たな作用の解析および作用機構の検討を行っている。

3) 代謝疾患 (糖尿病・骨粗鬆症等) における血小板機能の変化と誘発される種々の病態生理の解明

糖尿病などの代謝疾患は、血栓症 (虚血性疾患) や神経・臓器障害などの 2 次的疾患の誘発率が高く、血小板機能の変化と血栓症や各臓器障害との関係を追求している。既に、骨粗鬆症の治療薬として使用されている SERM の一つであるラロキシフェンがその副作用として血小板凝集能を亢進させることを明らかとしている。現在、代謝疾患 (糖尿病・骨粗鬆症等) および頸動脈狭窄症における血小板の機能および血小板細胞内情報伝達機構の解析を行っている。

2. 名簿

教授:	小澤 修	Osamu Kozawa
教授(併任):	丹羽雅之	Masayuki Niwa
助教:	西脇理英	Rie Nishiwaki

3. 研究成果の発表

著書 (和文)

なし

著書 (欧文)

なし

総説 (和文)

なし

総説 (欧文)

なし

原著 (和文)

なし

原著 (欧文)

- 1) Kato K, Otsuka T, Kondo A, Matsushima-Nishiwaki R, Natsume H, Kozawa O, Tokuda H. AMP-activated protein kinase regulates PDGF-BB-stimulated interleukin-6 synthesis in osteoblasts: involvement of mitogen-activated protein kinases. *Life Sci.* 2012;90:71-76. IF 2.296
- 2) Kawaguchi J, Adachi S, Yasuda I, Yamauchi T, Yoshioka T, Itani M, Kozawa O, Moriwaki H. UVC irradiation suppresses platelet-derived growth factor-BB-induced migration in human pancreatic cancer cells. *Oncol Rep.* 2012;27:935-939. IF 2.191
- 3) Mizutani J, Tokuda H, Matsushima-Nishiwaki R, Kato K, Kondo A, Natsume H, Kozawa O, Otsuka T. Involvement of AMP-activated protein kinase in TGF- β -stimulated VEGF synthesis in osteoblasts. *Int J Mol Med.* 2012;29:550-556. IF 1.880
- 4) Kondo A, Otsuka T, Natsume H, Matsushima-Nishiwaki R, Kato K, Kozawa O, Tokuda H. Wnt3a up-regulates prostaglandin F2 α -stimulated VEGF synthesis in osteoblasts. *Mol Med Rep.* 2012;6:421-425. IF 1.484
- 5) Kato K, Tokuda H, Matsushima-Nishiwaki R, Natsume H, Kondo A, Ito Y, Kozawa O, Otsuka T. AMPK limits IL-1-stimulated IL-6 synthesis in osteoblasts: involvement of I κ B/NF- κ B pathway. *Cell Signal.* 2012;24:1706-1712. IF 4.471
- 6) Kawaguchi J, Adachi S, Yasuda I, Yamauchi T, Nakashima M, Ohno T, Shimizu M, Yoshioka T, Itani M, Kozawa O, Moriwaki H. Cisplatin and ultra-violet-C synergistically down-regulate receptor tyrosine kinases in human colorectal cancer cells. *Mol Cancer.* 2012;11:45. IF 5.397
- 7) Tanabe K, Matsushima-Nishiwaki R, Iida M, Kozawa O, Iida H. Involvement of phosphatidylinositol 3-kinase/Akt on basic fibroblast growth factor-induced glial cell line-derived neurotrophic factor release from rat glioma cells. *Brain Res.* 2012;1463:21-29. IF 2.828
- 8) Tokuda H, Kato K, Natsume H, Kondo A, Kuroyanagi G, Matsushima-Nishiwaki R, Ito Y, Otsuka T, Kozawa O. Involvement of AMP-activated protein kinase in thrombin-stimulated interleukin-6 synthesis in osteoblasts. *J Mol Endocrinol.* 2012;49:47-55. IF 3.621
- 9) Doi T, Tokuda H, Matsushima-Nishiwaki R, Cuong NT, Kageyama Y, Iida Y, Kondo A, Akamatsu S, Otsuka T, Iida H, Kozawa O, Ogura S. Effect of antithrombin III on glycoprotein Ib/IX/V activation in human platelets: suppression of thromboxane A2 generation. *Prostag Leukotr Ess.* 2012;87:57-62. IF 1.984
- 10) Tokuda H, Kato K, Kasahara S, Matsushima-Nishiwaki R, Mizuno T, Sakakibara S, Kozawa O. Significant correlation between the acceleration of platelet aggregation and phosphorylation of HSP27 at Ser-78 in diabetic patients. *Int J Mol Med.* 2012;30:1387-1395. IF 1.880
- 11) Kondo A, Otsuka T, Kato K, Natsume H, Kuroyanagi G, Mizutani J, Ito Y, Matsushima-Nishiwaki R, Kozawa O, Tokuda H. AMP-activated protein kinase inhibitor decreases prostaglandin F2 α -stimulated interleukin-6 synthesis through p38 MAP kinase in osteoblasts. *Int J Mol Med.* 2012;30:1487-1492. IF 1.880
- 12) Kondo A, Tokuda H, Kato K, Matsushima-Nishiwaki R, Kuroyanagi G, Mizutani J, Kozawa O, Otsuka T. Rho-kinase negatively regulates thyroid hormone-stimulated osteocalcin synthesis in osteoblasts. *Biochimie.* 2013;95:719-724. IF 3.123
- 13) Osawa Y, Suetsugu A, Matsushima-Nishiwaki R, Yasuda I, Saibara T, Moriwaki H, Seishima M, Kozawa O. Liver acid sphingomyelinase inhibits growth of metastatic colon cancer. *J Clin Invest.* 2013;123:834-843. IF 13.765
- 14) Iida M, Tanabe K, Matsushima-Nishiwaki R, Kozawa O, Iida H. Adenosine monophosphate-activated protein kinase regulates platelet-derived growth factor-BB-induced vascular smooth muscle cell migration. *Arch Biochem Biophys.* 2013;530:83-92. IF 3.043
- 15) Cuong TN, Doi T, Matsushima-Nishiwaki R, Akamatsu S, Kuroyanagi G, Kondo A, Mizutani J, Wada I, Otsuka T, Tokuda H, Kozawa O, Ogura S. Thrombopoietin amplifies ADP-induced HSP27 phosphorylation in human platelets: importance of its pre-treatment. *Int J Mol Med.* 2013;31:1291-1297. IF 1.880
- 16) Kondo A, Otsuka T, Kato K, Matsushima-Nishiwaki R, Kuroyanagi G, Mizutani J, Tokuda H, Kozawa O. AMP-activated protein kinase regulates thyroid hormone-stimulated osteocalcin synthesis in osteoblasts. *Int J Mol Med.* 2013;31:1457-1462. IF 1.880
- 17) Kondo A, Tokuda H, Matsushima-Nishiwaki R, Kato K, Kuroyanagi G, Mizutani J, Fukuoka M, Wada I, Kozawa O, Otsuka T. Unphosphorylated heat shock protein 27 suppresses fibroblast growth factor-2-stimulated vascular endothelial growth factor release in osteoblasts. *Mol Med Rep.* 2013;8:691-695. IF 1.484
- 18) Kondo A, Otsuka T, Matsushima-Nishiwaki R, Kuroyanagi G, Mizutani J, Wada I, Kozawa O, Tokuda H. Inhibition of SAPK/JNK leads to enhanced IL-1-induced IL-6 synthesis in osteoblasts. *Arch Biochem Biophys.* 2013;535:227-233. IF 3.043
- 19) Osawa Y, Hoshi M, Yasuda I, Saibara T, Moriwaki H, Kozawa O. Tumor necrosis factor- α promotes cholestasis-induced liver fibrosis in the mouse through tissue inhibitor of metalloproteinase-1 production in hepatic stellate cells. *PLoS One.* 2013;8:e65251. IF 3.534
- 20) Kageyama Y, Doi T, Akamatsu S, Kuroyanagi G, Kondo A, Mizutani J, Otsuka T, Tokuda H, Kozawa O, Ogura S. Rac regulates collagen-induced HSP27 phosphorylation via p44/p42 MAP kinase in human platelets. *Int J Mol Med.* 2013;32:813-818. IF 1.880

- 21) Kuroyanagi G, Yamada K, Imaizumi T, Mizutani J, Wada I, Kozawa O, Tokuda H, Otsuka T. Leg lymphedema caused by iliopsoas bursitis associated with destruction of a rheumatoid hip joint. *Exp Ther Med*. 2013;6:887-890. IF 0.941
- 22) Kuroyanagi G, Otsuka T, Kondo A, Matsushima-Nishiwaki R, Mizutani J, Kozawa O, Tokuda H. (-)-Epigallocatechin gallate amplifies interleukin-1-stimulated interleukin-6 synthesis in osteoblast-like MC3T3-E1 cells. *Biochimie*. 2013;95:1933-1938. IF 3.123
- 23) Matsushima-Nishiwaki R, Kumada T, Nagasawa T, Suzuki M, Yasuda E, Okuda S, Maeda A, Kaneoka Y, Toyoda H, Kozawa O. Direct association of heat shock protein 20 (HSPB6) with phosphoinositide 3-kinase (PI3K) in human hepatocellular carcinoma: regulation of the PI3K activity. *PLoS One*. 2013;8:e78440. IF 3.534
- 24) Kageyama Y, Doi T, Matsushima-Nishiwaki R, Iida Y, Akamatsu S, Kondo A, Kuroyanagi G, Yamamoto N, Mizutani J, Otsuka T, Tokuda H, Iida H, Kozawa O, Ogura S. Involvement of Rac in thromboxane A₂-induced human platelet activation: regulation of sCD40 ligand release and PDGF-AB secretion. *Mol Med Rep*. 2014;10:107-112. IF 1.484
- 25) Kondo A, Otsuka T, Kuroyanagi G, Yamamoto N, Matsushima-Nishiwaki R, Mizutani J, Kozawa O, Tokuda H. Resveratrol inhibits BMP-4-stimulated VEGF synthesis in osteoblasts: suppression of S6 kinase. *Int J Mol Med*. 2014;33:1013-1018. IF 1.880
- 26) Kuroyanagi G, Tokuda H, Matsushima-Nishiwaki R, Kondo A, Mizutani J, Kozawa O, Otsuka T. Resveratrol suppresses prostaglandin F_{2α}-induced osteoprotegerin synthesis in osteoblasts: inhibition of the MAP kinase signaling. *Arch Biochem Biophys*. 2014;542:39-45. IF 3.043
- 27) Kondo A, Tokuda H, Matsushima-Nishiwaki R, Kuroyanagi G, Yamamoto N, Mizutani J, Kozawa O, Otsuka T. Rho-kinase limits BMP-4-stimulated osteocalcin synthesis in osteoblasts: regulation of the p38 MAP kinase pathway. *Life Sci*. 2014;96:18-25. IF 2.296
- 28) Iida Y, Doi T, Matsushima-Nishiwaki R, Tokuda H, Ogura S, Kozawa O, Iida H. (-)-Epigallocatechin gallate selectively inhibits ADP-stimulated human platelet activation: suppression of HSP27 phosphorylation via p38 MAP kinase. *Mol Med Rep*. 2014;10:1383-1388. IF 1.484
- 29) Nagasawa T, Matsushima-Nishiwaki R, Toyoda H, Matsuura J, Kumada T, Kozawa O. Heat shock protein 20 (HSPB6) regulates apoptosis in human hepatocellular carcinoma cells: direct association with Bax. *Oncol Rep*. 2014;32:1291-1295. IF 2.191
- 30) Tanabe K, Matsushima-Nishiwaki R, Kozawa O, Iida H. Dexmedetomidine suppresses interleukin-1β-induced interleukin-6 synthesis in rat glial cells. *Int J Mol Med*. 2014;34:1032-1038. IF 1.880
- 31) Kuroyanagi G, Mizutani J, Kondo A, Yamamoto N, Matsushima-Nishiwaki R, Otsuka T, Kozawa O, Tokuda H. Suppression by resveratrol of prostaglandin D₂-stimulated osteoprotegerin synthesis in osteoblasts. *Prostag Leukotr Ess*. 2014;91:73-80. IF 1.984
- 32) Iida M, Tanabe K, Kozawa O, Iida H. Differential effects of intravenous anesthetics on PDGF-BB-induced vascular smooth muscle cell migration. *Cell Physiol Biochem*. 2014;33:1827-1837. IF 3.550
- 33) Yamamoto N, Tokuda H, Kuroyanagi G, Mizutani J, Matsushima-Nishiwaki R, Kondo A, Kozawa O, Otsuka T. Regulation by resveratrol of prostaglandin E₂-stimulated osteoprotegerin synthesis in osteoblasts. *Int J Mol Med*. 2014;34:1439-1445. IF 1.880
- 34) Kuroyanagi G, Otsuka T, Yamamoto N, Matsushima-Nishiwaki R, Nakakami A, Mizutani J, Kozawa O, Tokuda H. Downregulation by resveratrol of basic fibroblast growth factor-stimulated osteoprotegerin synthesis through suppression of Akt in osteoblasts. *Int J Mol Sci*. 2014;15:17886-17900. IF 2.339

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：小澤 修，研究分担者：足立政治；科学研究費補助金基盤研究(C)：原発性肝細胞がんの発症・進展における低分子量ストレス蛋白質の役割に関する解析；平成 22-24 年度；3,500 千円(1,500：1,000：1,000 千円)
- 2) 研究代表者：安田一朗，研究分担者：小澤 修，足立政治；学術研究助成基金助成金基盤研究(C)：膵癌に対する Gemcitabine の作用発現における HSP27 の役割；平成 23-25 年度；3,900 千円(1,500：1,400：1,000 千円)
- 3) 研究代表者：田辺久美子，研究分担者：小澤 修；学術研究助成基金助成金基盤研究(C)：全身麻酔薬の中樞神経系に対する脳保護作用の分子機序の解析；平成 23-25 年度；4,100 千円(2,200：1,100：800 千円)
- 4) 研究代表者：赤松 繁，研究分担者：小澤 修；学術研究助成基金助成金基盤研究(C)：過大侵襲に対する凝固線溶系におけるストレス応答の分子基盤の解析；平成 23-25 年度；3,900 千円(1,700：1,100：1,100 千円)
- 5) 研究代表者：大澤陽介；学術研究助成基金助成金若手研究(B)：トリプトファンによる肝脂肪化・脂肪肝炎発症のメカニズムに関する研究；平成 23-24 年度；3,200 千円(1,700：1,500 千円)

- 6) 研究代表者：福岡宗良，研究分担者：水谷 潤，大塚隆信，小澤 修；学術研究助成基金助成金基盤研究(C)：骨代謝全体における低分子量熱ショック蛋白質の役割の検討；平成 24-26 年度；4,000 千円(1,600：1,200：1,200 千円)
- 7) 研究代表者：大澤陽介；有馬・近藤記念医学財団「第 1 回学術奨励賞」：l-Tryptophan-mediated enhancement of susceptibility to nonalcoholic fatty liver disease is dependent on the mammalian target of rapamycin；平成 24 年度；1,000 千円
- 8) 研究代表者：小澤 修，研究分担者：大澤陽介(平成 25 年度)，西脇理英(平成 26-27 年度)；学術研究助成基金助成金基盤研究(C)：低分子量ストレス蛋白質による原発性肝がんの増殖抑制作用の分子基盤の解析；平成 25-27 年度；3,900 千円(1,500：1,200：1,200 千円)
- 9) 研究代表者：田辺久美子，研究分担者：小澤 修；学術研究助成基金助成金基盤研究(C)：血液・脳関門の機能維持からみた中枢神経保護の分子基盤；平成 26-28 年度；3,800 千円(1,500：1,500：800 千円)
- 10) 研究代表者：赤松 繁，研究分担者：小澤 修；学術研究助成基金助成金基盤研究(C)：敗血症の進展における凝固・線溶系と炎症反応のクロストークの分子基盤；平成 26-28 年度；3,700 千円(1,500：1,100：1,100 千円)
- 11) 研究代表者：徳田治彦，研究分担者：小澤 修；学術研究助成基金助成金基盤研究(C)：骨代謝における AMP キナーゼを介するエネルギー調節機構の役割に関する研究；平成 26-28 年度；3,700 千円(1,500：1,100：1,100 千円)

2) 受託研究

- 1) 小澤 修：高齢者の代謝疾患における血小板機能等の病態・診断・治療に関する研究；平成 24 年度；1,500 千円；独立行政法人国立長寿医療研究センター
- 2) 小澤 修：高齢者の代謝疾患における血小板機能等の病態・診断・治療に関する研究；平成 25 年度；1,500 千円；独立行政法人国立長寿医療研究センター
- 3) 小澤 修：高齢者の代謝疾患における血小板機能等の病態・診断・治療に関する研究；平成 26 年度；1,500 千円；独立行政法人国立長寿医療研究センター

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

小澤 修：

- 1) 日本薬理学会評議員(～現在)
- 2) 日本 Shock 学会評議員(～現在)

丹羽雅之：

- 1) 日本薬理学会評議員(～現在)
- 2) 日本炎症・再生学会評議員(～現在)
- 3) 日本臨床薬理学会評議員(～現在)

2) 学会開催

なし

3) 学術雑誌

なし

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

小澤 修：

- 1) 第 27 回日本整形外科学会基礎学術集会ランチョンセミナー(平成 24 年 10 月，名古屋，招待講演「骨

代謝とストレス蛋白質 (HSP) : 特に骨芽細胞における低分子量 HSP27 において」演者)

- 2) 第 7 回日本肝がん分子標的治療研究会(平成 25 年 1 月, 岐阜, 招待講演「肝がんとストレス蛋白質 (HSP : heat shock protein) : 特に低分子量 HSP との関連において」演者)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

なし

10. 報告書

なし

11. 報道

- 1) 大澤陽介 : 「研究室から 大学はいま」肝臓病の新しい治療薬開発 : 岐阜新聞(2012 年 12 月 11 日)

12. 自己評価

評価

私共, 大学教員の使命は “日々遂行している研究の成果を PubMed に載る英文原著論文として公表することである” との観点から, この三年間のアウトプットは 34 報であった。論文の質としての一つの指標であるインパクトファクターの平均値は 2.799 である。この観点からアウトプットの “質” を上げることが必要と思われる。

現状の問題点及びその対応策

我が国において, 一部の大学及び一部の研究施設に予算を集中させている一方, 私共のような大学では運営交付金が毎年削減されており, この先, あと何年走っていけるのか? 一日でも長く走っていられたる状況を続けていきたい。研究を推進する上で最も重要な点は, 日々の研究を一緒に進めてくれる優秀な人材の獲得である。やはり, 研究を遂行していく上で, この一点に懸かっている。この人たちの中から, 将来, 大学および公的研究機関で医学研究を担う研究者が一人でも育成できるよう努力していきたい。

今後の展望

引き続き医学部内外との共同研究を推し進めたいと考えている。現在遂行している私共の研究成果から, 将来有効で安全な薬剤を開発すること (創薬) を目指し, いつの日か患者さんに還元したいと考えている。

(4) 寄生虫学・感染学分野

1. 研究の概要

- 1) 適応免疫応答の特徴である免疫学的記憶現象における記憶 T リンパ球の形成および維持機構の解明
- 2) リーシュマニア感染症における感染病理について宿主側および寄生体側の両面からの分子生物学的な解析
- 3) 宿主免疫応答を修飾・攪乱する旋毛虫由来分子の同定と機能についての分子構造学的な解析
- 4) 肝吸虫感染誘導性胆管がん発がんの分子基盤の解明

2. 名簿

教授： 前川洋一 Yoichi Maekawa
准教授： 長野 功 Isao Nagano
助教： 呉 志良 Zhiliang Wu

3. 研究成果の発表

著書（和文）

- 1) 長野 功, 呉 志良, 高橋優三. 旋毛虫の診断: 宇賀昭二編. 寄生虫学研究材料と方法 2012年版, 名古屋: 三恵社; 2012年: 33-36.
- 2) 長野 功, 呉 志良, 高橋優三. 寄生虫由来組換えタンパク質の大腸菌での作成: 宇賀昭二編. 寄生虫学研究材料と方法 2012年版, 名古屋: 三恵社; 2012年: 121-124.
- 3) 長野 功, 高橋優三, 森田啓之, 清島真理子, 呉 志良, 今井篤志, 高岡 健, 浅野一信. 巧みな体のしくみ—ヒトの生存を脅かす要因と生き残り戦略—(第二版), 名古屋: 三恵社; 2012年: 1-105.
- 4) 呉 志良, 長野 功, 高橋優三. 旋毛虫の採取、および ES 産物を集める方法: 宇賀昭二編. 寄生虫学研究材料と方法 2012年版, 名古屋: 三恵社; 2012年: 19-22.
- 5) 呉 志良, 長野 功, 高橋優三. 旋毛虫の遺伝子診断: 宇賀昭二編. 寄生虫学研究材料と方法 2012年版, 名古屋: 三恵社; 2012年: 29-32.
- 6) 呉 志良, 長野 功, 高橋優三. 免疫組織化学の実際: 宇賀昭二編. 寄生虫学研究材料と方法 2012年版, 名古屋: 三恵社; 2012年: 77-80.
- 7) 呉 志良, 長野 功, チダラ ブンマース, 高橋優三. 学生実習用に長期保存が可能な虫卵標本の作り方: 寄生虫学研究材料と方法 2012年版, 名古屋: 三恵社; 2012年: 97-98.
- 8) 呉 志良, 長野 功, 高橋優三. 寄生虫の genomic DNA の採取: 宇賀昭二編. 寄生虫学研究材料と方法 2012年版, 名古屋: 三恵社; 2012年: 117-120.
- 9) 浅野一信, 呉 志良, 長野 功, 高橋優三, 山下弘高, 稲垣直樹. マウス耳介組織における能動的皮膚アナフィラキシー: 宇賀昭二編. 寄生虫学研究材料と方法 2012年版, 名古屋: 三恵社; 2012年: 59-62.
- 10) チダラ ブンマース, 呉 志良, 長野 功, 高橋優三. 組織における遺伝子発現の検索マイクロレーザーディセクション顕微鏡の使い方: 宇賀昭二編. 寄生虫学研究材料と方法 2012年版, 名古屋: 三恵社; 2012年: 89-90.
- 11) 長野 功, 高橋優三, 森田啓之, 清島真理子, 呉 志良, 今井篤志, 高岡 健, 浅野一信. 巧みな体のしくみ—ヒトの生存を脅かす要因と生き残り戦略—(第三版), 名古屋: 三恵社; 2013年: 1-109.
- 12) 長野 功, 高橋優三, 森田啓之, 清島真理子, 呉 志良, 今井篤志, 高岡 健, 浅野一信. 巧みな体のしくみ—ヒトの生存を脅かす要因と生き残り戦略—(第四版), 名古屋: 三恵社; 2014年: 1-110.

著書（欧文）

- 1) Takahashi Y, Nagano I, Wu Z, Boonmars T. Functional Morphology of *Trichinella*. Aichi: Sankeisha Co., Ltd.; 2012:1-60.
- 2) Wu Z, Boonmars T, Nagano I, Boonjaraspinyo S, Pinlaor S, Pairojku S, Chamgramo Y, Takahashi Y, Maekawa Y. Biomarkers of opisthorchiasis-associated cholangiocarcinoma. In: Tokoro M, Uga S, eds. Parasitic Zoonoses in Asian-Pacific Regions 2012, Dankeisha Co., Ltd.; 2013:68-74.
- 3) Asano K, Boonjaraspinyo S, Nagano I, Wu Z, Takahashi Y. Newborn larvae of *Trichinella spiralis* have immature stichosome with mature granules. In: Tokoro M, Uga S, eds. Parasitic Zoonoses in Asian-Pacific Regions 2012, Dankeisha Co., Ltd.; 2013:60-61.
- 4) Wu Z, Mochizuki K, Nagano I, Asano K, Takahashi Y. Identification and diagnosis of *Acanthamoeba* with random amplified polymorphism DNA and 18S rRNA sequences-based PCR. In: Tokoro M, Uga S, eds. Parasitic Zoonoses in Asian-Pacific Regions 2012, Dankeisha Co., Ltd.; 2013:52-53.

総説（和文）

なし

総説（欧文）

なし

原著 (和文)

- 1) 大家進也, 小森伸也, 高橋伸通, 堅田利彦, 望月清文, 堀 暢英, 石橋康久, 大楠清文, 吳 志良, 高橋優三, 末松寛之. 岐阜大学およびその関連病院におけるアカントアメーバ角膜炎の 12 症例, あたらしい眼 2012 年 ; 29 巻 : 117-122.

原著 (欧文)

- 1) Wu Z, Boonmars T, Nagano I, Boonjaraspinyo S, Pinlaor S, Pairojkul C, Chamgramol Y, Takahashi Y. Alteration of galectin-1 during tumorigenesis of *Opisthorchis viverrini* infection-induced cholangiocarcinoma and its correlation with clinicopathology. *Tumor Biol.* 2012;33:1169-1178. IF 2.840
- 2) Boonjaraspinyo S, Boonmars T, Wu Z, Loilome W, Sithithaworn P, Nagano I, Pinlaor S, Yongvanit P, Nielsen PS, Pairojkul C, Khuntikeo N. Platelet-derived growth factor may be a potential diagnostic and prognostic marker for cholangiocarcinoma. *Tumor Biol.* 2012;33:1785-1802. IF 2.840
- 3) Wonkchalee O, Boonmars T, Aromdee C, Laummaunwai P, Khunkitti W, Vaeteewoottacharn K, Sriraj P, Aukkanimart R, Loilome W, Chamgramol Y, Pairojkul C, Wu Z, Juasook A, Sudsarn P. Anti-inflammatory, antioxidant and hepatoprotective effects of *Thunbergia laurifolia* Linn. on experimental opisthorchiasis. *Parasitol Res.* 2012;111:353-359. IF 2.327
- 4) Fujioka K, Kajita K, Wu Z, Hanamoto T, Ikeda T, Mori I, Okada H, Yamauchi M, Uno Y, Morita H, Nagano I, Takahashi Y, Ishizuka T. Dehydroepiandrosterone Reduces Preadipocyte Proliferation via Androgen Receptor. *Am J Physiol-Endoc M.* 2012;302:E694-704. IF 4.088
- 5) Boonjaraspinyo S, Wu Z, Boonmars T, Kaewkes S, Loilome W, Sithithaworn P, Nagano I, Takahashi Y, Yongvanit P, Bhudhisawasdi V. Overexpression of PDGFA and its receptor during carcinogenesis of *Opisthorchis viverrini*-associated cholangiocarcinoma. *Parasitol Int.* 2012;61:145-150. IF 2.111
- 6) Wonkchalee O, Boonmars T, Kaewkes S, Chamgramol Y, Aromdee C, Wu Z, Juasook A, Sudsarn P, Boonjaraspinyo S, Pairojkul C. Comparative studies on animal models for *Opisthorchis viverrini* infection: host interaction through susceptibility and pathology. *Parasitol Res.* 2012;110:1213-1223. IF 2.327
- 7) Juasook A, Boonmars T, Kaewkes S, Loilome W, Veteewuthacharn K, Wu Z, Yongvanit P. Anti-inflammatory effect of prednisolone on the growth of human liver fluke in experimental opisthorchiasis. *Parasitol Res.* 2012;110:2271-2279. IF 2.327
- 8) Boonjaraspinyo S, Boonmars T, Kaewkes S, Laummaunwai P, Pinlaor S, Loilome W, Yongvanit P, Wu Z, Puapairoj A, Bhudhisawasdi V. Down-regulated expression of HSP70 in correlation with clinicopathology of cholangiocarcinoma. *Pathol Oncol Res.* 2012;18:227-237. IF 1.806
- 9) Tantrawatpan C, Intapan PM, Thanchomnang T, Lulitanond V, Boonmars T, Wu Z, Morakote N, Maleewong W. Differential detection of *Trichinella papuae*, *T. spiralis* and *T. pseudospiralis* by real-time fluorescence resonance energy transfer PCR and melting curve analysis. *Vet Parasitol.* 2012;185:210-215. IF 2.545
- 10) Wu Z, Nagano I, Takahashi Y. *Trichinella*: What is going on during nurse cell formation? *Vet Parasitol.* 2013;194:155-159. IF 2.545
- 11) Wu Z, Nagano I, Asano K, Liu MY, Takahashi Y. Differential immunological responses induced by infection with female muscle larvae and newborn larvae of *Trichinella pseudospiralis*. *Vet Parasitol.* 2013;194:217-221. IF 2.545
- 12) Juasook A, Boonmars T, Wu Z, Loilome W, Veteewuthacharn K, Namwat N, Sudsarn P, Wonkchalee O, Sriraj P, Aukkanimart R. Immunosuppressive Prednisolone Enhances Early Cholangiocarcinoma in Syrian Hamsters with Liver Fluke Infection and Administration of N-nitrosodimethylamine. *Pathol Oncol Res.* 2013;19:55-62. IF 1.806
- 13) Wonkchalee N, Boonmars T, Laummaunwai P, Aromdee C, Hahnvajanawong C, Wu Z, Sriraj P, Aukkanimart R, Chamgramol Y, Pairojkul C, Juasook A, Sudsarn P. A combination of praziquantel and the traditional medicinal plant *Thunbergia laurifolia* on *Opisthorchis viverrini* infection and cholangiocarcinoma in a hamster model. *Parasitol Res.* 2013;112:4211-4219. IF 2.327
- 14) Okada H, Ikeda T, Kajita K, Mori I, Hanamoto T, Fujioka K, Yamauchi M, Usui T, Takahashi N, Kitada Y, Taguchi K, Uno Y, Morita H, Wu Z, Nagano I, Takahashi Y, Kudo T, Furuya K, Yamada T, Ishizuka T. Effect of nematode *Trichinella* infection on glucose tolerance and status of macrophage in obese mice. *Endocr J.* 2013;60:1241-1249. IF 2.019
- 15) Okumura Y, Yamauchi A, Nagano I, Itoh M, Hagiwara K, Takahashi K, Uezato H, Maeda M, Seishima M. A case of mucocutaneous leishmaniasis diagnosed by serology. *J Dermatol.* 2014;41:739-742. IF 2.354
- 16) Wu Z, Boonmars T, Nagano I, Loilome W, Yongvanit P, Khuntikeo N, Nielsen PS, Pairojkul C, Takahashi Y, Maekawa Y. Milk fat globule epidermal growth factor 8 serves a novel biomarker of opisthorchiasis-associated cholangiocarcinoma. *Tumor Biol.* 2014;35:1985-1995. IF 2.840

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者: 前川洋一; 学術研究助成基金助成金基盤研究(C): メモリーTリンパ球の生存/維持を制御する Notch シグナルの標的同一とその調節; 平成 24-26 年度; 4,100 千円(1,400 : 1,400 : 1,300)

千円)

- 2) 研究代表者：前川洋一；先進医薬研究振興財団第 31 回血液医学分野一般助成：免疫制御における樹状細胞 Notch システムの役割；平成 24 年度；1,000 千円
- 3) 研究代表者：前川洋一；上原記念生命科学財団研究推進特別奨励金：リーシュマニア原虫病原性発現機構の解明；平成 24 年度；4,000 千円
- 4) 研究代表者：前川洋一，研究分担者：武田 純，竹内 保；研究科長・医学部長裁量経費(多分野共同研究)：2 型糖尿病における CD8 陽性 T リンパ球内転写制御因子 Runx3 の役割；平成 24 年度；2,000 千円
- 5) 研究代表者：長野 功，研究分担者：呉 志良，鎌足雄司；学術研究助成基金助成金基盤研究(C)：旋毛虫分泌タンパク質による免疫抑制作用の免疫学的小および構造生物学的解析；平成 23-25 年度；5,460 千円(2,470：1,690：1,300 千円)
- 6) 研究代表者：呉 志良，研究分担者：長野 功；学術研究助成基金助成金基盤研究(C)：タイ肝吸虫感染による胆管癌の新規腫瘍マーカーの同定及び検出系の確立；平成 24-26 年度；4,100 千円(1,100：1,600：1,400 千円)
- 7) 研究代表者：前川洋一；持田記念医学薬学振興財団平成 25 年度研究助成金 領域 3 免疫アレルギー炎症に関する研究：メモリー T 細胞維持機構を支える Notch シグナルシステムの全容解明；平成 25 年度；3,000 千円
- 8) 研究代表者：長野 功，研究分担者：前川洋一，呉 志良，鎌足雄司；学術研究助成基金助成金基盤研究(C)：旋毛虫感染による宿主の即時型アレルギー抑制機構の解明；平成 26-28 年度；5,070 千円(1,950：1,820：1,300 千円)
- 9) 研究代表者：高島康弘，研究分担者：前川洋一；学術研究助成基金助成金基盤研究(B)：バングラデシュ農村における流産原因となる人畜共通感染症の挙動；平成 26-29 年度；分担額 500 千円(総額 4,200 千円)(500 千円：未定：未定：未定)

2) 受託研究

なし

3) 共同研究

- 1) 研究代表者：前川洋一；長崎大学熱帯医学研究所 熱帯医学研究拠点一般共同研究：内蔵型リーシュマニア症の臓器内感染拡大様式の解明；平成 26 年度；400 千円

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

前川洋一：

- 1) 日本寄生虫学会評議員(～現在)

長野 功：

- 1) 日本寄生虫学会評議員(～現在)
- 2) 日本感染症学会評議員(～現在)

呉 志良：

- 1) International Congress for Trichinellosis；Active Member(～現在)

2) 学会開催

- 1) 第 7 回寄生虫感染免疫研究会(平成 26 年 3 月，高山)

3) 学術雑誌

呉 志良：

- 1) Journal of Bacteriology and Parasitology；編集委員(～現在)

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

前川洋一:

- 1) The 11 the Awaji International Forum on Infection and immunity(2012.09, 淡路, 教育講演「II Parasitology」演者)
- 2) 第41回日本免疫学会学術集会(平成24年12月, 神戸, 座長)
- 3) 第82回日本寄生虫学会大会(平成25年3月, 東京, 座長)
- 4) 第83回日本寄生虫学会大会(平成26年3月, 松山, 座長)
- 5) 第70回日本寄生虫学会西日本支部大会(平成26年10月, 神戸, 座長)
- 6) 第43回日本免疫学会学術集会(平成26年12月, 京都, 座長)

呉 志良:

- 1) RGJ-PhD Congress XV(2014年5月, Pattaya, Thailand, 招待講演)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

なし

10. 報告書

- 1) 長野 功: 学術研究助成基金助成金基盤研究(C): 旋毛虫分泌タンパク質による免疫抑制作用の免疫学的および構造生物学的解析報告書(平成26年6月)

11. 報道

- 1) 呉 志良: 「寄生虫の善玉役を生かせ」: 岐阜新聞(2013年12月3日朝刊)

12. 自己評価

評価

新任教授が着任し分野が新たな体制となったため業績を出すまでに一定の準備期間が必要であった。現在成果がまとまりつつあるため、徐々に業績を出すことができるようになってきている。

医学教育においては従来不十分であった基礎免疫学について学習できるよう担当テュートリアルコースの内容の一部変更を行った。

現状の問題点及びその対応策

現在、前任教授時代の研究テーマから新規研究テーマに移行しているが、新たな研究を始めるための各種障壁があるため完全に移行が完了しているわけではない。研究の発展のためにはより一層の人的および研究環境の充実を図る必要がある。スタッフ個々人のさらなる努力を求めるとともに、大学院生や研究生など研究を遂行する人的補給にも務める必要がある。

医学教育については基礎免疫学に関して未だ不十分であると考えている。担当テュートリアルコース内の改編を行い免疫学の学習時間を増やす。

今後の展望

寄生虫感染における免疫応答には多細胞生物対多細胞生物でしか観察されない興味深い現象が未解明のまま残されていると考えられる。生物学的あるいは基礎医学的に興味深い現象の本質を追求することはより実学的・実践的な領域にブレイクスルーを齎すと考えられるため、新体制による新規研究テーマへの移行を確実に実施し成果を上げていく。

医学教育については担当テュートリアルコース内の改編を行い基礎免疫学の学習をより充実させる予定である。

(5) 遺伝発生学分野

1. 研究の概要

遺伝発生分野の研究目的は生命を遺伝と発生の視点から解明し、さらにそれを疾患の解明と診断治療に応用すること、およびこの目的を遂行できる人材を育成することである。

研究面では、アレルギー、先天性免疫不全症、先天性代謝異常、癌、ヒトの発生、分化、神経などについて、分子遺伝学的に解析している。基礎研究において、幾つかの分野に絞ることにより、奥深い研究が進められている。アレルギー、免疫不全、代謝異常の各分野で幾つかの疾患の病因遺伝子が当講座で世界に先駆けてクローニングされ、世界をリードする成果が幾つも輩出されている。各テーマに共通することは、各分野の疾患の病因と病態の解明であり、その成果を診断・治療・予知・予防に適応していくことである。さらにこれらを通じて、ヒトの遺伝・発生、成長・発達の新たな解明につなげている。2004年春より新たに遺伝学発生分野として独立したのを機会に、さらに研鑽に努めている。ヒトの出生前期の遺伝・発生及び、出生後の成長・発達における生理的かつ病的状態を対象としている。

また、2003年には日本人類遺伝学会新制度による研修指定を獲得した。病院においては2014年10月に遺伝子診療部が設立された。近年、遺伝性疾患は診断、治療のみでなく、カウンセリング、インフォームドコンセント、心理的ケア、社会的サポートを含めた総合的フォローアップの重要性が叫ばれている。遺伝病診療がなされ、定期的な症例カンファレンスを開催し、より良い遺伝診療を目指して活動している。その内容は主に、患者およびクライアントに対する情報提供、カウンセリング方針の検討、臨床遺伝に関する最新知見、諸課題についての情報意見交換、臨床各科の相談への対応などである。

2. 名簿

教授(併任)： 深尾敏幸 Toshiyuki Fukao
臨床准教授(併任)： 松井永子 Eiko Matsui

3. 研究成果の発表

小児病態学参照

4. 研究費獲得状況

小児病態学参照

5. 発明・特許出願状況

小児病態学参照

6. 学会活動

小児病態学参照

7. 学会招待講演、招待シンポジスト、座長

小児病態学参照

8. 学術賞等の受賞状況

小児病態学参照

9. 社会活動

小児病態学参照

10. 報告書

小児病態学参照

11. 報道

小児病態学参照

12. 自己評価

評価

総合的にはそれなりの評価はできる。今後も引き続き研究成果と業績の更なる維持, 向上が望まれる。

現状の問題点及びその対応策

小児病態学と共同している。全領域をカバーする小児科の臨床からわき出る疑問とテーマの全てに着手することは困難であるが、アレルギー・免疫・代謝に加えて環境や感染と遺伝子のような新たなプロジェクトを立ち上げて進めている。

今後の展望

現在のテーマと方向性の更なる充実と拡大。さらに、これらの成果を医療に直接的に応用する

(6) 内分泌代謝病態学分野

1. 研究の概要

日本人2型糖尿病の主たる病態は、膵ラ氏島の機能不全である。肥満など不適切な生活習慣に基づくインスリン抵抗性が加わることによって、膵β細胞のインスリン分泌障害が惹起される。さらに、膵α細胞のグルカゴン分泌の調節機構にも障害が生じて血糖上昇に寄与する。血糖コントロールの破綻状態を知るためには、膵ラ氏島の機能不全だけではなく、同機能に関与する臓器連関の機能障害も同時に理解することが重要である。したがって、糖代謝の恒常性の中心に位置する膵島と肝臓を対象とした包括的研究が求められる。

当教室の研究戦略として、若年糖尿病の感受性遺伝子とそのコード蛋白機能を解析し、第一に膵β細胞のインスリン分泌不全の発症機序の解明を試みてきた。特に、日本人2型糖尿病のモデル疾患MODYのコード蛋白であるHNF転写因子群を中心に研究を進めてきた。一方、同じくHNF転写因子や共役因子を発現する肝臓は膵島と並んで血糖コントロールにおいて中心的な役割を果たすのみならず、脂質代謝の中心臓器でもある。一連のHNF転写因子群は肝の脂質代謝も同時に制御することから、両組織におけるHNF下流分子の解析は病態の表現型を理解することのみならず、新規の疾患感受性素因の同定においても有用である。中でも、分泌蛋白の解析は臨床応用に直結し、治療薬の創薬基盤にもなると期待される。

2. 名簿

教授：	武田 純	Jun Takeda
教授(併任)：	山本眞由美	Mayumi Yamamoto
臨床教授(併任)：	堀川幸男	Yukio Horikawa
准教授：	諏訪哲也	Tetsuya Suwa
講師(併任)：	飯塚勝美	Katsumi Iizuka
講師：	川地慎一	Shin-ichi Kawachi
臨床講師：	塩谷真由美	Mayumi Enya
臨床講師：	廣田卓男	Takuo Hirota
臨床講師：	橋本健一	Ken-ichi Hashimoto
医員：	丹羽啓之	Hiroyuki Niwa
医員：	服部泰輔	Taisuke Hattori
医員：	水野正巳	Masami Mizuno
医員：	村松奈々恵	Nanae Muramatu
医員：	平手祐子	Yuko Hirate
医員：	藤澤太郎	Taro Fujisawa
医員：	山本友理	Yuri Yamamoto

3. 研究成果の発表

著書 (和文)

- 1) 塩谷真由美, 堀川幸男, 武田 純. 2章網膜症の成因・病態生理・診断 遺伝: ヴィジュアル糖尿病臨床のすべて 糖尿病網膜症のすべて, 東京: 中山書店; 2012年: 78-84.
- 2) 堀川幸男. 遺伝子異常が同定されている糖尿病: 最新臨床糖尿病学 上 - 糖尿病学の最新動向 -, 大阪: 日本臨床社; 2012年; 70巻増刊号3: 408-413.
- 3) 富田礼子, 堀川幸男, 武田 純. インスリン分泌-我が国と外国: 糖尿病予防と治療のエビデンス, 東京: 中山書店; 2012年: 94-99.
- 4) 堀川幸男, 武田 純. GLP-1受容体作動薬と他経口剤の併用療法: 糖尿病治療薬のコンビネーションセラピー, 大阪: 医薬ジャーナル社; 2012年: 191-198.
- 5) 堀川幸男, 塩谷真由美, 廣田卓二, 飯塚勝美, 諏訪哲也, 橋本健一, 丹羽啓之, 武田 純. インクレチン関連薬と実臨床-DPP4阻害薬の使い方: インクレチンインパクト, 東京: 日経メディカル開発; 2014年: 59-114.

著書 (欧文)

- 1) Iizuka K. The Feedforward and Feedback Loop between ChREBP and its Target Genes in the Regulation of Glucose and Lipid Metabolism. In: Leon V Berhardr ed. Advances in medicine and Biology, Volume 63. Nova Science Publishers, Inc; 2013:155-168.

総説 (和文)

- 1) 山本眞由美. 留学生の健康管理支援について, CAMPUS HEALTH 2012年; 49巻: 49-52.

- 2) 武田 純. 患者指導から病診連携まで「オール岐阜」による糖尿病対策活動, 病院新時代 Medical Network 2012年; 57巻: 2-7.
- 3) 武田 純. Doctor's view vol.28 糖尿病と遺伝について(その4), 岐阜の国保 2012年; 304巻: 20-21.
- 4) 武田 純. 岐阜大学医学部附属病院 医療連携センターの役割, 岐阜大学医学部 記念会館だより 2012年; 98巻: 4-6.
- 5) 堀川幸男, 武田 純. インクレチン関連薬の体重への影響 特集インクレチン療法, 月刊糖尿病 2012年; 4号: 131-141.
- 6) 諏訪哲也. サブクリニカルクッシング症候群と副腎不全, 岐阜県医師会医学雑誌 2012年; 25巻: 29-32.
- 7) 武田 純. 糖尿病チーム医療の重要性ーコメディカルスタッフの役割ー, メディカル・ビューポイント 2013年; 34巻: 1-2.
- 8) 堀川幸男. 岐阜糖尿病地域連携パスについてーシンプルな統一型パスが一番ー, DM Ensemble 2013年; 2巻: 23-27.
- 9) 塩谷真由美, 堀川幸男. 次世代シーケンサーを用いた糖尿病遺伝子同定戦略, Diabetes Frontier 2013年; 24巻: 321-326.
- 10) 堀川幸男. 脂質異常とインスリン分泌不全-β細胞の脂肪毒性-, Diabetes Frontier 2013年; 24巻: 396-401.
- 11) 飯塚勝美, 武田 純. グルカゴン受容体とグルコースによる発現調節-転写因子ChREBPを介した経路, 生体の科学 2013年; 64巻: 406-407.
- 12) 堀川幸男. 若年糖尿病 MODYにおける遺伝的背景と子宮内環境, 糖尿病と妊娠 2014年; 14巻: 51-54.
- 13) 武田 純. 糖尿病の地域医療連携~岐阜モデルのインフラ整備~, UBUNE 2014年; 21巻: 3.
- 14) 武田 純. チーム医療における糖尿病療養指導師の役割, 糖尿病の最新治療 2014年; 5巻: 92-96.
- 15) 諏訪哲也. 副腎不全, 臨床雑誌 2014年; 113巻: 1597-1598.
- 16) 武田 純. 座談会 糖尿病チーム医療ー糖尿病日常診療に関する工夫ー, 糖尿病診療マスター 2014年; 12巻(増刊号): S1-S8.
- 17) 武田 純. 学会レポート 第29回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会, 糖尿病の最新治療 2014年; 5巻: 164.
- 18) 武田 純. 第332回医科研究会報告 食後血糖管理のために「食べる」を考え直す, 岐阜県保険医新聞 2014年; 437号: 5.
- 19) 武田 純. 【巻頭言】炭水化物を考える, 日本糖尿病・妊娠学会会報 2014年; 16巻: 1.
- 20) 武田 純. 地域の課題を考えた新しい医療連携のかたち(第4回 糖尿病地域連携講演会 報告), 高山赤十字病院 地域医療連携だより やまびこ 2014年; 9号: 4.
- 21) 武田 純. 学会レポート 第29回糖尿病・妊娠学会年次学術集会, 糖尿病の最新治療 2014年; 5巻: 164.

総説 (欧文)

- 1) Iizuka K. Recent progress on the role of ChREBP in glucose and lipid metabolism. *Endocr J.* 2013;60:543-555.

原著 (和文)

- 1) 田中生雅, 佐渡忠洋, 磯村有希, 加納亜紀, 臼井るり子, 高井郁恵, 清水克時, 山本眞由美. 大学生の健康への取り組みと QOL, *CAMPUS HEALTH* 2012年; 49巻: 258-260.
- 2) 佐渡忠洋, 田中生雅, 磯村有希, 宮地幸雄, 臼井るり子, 高井郁恵, 加納亜紀, 清水克時, 山本眞由美. 回答方法の変化が UPI 得点に与える影響についての検討, *CAMPUS HEALTH* 2012年; 49巻: 268-270.
- 3) 磯村有希, 鶴見広美, 田中生雅, 佐渡忠洋, 臼井るり子, 高井郁恵, 加納亜紀, 宮地幸雄, 清水克時, 山本眞由美. 大学生の AIDS/HIV に関する知識の実態調査, *CAMPUS HEALTH* 2012年; 49巻: 408-410.
- 4) 佐渡忠洋, 鈴木 壯, 田中生雅, 山本眞由美. バウムの描画プロセスに関する研究: バウムはどこから描かれ, 幹はどのように構成されるのか, *臨床心理身体運動学研究* 2012年; 14巻: 59-68.
- 5) 佐渡忠洋, 伊藤宗親, 田中生雅, 山本眞由美. 日本におけるロールシャッハ法黎明期の研究の特徴, *岐阜大学カリキュラム開発研究* 2012年; 29巻 別冊: 24-38.
- 6) 佐渡忠洋, 田口多恵, 伊藤宗親, 田中生雅, 山本眞由美. 本邦におけるロールシャッハ法に関する文献一覧ー1959年までの黎明期ー, *岐阜大学カリキュラム開発研究* 2012年; 29巻 別冊: 39-45.
- 7) 田中生雅, 佐渡忠洋, 山本眞由美. 大学でのメンタルヘルスに係るトラブルとリスク管理上の課題, *愛知教育大学保健環境センター紀要* 2012年; 11巻: 35-39.
- 8) 吉田 敏, 山本眞由美. ヒト顔面皮膚の *in situ* 赤外スペクトル分析による代謝的状態の診断, *生体医工学* 2012年; 50巻: 390.
- 9) 加納亜紀, 松永美紀, 田中生雅, 西尾彰泰, 佐渡忠洋, 磯村有希, 臼井るり子, 邦 千富, 榎原 愛, 堀田容子, 山本眞由美. 唾液中コルチゾール濃度測定を用いた大学女性職員のストレス調査の試み, *CAMPUS HEALTH* 2013年; 50巻: 289-291.
- 10) 磯村有希, 田中生雅, 西尾彰泰, 佐渡忠洋, 臼井るり子, 邦 千富, 榎原 愛, 堀田容子, 松永美紀, 加納亜紀, 宮地幸雄, 山本眞由美. 大学生の喫煙と飲酒に関する知識と認識の実態調査, *CAMPUS HEALTH* 2013年; 50巻: 383-385.
- 11) 田中生雅, 三宅恵子, 松井真一, 松藤淑美, 佐渡忠洋, 磯村有希, 加納亜紀, 林 正子, 山本眞由美. 岐阜大学女性研究者支援「メンター制度」取組と課題, *CAMPUS HEALTH* 2013年; 50巻: 397-399.
- 12) 佐渡忠洋, 田中生雅, 西尾彰泰, 磯村有希, 加納亜紀, 臼井るり子, 松永美紀, 榎原 愛, 邦 千富, 堀田容

- 子, 山本眞由美. BMI と自我強度尺度および UPI との関連についての検討, *CAMPUS HEALTH* 2013 年; 50 巻: 513-515.
- 13) 山本眞由美. 英国大学保健管理協会(Student Health Association) 第 64 回年次集会に参加して, *CAMPUS HEALTH* 2013 年; 50 巻: 231-235.
- 14) 吉川弘明, 山本眞由美, 足立由美, 山縣然太郎. 妊娠出産の視点からの大学生の健康支援の必要性 全国大学保健管理施設の調査, *日本公衆衛生学会総会抄録集* 2013 年; 72 巻: 361.
- 15) 山本眞由美, 吉川弘明. 日本, 米国, 英国における大学保健管理, *CAMPUS HEALTH* 2013 年; 50 巻: 141-195.
- 16) 岡安伸二, 堀 聡納, 北市清幸, 諏訪哲也, 堀川幸男, 山本眞由美, 武田 純, 伊藤善規. メトホルミン塩酸塩による下痢発現のリスク要因の解析と下痢予防のための対策立案, *医薬ジャーナル* 2013 年; 49 巻: 1533-1540.
- 17) 山本眞由美. 禁煙のためのポピュレーションアプローチ, *呼吸* 2014 年; 33 巻: 248-251.
- 18) 山本眞由美. 生活習慣病・メタボリック症候群, *CAMPUS HEALTH* 2014 年; 51 巻: 27-32.
- 19) 加納亜紀, 松永美紀, 西尾彰泰, 佐渡忠洋, 磯村有希, 臼井るり子, 高井郁恵, 宮地幸雄, 邦 千富, 堀田容子, 山本眞由美. 大学教職員における感染症 4 種抗体価の検討, *CAMPUS HEALTH* 2014 年; 51 巻: 256-258.
- 20) 山本眞由美. 2013 年米国大学保健管理協会年次集会に参加して, *CAMPUS HEALTH* 2014 年; 51 巻: 233-238.
- 21) 武田 純. 生活習慣病の予防のために「食べる」を考える, *CAMPUS HEALTH* 2014 年; 51 巻: 61-64.
- 22) 西尾彰泰, 佐渡忠洋, 加納亜紀, 磯村有希, 臼井るり子, 高井郁恵, 邦 千富, 堀田容子, 松永美紀, 浅野千保, 加藤義弘, 安藤和子, 河田紀子, 齊藤さおり, 田中浩子, 塩内美香, 片岡祐美, 山本眞由美. 岐阜県下大学生の SOC(Sense of Coherence)に関する実態調査, *CAMPUS HEALTH* 2014 年; 51 巻: 527-529.
- 23) 佐渡忠洋, 西尾彰泰, 磯村有希, 加納亜紀, 臼井るり子, 松永美紀, 高井郁恵, 宮地幸雄, 邦 千富, 堀田容子, 山本眞由美. 大学生の夢見に関する研究調査-夢見頻度と質問紙との関連-, *CAMPUS HEALTH* 2014 年; 51 巻: 572-574.
- 24) 磯村有希, 西尾彰泰, 佐渡忠洋, 加納亜紀, 臼井るり子, 松永美紀, 高井郁恵, 宮地幸雄, 邦 千富, 堀田容子, 山本眞由美. 教員による障害学生支援のニーズ実態調査の報告, *CAMPUS HEALTH* 2014 年; 51 巻: 578-580.
- 25) 山本眞由美, 西尾彰泰, 吉川弘明, 中川 克, 林多喜王, 佐藤 武, 河邊博史, 森山敏樹, 鈴木眞理, 馬場久光, 鎌野 寛, 大塚盛男, 富樫 整, 立身政信. 全国大学保健管理協会(JUHA)と米国大学保健管理協会(ACHA)との交流経過報告, *CAMPUS HEALTH* 2014 年; 51 巻: 584-586.
- 26) 山本眞由美. 生涯健康の基礎を築く学校保健活動, *東海学校保健研究* 2014 年; 38 巻: 1-2.

原著 (欧文)

- 1) Iizuka K, Tomita R, Takeda J, Horikawa Y. Rat glucagon receptor mRNA is directly regulated by glucose through transactivation of the carbohydrate response element binding protein. *Biochem Biophys Res Commun*. 2012;417:1107-1112. IF 2.281
- 2) Iizuka K, Tomita R, Horikawa Y, Takeda J. Normalization of fasting hyperglycemia is beneficial for successful introduction of small amount of the GLP-1 analog liraglutide in an obese patient with type 2 diabetes mellitus. *Diabetol Int*. 2012;3:61-64.
- 3) Murase H, Suzuki E, Tajima Y, Hayashi K, Nakamura T, Noritake N, Takeda J. Associations of plasma von Willebrand factor ristocetin cofactor activity and 5-hydroxyindole acetic acid concentrations with blood flow in lower-leg arteries in Japanese type 2 diabetic patients with normal ankle-brachial index. *J Diabetes Complications*. 2012;26:113-117. IF 1.925
- 4) Iizuka K, Tomita R, Horikawa Y, Takeda J. Effectiveness of the glucagon test in estimating islet function for liraglutide treatment in a lean diabetic patient with impaired insulin response to glucose. *Diabetol Int*. 2012;3:103-108.
- 5) Okayasu S, Kitaichi K, Hori A, Suwa T, Horikawa Y, Yamamoto M, Takeda J, Itoh Y. The evaluation of risk factors associated with adverse drug reactions by metformin in type 2 diabetes mellitus. *Biol Pharm Bull*. 2012;35:933-937. IF 1.778
- 6) Iizuka K, Tomita R, Horikawa Y, Takeda J. A case of glycemic instability and insulin allergy due to anti-insulin antibodies in a patient with type 2 diabetes. *Diabetol Int*. 2012;3:233-238.
- 7) Ido-Kitamura Y, Sasaki T, Kobayashi M, Kim HJ, Lee YS, Kikuchi O, Yokota-Hashimoto H, Iizuka K, Accili D, Kitamura T. Hepatic FoxO1 integrates glucose utilization and lipid synthesis through regulation of chrebp O-glycosylation. *PLOS ONE*. 2012;7:e47231. IF 3.534
- 8) Hamaguchi M, Takeda N, Kojima T, Ohbora A, Kato T, Satui H, Fukui M, Nagata C, Takeda J. Identification of individuals with non-alcoholic fatty liver disease by the diagnostic criteria for the metabolic syndrome. *World J Gastroenterol*. 2012;18:1508-1516. IF 2.433
- 9) Ulzii-Orshikh L, Hirai I, Niki M, Nakata A, Yoshinaga A, Yamamoto A, Yamamoto M, Toyoshima H, Kawakami F, Matsuura N, Yamamoto Y. Fecal carriage of CTX-M β -lactamase-producing Enterobacteriaceae in nursing homes in the Kinki region of Japan. *Infection and Drug Resistance*. 2013;6:67-70.

- 10) Yoshida S, Yoshida M, Yamamoto M, Takeda J. Optical screening of diabetes mellitus using non-invasive Fourier-transform infrared spectroscopy technique for human lip. *J Pharmaceut Biomed.* 2013;76:169-176. IF 2.829
- 11) Kawamoto R, Nazir A, Kameyama A, Ichiomiya T, Yamamoto K, Tamura S, Yamamoto M, Hayamizu S, Kinoshita Y. Hidden Markov model for analyzing time-series health checkup data. *Stud Health Technol Inform.* 2013;192:491-495.
- 12) Mune T, Suwa T, Morita H, Isomura Y, Takada N, Yamamoto Y, Hayashi M, Yamakita N, Sasaki A, Takeda N, Takeda J, White PC, Kaku K. Longer HSD11B2 CA-repeat in impaired glucose tolerance and type 2 diabetes. *Endocr J.* 2013;60:671-678. IF 2.019
- 13) Mune T, Morita H, Takada N, Yamamoto Y, Isomura Y, Suwa T, Takeda J, White PC, Kaku K. HSD11B2 CA-repeat and sodium balance. *Hypertens Res.* 2013;36:614-619. IF 2.936
- 14) Iizuka K, Wu W, Horikawa Y, Saito M, Takeda J. Feedback looping between ChREBP and PPAR α in the regulation of lipid metabolism in brown adipose tissues. *Endocr J.* 2013;60:1145-1153. IF 2.019
- 15) Iizuka K, Wu W, Horikawa Y, Takeda J. Role of glucose-6-phosphate and xylulose-5-phosphate in the regulation of glucose-stimulated gene expression in the pancreatic β cell line, INS-1E. *Endocr J* 2013;60:473-482. IF 2.019
- 16) Nishimura H, Iizuka K, Takeda J. Protamine-containing insulin but not analog insulin and duration of insulin use are risk factors for the production of insulin autoantibodies in insulin-treated patients with diabetes mellitus. *Endocr J.* 2014;61:635-640. IF 2.019
- 17) Hattori T, Iizuka K, Horikawa Y, Takeda J. LHR-1 heterozygous knockout mice are prone to mild obesity. *Endocr J.* 2014;61:471-480. IF 2.019
- 18) Horikawa Y, Enya M, Fushimi N, Takeda J. Screening of diabetes of youth for hepatocyte nuclear factor 1 mutations: clinical phenotype of HNF1 β -related maturity-onset diabetes of the young and HNF1 α -related maturity-onset diabetes of the young in Japanese. *Diabetic Med.* 2014;31:721-727. IF 3.064
- 19) Iizuka K, Niwa H, Takahashi Y, Takeda J. Liraglutide normalised glucose tolerance and the response of insulin to glucose in a non-obese patient with newly diagnosed type-2 diabetes mellitus. *Diabetology Int.* 2014;5:254-259.
- 20) Daido H, Horikawa Y, Takeda J. The effects of pitavastatin on glucose metabolism in patients with type 2 diabetes with hypercholesterolemia. *Diabetes Res Clin Pr.* 2014;106:531-537. IF 2.536
- 21) Enya M, Horikawa Y, Iizuka K, Takeda J. Association of genetic variants of the incretin-related genes with quantitative traits and occurrence of type 2 diabetes in Japanese. *Molecular Genet Metab Rep.* 2014;1:350-361.
- 22) Oba S, Suzuki E, Yamamoto M, Horikawa Y, Nagata C, Takeda J. Active and passive exposure to tobacco smoke in relation to insulin sensitivity and pancreatic β -cell function in Japanese subjects. *Diabetes and Metab.* 2014;41:160-167. IF 2.845

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：武田 純；厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業：MODY1-6 の病態調査と鑑別的診断基準の策定；平成 22-24 年度；40,300 千円(18,200：13,000：9,100 千円)
- 2) 研究代表者：武田 純；科学研究費補助金基盤研究(B)：体脂肪分解と肝糖取り込みを促進させる糖尿病治療の開発；平成 22-24 年度；18,330 千円(7,020：6,110：5,200 千円)
- 3) 研究代表者：田中生雅，研究分担者：山本眞由美，佐渡忠洋，塩入俊樹；科学研究費補助金基盤研究(C)：大学生のセルフメディケーション及び補完代替医療の利用実態とコストパフォーマンス；平成 22-24 年度；5,080 千円(2,540：700：1,840 千円)
- 4) 研究代表者：堀川幸男；独立行政法人科学技術振興機構：日本人とデンマーク人のタンパクコード領域集中型シーケンシング法による若年発症家族性糖尿病(MODY)の新規原因因子固定；平成 22-25 年度；14,905 千円(6,600：4,950：2,860：495 千円)
- 5) 研究代表者：飯塚勝美；科学研究費補助金基盤研究(C)：グルコースによる時計遺伝子発現調節機構に注目した代謝異常症候群予防法の開発；平成 22-25 年度；4,160 千円(1,170：1,040：1,040：910 千円)
- 6) 研究代表者：山本眞由美；岐阜大学活性化経費(教育)：キャンパスライフの健康科学 一生健康のために-(全学共通教育 健康科学・スポーツ演習)；平成 24 年度；500 千円
- 7) 研究代表者：山本眞由美，研究分担者：田中生雅；科学研究費補助金基盤研究(C)：大学生の生涯健康指導必要性の科学的根拠を示す～肥満と将来の糖尿病発症の関係から～；平成 21-25 年度；4,520 千円(1,430：1,170：520：900：500 千円)
- 8) 研究代表者：山縣然太郎(山梨大学)，研究分担者：山本眞由美；厚生労働科学研究費補助金成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業：母子保健事業の効果的実施のための妊婦健診，乳幼児健診データの

- 利活用に関する研究；平成 24 年度；17,000 千円
- 9) 研究代表者：飯塚勝美；リリー・インクレチン基礎研究助成金：高血糖状態における GLP-1 receptor および GIP receptor 発現低下の分子メカニズムの解明；平成 24 年度；1,000 千円
 - 10) 研究代表者：堀川幸男；ノボ ノルディスク ファーマ インスリン研究助成金：日本人家系に適した連鎖解析法による若年発症糖尿病遺伝子の同定と機能解析；平成 24 年度；1,000 千円
 - 11) 研究代表者：飯塚勝美；研究科長裁量経費研究費重点配分：食事の質とタイミングに注目した肥満合併 2 型糖尿病治療法の開発グルコース感受性転写因子 ChREBP の機能に注目した解析；平成 24 年度；1,000 千円
 - 12) 研究代表者：武田 純；MSD 研究助成金：日本人の新 MODY 遺伝子の探索；平成 24 年度；3,000 千円
 - 13) 研究代表者：飯塚勝美；花王健康科学研究会第 10 回研究助成：食事の質とタイミングに注目した 2 型糖尿病治療法の開発：グルコース感受性転写遺伝子 ChREBP の機能に注目した解析；平成 24 年度；1,000 千円
 - 14) 研究代表者：飯塚勝美；the 9th IDF-WPR Congress & 4th AASD Scientific Meeting Travel Support:Glucagon Receptor and Incretin Receptors mRNA Expression are Inversely Regulated by Glucose Through ChREBP Activation；平成 24 年度；50 千円
 - 15) 研究代表者：武田 純；科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究)：膵細胞の内分泌細胞への文化能変換因子の網羅的探索；平成 25-26 年度；3,770 千円(2,210：1,560 千円)
 - 16) 研究代表者：堀川幸男；文部科学省科学研究費基盤研究(B)：ゲノムコピー数低下領域に特化した日本人若年糖尿病の発症機構の解明；平成 25-27 年度；18,590 千円(9,620：5,720：3,250 千円)
 - 17) 研究代表者：塩谷真由美；日本糖尿病協会若手研究者助成：ゲノムコピー数変異領域に特化した、メチル化異常探索による新規 MODY 遺伝子の同定；平成 25 年度；1,000 千円
 - 18) 研究代表者：山本真由美；科学研究費補助金基盤研究(C)：大学生の生涯健康指導必要性の科学的根拠を示す-肥満と将来の糖尿病発症の関係から-；平成 21-25 年度；4,790 千円(1,430：1,170：520：1,170：500 千円)
 - 19) 研究代表者：福重八恵(阪南大学)，研究分担者：浅田孝幸(立命館大学)，山本真由美，前田 利(阪南大学)，金ジェウク(広島大学)；科学研究費補助金基盤研究(C)：医療におけるサービス品質の測定と品質マネジメントへのフィードバックモデルの研究；平成 25-27 年度；3,700 千円(1,100：1,600：1,000 千円)
 - 20) 研究代表者：山本真由美；岐阜大学活性化経費(教育)：自己健康管理能力を養成する実践教育-国際化に対応できる能力育成をめざして-；平成 25 年度；500 千円
 - 21) 研究代表者：山本真由美；厚生労働科学研究費補助金(政策科学総合研究事業)：若い男女の結婚・妊娠時期計画支援に関するプロモーションプログラムの開発に関する研究；平成 25-26 年度；平成 25 年度 6,200 千円
 - 22) 研究代表者：武田 純；科学研究費補助金基盤研究(B)：MODY における膵ベータ細胞の代償性インスリン分泌の惹起経路の解明；平成 26-28 年度；16,250 千円(6,370：5,460：4,420 千円)
 - 23) 研究代表者：飯塚勝美；科学研究費補助金基盤研究(C)：小腸フルクトース代謝に注目した新規代謝症候群治療法の開発；平成 26-28 年度；4,940 千円(1,820：1,560：1,560 千円)
 - 24) 研究代表者：堀川幸男；アストラゼネカ萌芽研究グラント：2 型糖尿病と認知症の分子リンク解明から治療への展開；平成 26 年度；500 千円
 - 25) 研究代表者：堀川幸男；MSD 研究助成金：地域連携パスの電子化による糖尿病医療連携の推進；平成 26 年度；500 千円

2) 受託研究

- 1) 武田 純：ソマバート特定使用成績調査-長期使用に関する調査-(プロトコール No.A6291023；平成 20-25 年度；128,708 円：ファイザー株式会社
- 2) 加納克徳：アクテムラ特定使用成績調査(全例調査)関節リウマチ-多関節に活動性を有する若年性突発性関節炎-；平成 20-25 年度；94,500 円：中外製薬株式会社
- 3) 加納克徳：アクテムラ特定使用成績調査(長期フォローアップ調査) 関節リウマチ；平成 20-25 年度；31,500 円：中外製薬株式会社
- 4) 武田 純：ノルディトロピン特定使用成績調査；平成 22-26 年度；189 千円：ノボ ノルディスク ファーマ株式会社
- 5) 武田 純：アピドラ注 長期使用に関する特定使用成績調査；平成 22-25 年度；315 千円：サノフ

イ株式会社

- 6) 武田 純：アピドラ注 長期使用成績調査；平成 22-24 年度；210 千円；サノフィ株式会社
- 7) 武田 純：2 型糖尿病患者を対象とした OPC-262 の併用療法長期投与試験；平成 22-24 年度；1,669,500 円；大塚製薬株式会社
- 8) 武田 純：リピトール錠 特定使用成績調査；平成 22-24 年度；630 千円；ファイザー株式会社
- 9) 武田 純：プログラフィカプセル ループス腎炎長期使用に関する特定使用成績調査；平成 20-24 年度；283,500 円；アステラス製薬株式会社
- 10) 諏訪哲也：エクア錠 50mg 特定使用成績調査；平成 23-25 年度；315 千円；ノバルティスファーマ株式会社
- 11) 諏訪哲也：ゴナトロピン 5000 使用成績調査；平成 23-27 年度；21 千円；あすか製薬株式会社
- 12) 武田 純：2 型糖尿病の治療における、SYR-472(100mg)の第 3 相単独長期投与又は併用長期投与試験；平成 23-25 年度；1,234,800 円；武田薬品工業株式会社
- 13) 武田 純：ネシーナ錠 特定使用調査「2 型糖尿病ビッグアナイド系薬剤使用」；平成 24-26 年度；157,500 円；武田薬品工業株式会社
- 14) 諏訪哲也：ソマバート特定使用成績調査-長期使用に関する調査-；平成 24-25 年度；252 千円；ファイザー株式会社
- 15) 武田 純：アクトス有害事象詳細報告；平成 24-25 年；21 千円；武田薬品工業株式会社
- 16) 諏訪哲也：グロウジェクトの成人成長ホルモン分泌不全(重症に限る)における使用成績調査；平成 24-27 年度；105 千円；JCR ファーマ株式会社
- 17) 武田 純：ピクトーザ副作用・感染症詳細研究；平成 25 年度；21 千円；ノボ ノルディスク ファーマ株式会社
- 18) 諏訪哲也：エクア特定使用成績調査(2 型糖尿病)；平成 25-28 年度；1,890 千円；ノバルティスファーマ株式会社
- 19) 諏訪哲也：ソマチュリン皮下 60mg、90mg、100mg 長期使用に関する特定使用成績調査；平成 25-30 年度；283 千円；帝人ファーマ株式会社
- 20) 諏訪哲也：ソマバート特定使用成績調査-長期使用に関する調査-(プロトコール No.A6291023)；平成 25-27 年度；126 千円；ファイザー株式会社
- 21) 廣田卓男：タイロゲン筋注用 0.9mg 使用成績調査(全例調査)；平成 25-29 年度；210 千円；ジェンザイム・ジャパン株式会社
- 22) 武田 純：テネリア錠 20mg 特定使用成績調査；平成 25-31 年度；210 千円；田辺三菱製薬株式会社
- 23) 武田 純：プログラフィカプセル安全管理情報詳細調査；平成 25-26 年度；21 千円；アステラス製薬株式会社
- 24) 武田 純：テネリア錠 20mg 特定使用成績調査；平成 25-30 年度；1,575 千円；田辺三菱製薬株式会社
- 25) 武田 純：プログラフィカプセル安全管理情報詳細調査；平成 25-26 年度；21 千円；アステラス製薬株式会社
- 26) 武田 純：グルファスト錠 特定使用成績調査「血糖降下薬併用に関する特定使用成績調査」；平成 26-28 年度；259 千円；武田薬品工業株式会社
- 27) 武田 純：スーグラ錠 高齢者を対象とした特定使用成績調査(全例調査) STELLA-ELDER(プロトコール No.SGL001)；平成 26-27 年度；129 千円；アステラス製薬株式会社
- 28) 武田 純：プログラフィカプセル 0.5mg、0.1mg 多発性筋炎・皮膚筋炎に合併する間質性肺炎患者に対する長期特定使用成績調査(プロトコール No.PRGI01)；平成 26-30 年度；64 千円；アステラス製薬株式会社
- 29) 諏訪哲也：ルセフィ錠 2.5mg、5mg 高齢者における特定使用成績調査(全例調査)；平成 26-29 年度；64 千円；大正富山医薬品株式会社
- 30) 武田 純：スーグラ錠 長期特定使用成績調査 STELLA-LONG TERM(プロトコール No.SGL002)；平成 26-29 年度；97 千円；アステラス製薬株式会社
- 31) 諏訪哲也：リキスミア皮下注 300µg 特定使用成績調査；平成 26-30 年度；1,458 千円；サノフィ株式会社
- 32) 飯塚勝美：副作用詳細報告；平成 26 年度；21 千円；ノボ ノルディスク ファーマ株式会社
- 33) 武田 純：スーグラ錠 安全管理情報詳細調査；平成 26-27 年度；21 千円；アステラス製薬株式会社

3) 共同研究

- 1) 武田 純：(複)血糖測定システム；平成 25-26 年度；909 千円：三和化学工業株式会社

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

武田 純：

- 1) 日本内科学会理事，評議員(～現在)
- 2) 日本糖尿病学会評議員(～現在)
- 3) 日本糖尿病合併症学会評議員(～現在)
- 4) 日本糖尿病・妊娠学会理事，評議員(～現在)
- 5) 日本病態栄養学会評議員(～現在)
- 6) 日本内分泌学会評議員(～現在)
- 7) 日本老年病学会評議員(～現在)
- 8) 日本糖尿病眼学会理事(～現在)
- 9) 日本人類遺伝学会評議員(～現在)
- 10) 日本糖尿病情報学会副理事長，評議員(～現在)
- 11) 日本糖尿病協会理事(～現在)
- 12) 日本糖尿病療養指導士認定機構理事(～現在)

堀川幸男：

- 1) 日本病態栄養学会評議員(～現在)
- 2) 日本糖尿病学会評議員(～現在)
- 3) 日本人類遺伝学会評議員(～現在)
- 4) 日本内分泌学会評議員(～現在)
- 5) 日本内科学会東海地方会評議員(～現在)
- 6) 日本糖尿病情報学会評議員(～現在)

山本眞由美：

- 1) 日本内科学会東海地方会評議員(～現在)
- 2) 日本糖尿病学会評議員(～現在)
- 3) 日本内分泌学会代議員(～平成 24 年 3 月)
- 4) 日本内分泌学会評議員(平成 24 年 4 月～現在)
- 5) 日本内分泌学会女性医師専門医育成・再教育委員会委員(～平成 26 年 12 月)
- 6) 日本臨床栄養学会評議員(～現在)
- 7) 日本病態栄養学会学術評議員(～現在)
- 8) 日本油化学会代議員(～現在)
- 9) 日本油化学会東海支部常任幹事(～現在)
- 10) 東海学校保健学会理事(～現在)

諏訪哲也：

- 1) 日本内分泌学会代議員(～現在)
- 2) 日本内科学会東海地方会評議員(～現在)

飯塚勝美：

- 1) 日本内分泌学会評議員(～現在)
- 2) 日本病態栄養学会評議員(～現在)
- 3) 日本内科学会東海地方会評議員(～現在)

川地慎一：

- 1) 日本内分泌学会評議員(～現在)

- 2) 日本内科学会東海地方会評議員(～現在)

塩谷真由美：

- 1) 日本人類遺伝学会評議員(～現在)

2) 学会開催

武田 純：

- 1) 第1回日本糖尿病協会療養指導学術集会(平成25年7月, 京都)
- 2) 第29回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会(平成25年11月, 岐阜)
- 3) 第14回日本糖尿病情報学会年次学術集会(平成26年8月, 岐阜)

山本眞由美：

- 1) 第51回全国大学保健管理研究集会(平成25年11月, 岐阜)
- 2) 第57回東海学校保健学会(平成26年9月, 岐阜)

3) 学術雑誌

武田 純：

- 1) 日本人類遺伝学会；Journal of Human Genetics 編集委員(～現在)
- 2) 日本糖尿病協会；DM Ensemble 編集委員長(～現在)
- 3) Diabetes Frontier；編集委員(～現在)

山本眞由美：

- 1) 学校保健研究；査読委員(～現在)
- 2) CAMPUS HEALTH；査読委員(～現在)

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

武田 純：

- 1) 第46回糖尿病学の進歩(平成24年3月, 京都, 「糖尿病診療と療養指導に必要な知識」2型糖尿病はなぜ増えているか、「糖尿病診療と療養指導に必要な知識」カンパセーションマップの活用 座長)
- 2) 第85回日本内分泌学会学術総会(平成24年4月, 名古屋, 糖尿病・低血糖2・ランチョンセミナー 座長)
- 3) 第85回日本内分泌学会学術総会(平成24年4月, 糖尿病・低血糖2・ランチョンセミナー 座長)
- 4) 第55回日本糖尿病学会年次学術集会(平成24年5月, シンポジウム9「CDEJの展開と深化に向けて Certified Diabetes Educators of Japan(CDEJ):Working Toward Their Expansino and Intensification」座長)
- 5) 第55回日本糖尿病学会年次学術集会(平成24年5月, シンポジウム9「CDEJの展開と深化に向けて 糖尿病地域医療連携の構築に向けたCDEJ活動のあり方」演者)
- 6) 第9回日本フットケア学会(平成24年9月, 岐阜, 岐阜秋季セミナー 座長)
- 7) 第86回日本糖尿病学会中部地方会(平成24年10月, 名古屋, 専門医更新指定講演 座長)
- 8) 第18回日本糖尿病眼学会総会(平成24年11月, モーニングセミナー3「2型糖尿病の経口血糖降下薬治療における最近の話題」座長)
- 9) 第28回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会(平成24年11月, 東京, シンポジウムA「母児の長期予後を知ろう」, ランチョンセミナーD「糖尿病と癌」座長)
- 10) 第16回日本病態栄養学会(平成25年1月, 京都, 「糖尿病⑨」座長)
- 11) 第47回糖尿病学の進歩(平成25年2月, 四日市, 招待講演「家族性の若年糖尿病の見つけ方」演者, シンポジウムS1「療養指導外来に期待する!!」座長)
- 12) 第110回日本内科学会総会(平成25年4月, 東京, 「内分泌・代謝⑩」座長)
- 13) 第56回日本糖尿病学会年次学術集会(平成25年5月, 熊本, 「CDEのネットワーク構築に向けて」演者, シンポジウム18「糖尿病とエピジェネティクス」座長)
- 14) 第1回日本糖尿病協会療養指導学術集会(平成25年7月, 京都, 会長講演「地域における糖尿病医療の課題と展望～岐阜県の現状と取り組み」演者)
- 15) 第13回日本糖尿病情報学会(平成25年8月, 徳島, 「透析予防の実現をめざした多職種共同連携」座長)

- 16) 第 28 回日本糖尿病合併症学会(平成 25 年 9 月, 旭川, 「透析予防指導 2」 座長)
- 17) 第 17 回日本病態栄養学会年次学術集会(平成 26 年 1 月, 大阪, 「慢性疾患の療養指導Ⅱ・糖尿病」 座長)
- 18) 第 111 回日本内科学会講演会(平成 26 年 4 月, 東京, ポスターセッション「内分泌・代謝⑨」 座長)
- 19) 第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会(平成 26 年 5 月, 東京, 「ランチョンセミナー 10」・「1 ポイント異常の妊娠糖尿病をどこまで管理するか?」・「教育講演 8」 座長)
- 20) 第 2 回日本糖尿病協会療養指導医学術集会(平成 26 年 7 月, 京都, モーニングセミナー「糖尿病治療ケアにおける地域連携と日糖協活動」 座長)
- 21) 第 14 回日本糖尿病情報学会年次学術集会(平成 26 年 8 月, 岐阜, 「地域連携と職域連携を支援する医療情報システムのあり方」・「超高齢社会を支援する医療情報連携」 座長)
- 22) 第 29 回糖尿病合併症学会(平成 26 年 10 月, 東京, 「ワークショップ 26 疫学・EBM2」 座長)
- 23) 第 30 回日本糖尿病・妊娠学会(平成 26 年 11 月, 長崎, 一般演題「IV18~23」 座長)

堀川幸男 :

- 1) 第 85 回日本糖尿病学会中部地方会(平成 24 年 4 月, 三重, 座長)
- 2) 第 85 回日本内分泌学会学術総会(平成 24 年 4 月, 名古屋, 座長)
- 3) Danish Life Science Seminar(2012.07, Tokyo, Strategy to find novel T2DM gene in the post GWAS era; Invited speaker)
- 4) 第 86 回日本糖尿病学会中部地方会(平成 24 年 10 月, 名古屋, 日本糖尿病学会専門医更新指定講演「糖尿病遺伝素因の解剖」 演者)
- 5) 第 57 回日本人類遺伝学会(平成 24 年 10 月, 東京, シンポジウム 糖尿病におけるゲノム医学「若年発症家族性糖尿病(MODY)の新規原因遺伝子同定の現状」 演者)
- 6) 日本内科学会第 16 回東海支部専門医部会教育セミナー(平成 24 年 10 月, 名古屋, 「糖尿病遺伝子素因の解明と臨床的意義」 演者)
- 7) 第 47 回糖尿病学の進歩(平成 25 年 2 月, 四日市, 招待講演「2 型糖尿病の遺伝素因解明の現状」 演者)
- 8) Beta Cell Workshop (2013.04, Kyoto, Genetic dissection of early-onset non-type 1 diabetes in Japanese; invited speaker)
- 9) 第 56 回日本糖尿病学会学術集会(平成 25 年 5 月, 熊本, シンポジウム「岐阜地域統一の糖尿病連携パスの作成と運用」 演者)
- 10) 第 56 回日本糖尿病学会学術集会(平成 25 年 5 月, 熊本, 「その他の糖尿病 4」 座長)
- 11) 第 1 回日本糖尿病協会療養指導学術集会(平成 25 年 7 月, 京都, 「療養指導の地域連携」 座長)
- 12) 第 1 回日本糖尿病協会療養指導学術集会(平成 25 年 7 月, 京都, 「高齢者の糖尿病 インスリン導入」 ファシリテーター)
- 13) 第 87 回日本糖尿病学会中部地方会(平成 25 年 10 月, 金沢, 座長)
- 14) 第 29 回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会(平成 25 年 11 月, 岐阜, シンポジウム「若年糖尿病 MODY における遺伝的背景と子宮内環境」 演者)
- 15) 第 23 回臨床内分泌代謝 Update (平成 26 年 1 月, 名古屋, 「糖尿病 MODY」 座長)
- 16) 第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会(平成 26 年 5 月, 大阪, 「糖尿病療養指導(チーム治療 3)」 座長)
- 17) 第 2 回日本糖尿病協会療養指導学術集会(平成 26 年 7 月, 京都, 「歯科医科連携」 ファシリテーター)
- 18) 第 59 回日本人類遺伝学会(平成 26 年 10 月, 東京, シンポジウム「日本人若年糖尿病(MODY)の遺伝素因の解明」 演者)
- 19) 第 88 回日本糖尿病学会中部地方会(平成 26 年 10 月, 名古屋, 座長)

山本眞由美 :

- 1) 第 14 回フィジカルヘルス・フォーラム(PHF)(平成 24 年 3 月, 仙台, 「岐阜大学の敷地内全面禁煙の経験—7 年を経過して—」 シンポジスト)
- 2) 第 11 回日本内分泌学会東海支部学術集会(平成 24 年 3 月, 名古屋, 女性会員が企画するセミナー「JES We Can Tokai 企画セッション(東海支部委員からの報告: JES We Can の経緯と活動報告)」 追加発言)
- 3) American College Health Association 2012 ANNUAL MEETING(2012.05, Chicago USA, Student Health Care on Campuses in Japan: The Approach to Care for the Japanese College Student; Special Session)

- 4) Student health association 64th Annual Conference(2012.07, York, England, Introduction of Japan University Health Association (JUHA); Invited lecture)
- 5) 第 50 回全国大学保健管理研究集会(平成 24 年 10 月, 神戸, 国際シンポジウム「日本, 米国, 英国における大学保健管理」司会)
- 6) 第 12 回日本内分泌学会東海支部学術集会(平成 25 年 2 月, 静岡, 女性会員が企画するセミナー「JES We Can Tokai 企画セッション」座長)
- 7) 第 12 回日本内分泌学会東海支部学術集会(平成 25 年 2 月, 静岡, 「大学生(日本人と留学生)における糖尿病高リスク者抽出方法の検討-インスリン抵抗性と体重変化-」座長)
- 8) 第 15 回フィジカルヘルス・フォーラム(PHF)(平成 25 年 3 月, 岡山, 「健康危機管理: 大学への期待」座長)
- 9) 第 56 回日本糖尿病学会年次学術集会(平成 25 年 5 月, 熊本, 「薬物療法(ビッグアナイド薬)」座長)
- 10) 第 51 回全国大学保健管理研究集会(平成 25 年 11 月, 岐阜, 「海外の大学保健管理事情」座長)
- 11) 第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会(平成 26 年 5 月, 大阪, 「薬物療法(GLP-1 受容体作動薬 1)」座長)
- 12) 第 1 回日本糖尿病協会療養指導学術集会(平成 25 年 7 月, 京都, 「療養指導の院内連携」座長, 「高齢者の糖尿病・栄養」ファシリテーター)
- 13) 第 2 回日本糖尿病協会療養指導学術集会(平成 26 年 7 月, 京都, 「運動療法」座長)
- 14) 第 2 回日本糖尿病協会療養指導学術集会(平成 26 年 7 月, 京都, 「SMBG/高齢者の糖尿病 服薬指導」ファシリテーター)
- 15) 第 52 回全国大学保健管理研究集会(平成 26 年 9 月, 東京, 「『国境なき医師団』海外医療援助活動に参加して」座長)

諏訪哲也:

- 1) 第 221 回日本内科学会東海地方会(平成 25 年 10 月, 岐阜, 「内分泌・代謝 3」座長)

飯塚勝美:

- 1) 第 221 回日本内科学会東海地方会(平成 25 年 10 月, 岐阜, 「内分泌・代謝 2」座長)

8. 学術賞等の受賞状況

- 1) 山本真由美: 優秀発表表彰: 「Promotion for Japanese University Students to Prioritize Career and Family Equally」: The 29th International Congress of the Medical Women's International Association, Seoul, Korea(平成 25 年度)

9. 社会活動

武田 純:

- 1) 日本臨床内科医会岐阜県会長(～現在)
- 2) 日本糖尿病協会岐阜県支部長(～現在)
- 3) 岐阜県糖尿病対策推進評議会副会長(～現在)
- 4) 日本糖尿病協会療養指導委員会委員長(～平成 24 年 3 月)
- 5) 岐阜県医師会理事(～現在)
- 6) 岐阜大学医師会副会長(～現在)
- 7) 日本学術振興会科学研究費委員会委員(～現在)
- 8) 岐阜県 CDE ネットワーク会長(～現在)

堀川幸男:

- 1) 岐阜地域医療連携研究会幹事(～現在)
- 2) 岐阜地域医師会連携パス運営委員会委員(～現在)
- 3) 岐阜県医師会糖尿病対策委員会委員(～現在)
- 4) 岐阜県医師会糖尿病地域連携パスイニシアティブグループ委員長(～現在)
- 5) 岐阜県医師会医療保険・地域連携委員会委員(～現在)
- 6) 岐阜県 CDE ネットワーク役員(～現在)

山本眞由美：

- 1) 岐阜県医師会代議員(平成 24 年度～現在)
- 2) 岐阜県医師会糖尿病対策委員会委員長(～現在)
- 3) 岐阜県医師会男女共同参画委員会委員(～現在)
- 4) 岐阜県糖尿病対策推進協議会幹事(～平成 24 年度)
- 5) 岐阜県糖尿病対策推進協議会 世界糖尿病デー記念事業「糖尿病県民セミナー」ワーキンググループ委員(～現在)
- 6) 岐阜医学研究協議会 専務理事(～現在)
- 7) 日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会書面審査員(～現在)
- 8) 国立大学法人保健管理施設協議会国際交流特別委員会委員長(～現在)
- 9) 国立大学法人保健管理施設協議会禁煙対策の推進に関する特別委員会(～現在)
- 10) 国立大学法人保健管理施設協議会食と心身の健康に関する調査研究班委員(～現在)
- 11) 学校法人誠広学園評議員(平成 24 年度～現在)
- 12) 岐阜県食育推進会議委員(～現在)
- 13) 岐阜県大学保健管理研究会会長(～現在)
- 14) 日本学術振興会科学研究費委員会専門委員(平成 26 年度～現在)
- 15) 岐阜県国民健康保険団体連合会保健事業支援・評価委員会委員(平成 26 年度～現在)
- 16) 学校法人誠広学園外部理事(～現在)
- 17) 全国大学保健管理協会評議員(～平成 24 年 11 月), 理事(～現在)
- 18) 全国大学保健管理協会理事東海・北陸地方部会幹事(～現在)
- 19) 国立大学法人保健管理施設協議会(国際交流特別委員会委員長)(～現在)
- 20) 国立大学法人保健管理施設協議会(禁煙対策の推進に関する特別委員会委員)(～平成 25 年)
- 21) 国立大学法人保健管理施設協議会(食と心身の健康に関する調査研究班委員)(～現在)
- 22) 全国大学保健管理協会国際連携委員会委員長(～現在)
- 23) 第 50 回全国大学保健管理研究会運営委員会委員(平成 24 年)
- 24) 第 51 回全国大学保健管理研究会運営委員会副委員長(平成 25 年)
- 25) 第 52 回全国大学保健管理研究会運営委員会委員(平成 26 年 1 月～現在)
- 26) 第 57 回東海学校保健学会総会会長(平成 26 年)

10. 報告書

- 1) 中野 功, 山本眞由美: 大学における感染症予防の専門性の向上と連携の促進: 全国大学保健管理協会 東海・北陸地方部会報告書(平成 23 年度): 48-50(平成 24 年)
- 2) 山本眞由美: 大学における感染症予防の取り組みの現状と問題点: 全国大学保健管理協会 東海・北陸地方部会報告書(平成 23 年度): 51-55(平成 24 年)
- 3) 山本眞由美: 女性医師専門医育成・再教育(Jes We Can)便り: 日本内分泌学会雑誌 Vol.88: 21-22(平成 24 年 2 月)
- 4) 飯塚勝美: 肥満症合併 2 型糖尿病におけるコレステラミン+メトホルミン併用療法の有用性の検討: 研究科長裁量経費研究費重点配分(平成 24 年 3 月)
- 5) 飯塚勝美: グルコース活性化転写因子 ChREBP の機能制御に基づく高尿酸血症治療法の開発: 平成 22 年度研究助成に対する概要報告書(24)公益財団法人 痛風財団(平成 24 年 3 月)
- 6) 武田 純: MODY1-6 の病態調査と識別的診断基準の策定: 平成 23 年度厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 総括研究報告書(平成 24 年 4 月)
- 7) 武田 純: 体脂肪分解と肝糖取り込みを促進させる糖尿病治療の開発: 平成 23 年度科学研究費補助金基盤研究(B) 実績報告書(平成 24 年 4 月)
- 8) 飯塚勝美: グルコースによる時計遺伝子発現調節機構に注目した代謝異常症候群予防法の開発: 平成 23 年度科学研究費補助金基盤研究(C) 実績報告書(平成 24 年 4 月)
- 9) 山本眞由美: 大学生の生涯健康指導必要性の科学的根拠を示す～肥満と将来の糖尿病発症の関係から～: 平成 23 年度科学研究費補助金基盤研究(C) 実績報告書(平成 24 年 4 月)
- 10) 堀川幸男: 日本人とデンマーク人のタンパクコード領域集中型シークエンス法による若年発症家族性糖尿病(MODY)の新規原因因子固定: 平成 23 年度独立行政法人科学技術振興機構実績報告書(平成 24 年 4 月)
- 11) 山本眞由美: 平成 23 年度第 59 期卒業生を祝う会: 岐阜大学医学部記念会館だより(発行; 岐阜医学研究協議会): 30-31(平成 24 年 5 月)

- 12) 草田典子, 脇 昌子, 山本眞由美 : 女性医師専門医育成・再教育(Jes We Can)便り : 内分泌学会雑誌 JES News Vol.88 : 19-20(平成 24 年 6 月)
- 13) 山本眞由美 : 岐阜大学の敷地内全面禁煙の経験-7 年を経過して- : 第 14 回フィジカルヘルス・フォーラム報告書 : 37-38(平成 25 年 1 月)
- 14) 吉川弘明, 山本眞由美, 足立由美, 笹川寿之, 埴 清美, 北村邦夫 : 大学における女子学生の健康に関する実態と対策に関する研究:母子保健事業の効果的実施のための妊婦健診, 乳幼児健診データの利活用に関する研究 : 平成 24 年度総括・分担研究報告書 : 155-176(平成 25 年 3 月)
- 15) 堀川幸男 : 日本人とデンマーク人のタンパクコード領域集中型シーケンス法による若年発症家族性糖尿病(MODY)の新規原因因子固定:平成 24 年度独立行政法人科学技術振興機構実績報告書(平成 25 年 4 月)
- 16) 飯塚勝美 : 食事の質とタイミングに注目した肥満合併 2 型糖尿病治療法の開発グルコース感受性転写因子 ChREBP の機能に注目した解析 : 研究科長裁量経費研究費重点配分(平成 25 年 3 月)
- 17) 飯塚勝美 : グルコースによる時計遺伝子発現調節機構に注目した代謝異常症候群予防法の開発 : 平成 23 年度科学研究費補助金基盤研究(C)実績報告書(平成 25 年 4 月)
- 18) 山本眞由美 : A Note From Immediate Past President Jenny Haubenreiser : COLLEGE HEALTH IN Action Vol.53, NO.1 : 8(平成 25 年 9 月) (English)
- 19) 山本眞由美 : 優秀賞(Award for Excellence)を授与されて : 日本女医会誌 復刊第 216 号 : 6-7(平成 25 年 10 月)
- 20) 山本眞由美 : 議事 : 報告事例(2)各種委員会・研究班報告・質疑 : 国立大学法人保健管理施設協議会 総会 議事概要 : 27-28(平成 25 年 11 月)
- 21) 堀川幸男 : ノボ ノルディスク ファーマ インスリン研究助成金 : 日本人家系に適した連鎖解析法による若年発症糖尿病遺伝子の同定と機能解析(平成 25 年 11 月)
- 22) 飯塚勝美 : 花王健康科学研究会第 10 回研究助成 : 食事の質とタイミングに注目した 2 型糖尿病治療法の開発 : グルコース感受性転写遺伝子 ChREBP の機能に注目した解析(平成 25 年 11 月)
- 23) 横田千津子, 脇 昌子, 山本眞由美 : 女性医師専門医育成・再教育委員会-クロストーク WG より報告- : 日本内分泌学会雑誌 Vol.89 : 14-15(平成 25 年 12 月)
- 24) 山本眞由美 : 満足度ベスト授業 スポーツ・健康科学科目 : 学生による授業満足度ベスト授業『教員による授業の工夫集』 : 66-67(平成 26 年 1 月)
- 25) 山本眞由美 : 肥満に関する疾患とその管理 : 全国大学保健管理協会 東海・北陸地方部会報告書 : 8-10(平成 26 年)
- 26) 堀川幸男 : 日本人とデンマーク人のタンパクコード領域集中型シーケンス法による若年発症家族性糖尿病(MODY)の新規原因因子固定:平成 25 年度独立行政法人科学技術振興機構実績報告書(平成 26 年 4 月)

11. 報道

- 1) 諏訪哲也 : 「研究室から 大学はいま」 ホルモン過剰分泌で高血圧 : 岐阜新聞(2012 年 1 月 3 日)
- 2) 稲垣暢也, 伊藤 浩, 武田 純, 平野 勉, 塩谷真由美, 中村一文, 山本剛史 : 糖尿病・循環器疾患を合併している患者の全身管理に有用な薬剤はなにか~チアグリジン誘導体・ビッグアナイド薬・インクレチン関連~ : Diabetes Strategy 2012 年 ; vol.2 no.1.
- 3) 武田 純 : 平成 24 年経営者セミナー : GIFU ビルメン NEWS 2012 年 ; 5 月号 No.79 : 2.
- 4) 武田 純, 米田昭子, 岩崎真宏, 朝倉俊成, 高野直久 : 糖尿病療養指導の新たな展望-連携による質向上を目指して- : DM Ensemble 2012 年 5 月 20 日 ; Vol.1 No.1 : 10-17
- 5) 堀川幸男 : 生活習慣病のゲノム研究から臨床的に意味のある結果を出す研究戦略 : 日経バイオテック (2012 年 7 月 6 日)
- 6) 川地慎一 : 「研究室から 大学はいま」 糖尿病臨床の最前線を紹介 : 岐阜新聞(2012 年 9 月 18 日)
- 7) 武田 純 : 糖尿病患者に IC カード : 岐阜新聞(2012 年 10 月 5 日)
- 8) 堀川幸男 : IC カードで糖尿病情報を共有 : キャリアブレイン 医療介護 CB ニュース(2012 年 10 月 12 日)
- 9) 山本眞由美 : 岐阜大の取り組みを視察-英、米国の大学保健管理協会長- : 岐阜新聞(2012 年 10 月 17 日)
- 10) 山本眞由美 : 岐阜大のメンタルサポート施設視察 : 中日新聞(2012 年 10 月 20 日)
- 11) 武田 純 : 11 月 14 日は世界糖尿病デー「オール岐阜」で医療連携 : 岐阜新聞(2012 年 11 月 10 日)
- 12) 武田 純 : あなた糖尿病かもしれません! : 岐阜新聞(2012 年 11 月 14 日)

- 13) 山本眞由美:岐阜大の保健管理の取組を視察－英・米国の大学保健管理協会長が訪問:文教速報(2012年11月16日)
- 14) 山本眞由美:岐阜大学の保健管理の取り組み－米英両国の大学保健管理協会長が視察－:文教ニュース(2012年11月19日)
- 15) 山本眞由美:健康的な食生活知って－岐阜大 新入生対象に講義－:岐阜新聞(2013年4月17日)
- 16) 山本眞由美:第51回全国大学保健管理研究集会:教育医事新聞第349号(2013年9月25日)
- 17) 武田 純:11月14日は世界糖尿病デー「オール岐阜」体制万全:岐阜新聞(2013年11月12日)
- 18) 山本眞由美:大学保健管理協会,米英の元会長視察:中日新聞(2013年11月13日)
- 19) 山本眞由美:大学生の健康管理,全国の担当者研究:中日新聞(2013年11月15日)
- 20) 山本眞由美:大学の禁煙:中日新聞(2013年11月19日)
- 21) 山本眞由美:岐阜大,学生相談対応者研修会(FD/SD):文教ニュース(2014年7月7日)
- 22) 山本眞由美:岐阜大学講演会,キャンパスライフに取り入れるアーユルヴェーダ健康法:文教ニュース(2014年7月7日)

12. 自己評価

評価

研究活動では、国際的にインパクトがある論文発表が少なかったことは反省点であるが、研究費取得においては、文部科学省と厚生労働省の科研費を確保できたことは次段階に向けての及第点ではないかと思う。

学会等の活動としては、第1回日本糖尿病協会療養指導学術集会(平成24年)を初代会長として京都市で、第29回日本糖尿病妊娠学会(平成25年)と第14回日本糖尿病情報学会(平成25年)を岐阜市で開催できた。また、来る平成27年の第21回日本糖尿病眼学会と第43回内科学の展望の会長に内定したことは評価に値する。

社会活動では、糖尿病の療養指導に関して、CDEJとCDELの連携を目指した「CDEネットワーク」(日本糖尿病協会)の担当理事として全国拡大を推進してきた。療養指導に特化した協会機関誌である「DM Ensemble」も初代編集長として継続して担当し、定期購読数も3,000部を超えることができた。岐阜県内においても、岐阜県糖尿病協会の活動の一環として「岐阜県CDEネットワーク」を平成26年に新規に設立し、第1回の「CDE岐阜」の認定試験を実施した。現時点で、200名を超える認定者が登録されており、既設の「登録医療養指導医」の制度と両輪となって糖尿病の地域チーム医療の質向上に寄与できるものと見込んでいる。

現状の問題点及びその対応策

研究成果が不十分である背景の一つに、附属病院における診療活動に教室員のエフォートが過度に偏っている点がある。最近、大学院生の増員が得られているが、研究時間の確保のために根本的な診療状況の改善が求められる。病院収益の改善には周術期の血糖管理が重要であるが、当科の往診による対応では人的シーズに限界がある。病院レベルでの診療科横断的な対策が必要であり、その議論はようやく端緒についた。

今後の展望

研究に関しては、日本人の新規MODY遺伝子の探索研究を続けると共に、膵島トランスクリプトームなどHNF下流の候補解析研究も平行させる。また、膵島と肝臓の糖脂質代謝に関する機能連関の研究を継続する。臨床的には、治療薬に関する調査研究や生活習慣に関する地域コホート研究が継続されている。

学会活動では、とりあえずは、平成27年度に内定している2つの学術集会について、学問的にインパクトのある内容の企画に努める。

地域の糖尿病医療連携に関しては、日糖協の会員増強に尽力すると共に、「登録医療養指導医」と「岐阜県CDEネットワーク」の2つの制度の充実を目指し、全県下の糖尿病診療の底上げと質の均てん化を図る。さらに、岐阜県糖尿病対策推進協議会を活動の中心に据えて、市民の予防啓発事業の企画と実践にも注力する方針である。

(7) 小児病態学分野

1. 研究の概要

当講座における基礎研究・臨床研究はいずれも臨床に立脚し、基礎的な追求がなされ、その成果は臨床に還元されるものである。出生前小児期の遺伝・発生及び、小児の成長・発達と全臨床分野にわたる病的状態のすべてを対象としている。

基礎研究においては、幾つかの分野に絞ることにより、奥深い研究が進められている。アレルギー、免疫不全、代謝異常の各分野で幾つかの疾患の病因遺伝子が当講座で世界に先駆けクローニングされてきた。各テーマに共通することは、各分野の疾患の病因と病態の解明であり、その成果を診断・治療・予知・予防に適応していくことである。さらにこれらを通じて、ヒトの遺伝・発生、成長・発達の新たな解明につなげている。以下の主な項目を挙げる。

1) アレルギー、免疫不全症、自己炎症性疾患

- ①アレルギーの予知予防
- ②経口免疫寛容を誘導する治療法確立のため“食べて治す食品の開発”プロジェクト
- ③先天性免疫不全症と DNA 修復
- ④自己炎症性疾患の病因、病態解析

2) 先天代謝異常症

- ①先天性ケトン体代謝異常症の診断と病態の解明
- ②先天性脂肪酸代謝異常症の診断と病態の解明
- ③遺伝性ムコ多糖症の診断と病態の解明、あらたな治療法の開発
- ④ペルオキシソーム病の診断と病態の解明

3) 血液疾患、悪性腫瘍

- ①血管腫、リンパ管腫症、ゴーハム病の診断と病態の解明、新規治療法の開発
- ②高発癌症候群の診断

4) 新生児

新生児低血糖とケトン体代謝

5) 重症心身障害児、発達障害

寄附講座 障がい児者医療学講座と共同で、よりよきシステム作りの研究

6) タンパク立体構造解析

小児の疾患関連蛋白質の立体構造解析に基づいた病態解析・治療法の開発などを行う“構造医学”の確立

2. 名簿

教授：	深尾敏幸	Toshiyuki Fukao
教授(併任)：	加藤善一郎	Zenichiro Kato
准教授：	折居建治	Kenji Orii
准教授：	西村悟子	Satoko Nishimura
臨床准教授：	松井永子	Eiko Matsui
講師：	大西秀典	Hidenori Ohnishi
併任講師：	川本典生	Norio Kawamoto
併任講師：	小関道夫	Michio Ozeki
臨床講師：	浅野 勉	Tsutomu Asano
臨床講師：	堀 友博	Tomohiro Hori
助教：	山本崇裕	Takahiro Yamamoto
医員：	笹井英雄	Hideo Sasai
医員：	小野 学	Manabu Ono
医員：	篠原示和	Miwa Shinohara
医員：	川本美奈子	Minako Kawamoto
医員：	神田香織	Kaori Kanda
医員：	伊藤裕子	Yuko Ito
教授(併任)：	下澤伸行	Nobuyuki Shimozawa

3. 研究成果の発表

著書 (和文)

- 1) 深尾敏幸. 遺伝子検査の実際 2) 先天性代謝異常症:有波忠雄, 太田敏子, 清水淑子, 福岡亜紀子, 三村邦裕編集. メディカルサイエンス遺伝子検査学, 東京:近代出版;2012年:122-128.
- 2) 深尾敏幸. ミトコンドリアβ酸化異常症:大関武彦, 古川 漸, 横田俊一郎, 水口 雅総編集. 今日の小児治療指針 第15版, 東京:医学書院;2012年:208-209.
- 3) 近藤直実. 経口免疫寛容を利用した食物アレルギーの治療:京都健康フォーラム監修, 上野川修一, 吉川正明編集. 人と食と自然シリーズ1:食と健康のための免疫学入門, 東京:建帛社;2012年:83-94.
- 4) 近藤直実編集. アレルギー疾患の免疫療法と分子標的治療, 東京:診断と治療社;2012年:1-154.
- 5) 近藤直実. アレルギー疾患における免疫療法と分子標的治療の位置づけ:近藤直実編集. アレルギー疾患の免疫療法と分子標的治療, 東京:診断と治療社;2012年:2-9.
- 6) 加藤善一郎, 近藤直実. 分子標的治療とその機序:近藤直実編集. アレルギー疾患の免疫療法と分子標的治療, 東京:診断と治療社;2012年:21-26.
- 7) 近藤直実. アレルギーのテラーメイド治療:近藤直実編集. アレルギー疾患の免疫療法と分子標的治療, 東京:診断と治療社;2012年:27-35.
- 8) 金子英雄, 大西秀典, 近藤直実. 食物アレルギーに対する抗原改変牛乳による経口免疫療法:近藤直実編集. アレルギー疾患の免疫療法と分子標的治療, 東京:診断と治療社;2012年:100-104.
- 9) 松井永子. 免疫異常疾患に対する免疫療法と抗体療法—その1—生物学的製剤の総論:近藤直実編集. アレルギー疾患の免疫療法と分子標的治療, 東京:診断と治療社;2012年:128-130.
- 10) 寺本貴英. 免疫異常疾患に対する免疫療法と抗体療法—その2—リウマチ性疾患に対する生物学的製剤:近藤直実編集. アレルギー疾患の免疫療法と分子標的治療, 東京:診断と治療社;2012年:131-135.
- 11) 大西秀典. 免疫異常疾患に対する免疫療法と抗体療法—その3—自己炎症性疾患に対する生物学的製剤:近藤直実編集. アレルギー疾患の免疫療法と分子標的治療, 東京:診断と治療社;2012年:136-139.
- 12) 近藤直実, 平家俊男編集. 自己炎症性疾患・自然免疫不全症とその近縁疾患, 東京:診断と治療社;2012年:1-279.
- 13) 近藤直実, 大西秀典, 渡邊倫子. 原発性免疫不全症の概念と分類, および自己炎症性疾患・自己免疫不全症・近縁疾患の位置づけ:近藤直実, 平家俊男編集. 自己炎症性疾患・自然免疫不全症とその近縁疾患, 東京:診断と治療社;2012年:2-31.
- 14) 大西秀典. 自己炎症性疾患・自然免疫不全症の病因・病態と診断フローチャート:近藤直実, 平家俊男編集. 自己炎症性疾患・自然免疫不全症とその近縁疾患, 東京:診断と治療社;2012年:53-59.
- 15) 加藤善一郎, 大西秀典, 近藤直実. 自己炎症性疾患 総論:近藤直実, 平家俊男編集. 自己炎症性疾患・自然免疫不全症とその近縁疾患, 東京:診断と治療社;2012年:62-66.
- 16) 松井永子. 化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ(PAPA)症候群:近藤直実, 平家俊男編集. 自己炎症性疾患・自然免疫不全症とその近縁疾患, 東京:診断と治療社;2012年:84-85.
- 17) 深尾敏幸. Majeed 症候群(慢性反復性多発性骨髄炎と先天性赤血球生成不全性貧血):近藤直実, 平家俊男編集. 自己炎症性疾患・自然免疫不全症とその近縁疾患, 東京:診断と治療社;2012年:90-92.
- 18) 大西秀典. 自然免疫不全症総論:近藤直実, 平家俊男編集. 自己炎症性疾患・自然免疫不全症とその近縁疾患, 東京:診断と治療社;2012年:103-107.
- 19) 加藤善一郎, 大西秀典, 近藤直実. 自然免疫不全症 4, ヒトパピローマウイルス易感染症(WHIM 症候群・疣贅状表皮発育異常症):近藤直実, 平家俊男編集. 自己炎症性疾患・自然免疫不全症とその近縁疾患, 東京:診断と治療社;2012年:115-116.
- 20) 久保田一生, 山本崇裕, 大西秀典. (家族性)単純ヘルペス脳炎(UNC93B1, TLR3, TRAF3, TRIF および TBK1 の異常):近藤直実, 平家俊男編集. 自己炎症性疾患・自然免疫不全症とその近縁疾患, 東京:診断と治療社;2012年:117-120.
- 21) 堀 友博, 大西秀典. 慢性皮膚粘膜カンジダ症を伴う免疫不全症(CARD9, IL-17RA, IL-17F, STAT1 異常):近藤直実, 平家俊男編集. 自己炎症性疾患・自然免疫不全症とその近縁疾患, 東京:診断と治療社;2012年:121-125.
- 22) 金子英雄. 色素脱失を伴う免疫不全症:近藤直実, 平家俊男編集. 自己炎症性疾患・自然免疫不全症とその近縁疾患, 東京:診断と治療社;2012年:156-158.
- 23) 堀 友博, 大西秀典. カンジダ感染と外胚葉異形成を伴う自己免疫性多腺性内分泌不全症(APECED):近藤直実, 平家俊男編集. 自己炎症性疾患・自然免疫不全症とその近縁疾患, 東京:診断と治療社;2012年:169-171.
- 24) 寺本貴英, 大西秀典, 近藤直実. Castleman 病:近藤直実, 平家俊男編集. 自己炎症性疾患・自然免疫不全症とその近縁疾患, 東京:診断と治療社;2012年:185-187.
- 25) 船戸道徳. 補体異常症:近藤直実, 平家俊男編集. 自己炎症性疾患・自然免疫不全症とその近縁疾患, 東京:診断と治療社;2012年:190-192.
- 26) 堀 友博, 大西秀典. 慢性皮膚粘膜カンジダ症(STAT1 異常症):近藤直実, 平家俊男編集. 自己炎症性疾患・自然免疫不全症とその近縁疾患, 東京:診断と治療社;2012年:218-219.
- 27) 大西秀典. 肺炎球菌易感染症:近藤直実, 平家俊男編集. 自己炎症性疾患・自然免疫不全症とその近縁疾患, 東京:診断と治療社;2012年:242-243.
- 28) 木村 豪. 炎症性サイトカインと分子標的治療:近藤直実, 平家俊男編集. 自己炎症性疾患・自然免疫不全症とその近縁疾患, 東京:診断と治療社;2012年:244-247.

- 29) 金子英雄. DNA 修復障害:近藤直実, 平家俊男編集. 自己炎症性疾患・自然免疫不全症とその近縁疾患, 東京: 診断と治療社; 2012 年: 248.
- 30) 金子英雄. 毛細血管拡張性小脳失調症(ataxia-telangiectasia): 近藤直実, 平家俊男編集. 自己炎症性疾患・自然免疫不全症とその近縁疾患, 東京: 診断と治療社; 2012 年: 249-250.
- 31) 金子英雄. Bloom 症候群:近藤直実, 平家俊男編集. 自己炎症性疾患・自然免疫不全症とその近縁疾患, 東京: 診断と治療社; 2012 年: 251-252.
- 32) 小関道夫. Li-Fraumeni 症候群:近藤直実, 平家俊男編集. 自己免疫炎症性疾患・自然免疫不全症とその近縁疾患, 東京: 診断と治療社; 2012 年: 253.
- 33) 久保田一生, 大西秀典. MEFV 遺伝子と炎症性疾患:近藤直実, 平家俊男編集. 自己炎症性疾患・自然免疫不全症とその近縁疾患, 東京: 診断と治療社; 2012 年: 258-259.
- 34) 近藤直実. 毛細血管拡張性小脳失調症:「小児内科」「小児外科」編集. 小児疾患の診断治療基準 第4版 小児内科, 東京: 東京医学社; 2012 年: 232-233.
- 35) 加藤善一郎, 近藤直実. 非てんかん性良性けいれん(憤怒けいれん, 軽症胃腸炎に伴うけいれん):「小児内科」「小児外科」編集. 小児疾患の診断治療基準 第4版 小児内科, 東京: 東京医学社; 2012 年: 736-737.
- 36) Driessen E, 吉村 学, 鈴木康之. Portfolio in Medical Education: 鈴木康之, 藤崎和彦, 丹羽雅之, 岐阜大学医学教育開発研究センター監修. 日本の医学教育の挑戦, 東京: 篠原出版新社; 2012 年: 194-199.
- 37) 鈴木康之, 加藤智美. 小児 OSCE: 鈴木康之, 藤崎和彦, 丹羽雅之, 岐阜大学医学教育開発研究センター監修. 日本の医学教育の挑戦, 東京: 篠原出版新社; 2012 年: 216-221.
- 38) 鈴木康之, 加藤智美. 教務事務職員に知ってほしい 10 のポイント 問題基盤型学習: 鈴木康之, 藤崎和彦, 丹羽雅之, 岐阜大学医学教育開発研究センター監修. 日本の医学教育の挑戦, 東京: 篠原出版新社; 2012 年: 44-48.
- 39) 鈴木康之, 下澤伸行. 副腎白質ジストロフィーの造血幹細胞移植療法: 鈴木則宏, 祖父江元, 荒木信夫, 宇川義一, 川原信隆編集. Annual Review 神経 2012, 東京: 中外医学社; 2012 年: 241-245.
- 40) 鈴木康之. 小児科医の役割: 遠藤文夫総編集. 小児科診療ガイド, 東京: 中山書店; 2012 年: 2-4.
- 41) 鈴木康之. 身体診察の基本: 遠藤文夫総編集. 小児科診療ガイド, 東京: 中山書店; 2012 年: 8-11.
- 42) 鈴木康之. 副腎白質ジストロフィー: 大生定義編集. すべての内科医が知っておきたい神経疾患の診かた. 考え方とその対応, 東京: 羊土社; 2012 年: 265-266.
- 43) 深尾敏幸. β -ケトチオラーゼ欠損症: 遠藤文夫, 奥山虎之, 大浦敏博, 山口清次編集. 先天代謝異常ハンドブック, 東京: 中山書店; 2013 年: 80-81.
- 44) 深尾敏幸. ミトコンドリア HMG-CoA 合成酵素欠損症: 遠藤文夫, 奥山虎之, 大浦敏博, 山口清次編集. 先天代謝異常ハンドブック, 東京: 中山書店; 2013 年: 90-91.
- 45) 深尾敏幸. サクシニル-CoA:3-ケト酸 CoA 転移酵素(SCOT)欠損症: 遠藤文夫, 奥山虎之, 大浦敏博, 山口清次編集. 先天代謝異常ハンドブック, 東京: 中山書店; 2013 年: 92-93.
- 46) 深尾敏幸. 2-メチル 3-ヒドロキシブチリル-CoA 脱水素酵素(HSD10)欠損症: 遠藤文夫, 奥山虎之, 大浦敏博, 山口清次編集. 先天代謝異常ハンドブック, 東京: 中山書店; 2013 年: 112-113.
- 47) 深尾敏幸. カルニチンアシルカルニチントランスロカーゼ(CACT)欠損症: 遠藤文夫, 奥山虎之, 大浦敏博, 山口清次編集. 先天代謝異常ハンドブック, 東京: 中山書店; 2013 年: 128-129.
- 48) 深尾敏幸. Majeed 症候群(慢性反復性多発性骨髄炎と先天性赤血球形成異常症): 近藤直実, 平家俊男編. 最近注目される疾患 自己炎症性疾患・自然免疫不全症・近縁疾患, 東京: 診断と治療社; 2013 年: 90-92.
- 49) 深尾敏幸. 3-ヒドロキシ-3-メチルグルタル酸血症: 山口清次編集. タンデムマス・スクリーニングガイドブック, 東京: 診断と治療社; 2013 年: 102-103.
- 50) 深尾敏幸. マルチプルカルボキシラーゼ欠損症: 山口清次編集. タンデムマス・スクリーニングガイドブック, 東京: 診断と治療社; 2013 年: 104-105.
- 51) 深尾敏幸. グルタル酸血症 I 型: 山口清次編集. タンデムマス・スクリーニングガイドブック, 東京: 診断と治療社; 2013 年: 106-107.
- 52) 深尾敏幸. 3-ケトチオラーゼ欠損症: 山口清次編集. タンデムマス・スクリーニングガイドブック, 東京: 診断と治療社; 2013 年: 108-109.
- 53) 深尾敏幸. 極長鎖アシル-CoA 脱水素酵素(VLCAD)欠損症: 山口清次編集. タンデムマス・スクリーニングガイドブック, 東京: 診断と治療社; 2013 年: 118-119.
- 54) 深尾敏幸. 短鎖アシル-CoA 脱水素酵素(SCAD)欠損症: 山口清次編集. タンデムマス・スクリーニングガイドブック, 東京: 診断と治療社; 2013 年: 120-121.
- 55) 深尾敏幸. ミトコンドリア三頭酵素(TFP)欠損症: 山口清次編集. タンデムマス・スクリーニングガイドブック, 東京: 診断と治療社; 2013 年: 122-123.
- 56) 深尾敏幸. カルニチンパルミトイルトランスフェラーゼ I(CPT1)欠損症: 山口清次編集. タンデムマス・スクリーニングガイドブック, 東京: 診断と治療社; 2013 年: 124-125.
- 57) 深尾敏幸. カルニチンパルミトイルトランスフェラーゼ II(CPT2)欠損症: 山口清次編集. タンデムマス・スクリーニングガイドブック, 東京: 診断と治療社; 2013 年: 126-127.
- 58) 深尾敏幸. カルニチントランスロカーゼ(CACT)欠損症: 山口清次編集. タンデムマス・スクリーニングガイドブック, 東京: 診断と治療社; 2013 年: 128-129.
- 59) 近藤直実. アレルギー疾患における免疫療法と分子標的治療の位置付け: 近藤直実編. 最新 アレルギー疾患の免疫療法と分子標的治療—理論と実践, 東京: 診断と治療社; 2013 年: 2-9.
- 60) 加藤善一郎, 近藤直実. 分子標的治療とその機序: 近藤直実編. 最新 アレルギー疾患の免疫療法と分子標

- の治療—理論と実践, 東京: 診断と治療社; 2013年: 21-26.
- 61) 近藤直実. アレルギーのテラーメイド治療: 近藤直実編. 最新 アレルギー疾患の免疫療法と分子標的治療—理論と実践, 東京: 診断と治療社; 2013年: 27-35.
 - 62) 金子英雄, 大西秀典, 近藤直実. 食物アレルギーに対する抗原改変牛乳による経口免疫療法: 近藤直実編. 最新 アレルギー疾患の免疫療法と分子標的治療—理論と実践, 東京: 診断と治療社; 2013年: 100-104.
 - 63) 近藤直実, 松井永子. 日常診療にすぐに活かせる 喘息・アレルギーのテラーメイド治療, 東京: 診断と治療社; 2013年.
 - 64) 下澤伸行. ペルオキシソーム病ハンドブック 2013 ~全てのペルオキシソーム病患者の診断治療を目指して~, 大阪: 日本臨床社; 2013年.
 - 65) 下澤伸行監修. 副腎白質ジストロフィー診療ハンドブック 2013 作成委員会編集. 副腎白質ジストロフィー診療ハンドブック 2013 ~ALD患者を支えている関係者の皆様へ~, 岐阜: 西濃印刷; 2013年.
 - 66) 下澤伸行. 原発性高シュウ酸血症 I 型・II 型: 遠藤文夫, 奥山虎之, 大浦敏博, 山口清次編集. 先天代謝異常ハンドブック, 東京: 中山書店; 2013年: 106-107.
 - 67) 下澤伸行. Zellweger spectrum: 遠藤文夫, 奥山虎之, 大浦敏博, 山口清次編集. 先天代謝異常ハンドブック, 東京: 中山書店; 2013年: 248-249.
 - 68) 下澤伸行. rhizomelic chondrodysplasia punctate (RCDP) type 1: 遠藤文夫, 奥山虎之, 大浦敏博, 山口清次編集. 先天代謝異常ハンドブック, 東京: 中山書店; 2013年: 250-251.
 - 69) 下澤伸行. 副腎白質ジストロフィー: 遠藤文夫, 奥山虎之, 大浦敏博, 山口清次編集. 先天代謝異常ハンドブック, 東京: 中山書店; 2013年: 252-253.
 - 70) 下澤伸行. ペルオキシソームβ酸化酵素欠損症: 遠藤文夫, 奥山虎之, 大浦敏博, 山口清次編集. 先天代謝異常ハンドブック, 東京: 中山書店; 2013年: 254-256.
 - 71) 下澤伸行. Refsum 病, rhizomelic chondrodysplasia punctate (RCDP) type 2・3: 遠藤文夫, 奥山虎之, 大浦敏博, 山口清次編集. 先天代謝異常ハンドブック, 東京: 中山書店; 2013年: 257-259.
 - 72) 下澤伸行. ペルオキシソーム病: 水澤英洋, 鈴木則宏, 梶 龍兜, 吉良潤一, 神田 隆, 齊藤延人編. 今日の神経疾患治療指針 第2版, 東京: 医学書院; 2013年: 652-653.
 - 73) 深尾敏幸. 脂肪酸代謝異常症・カルニチンサイクル異常症を含む: 日本先天代謝異常学会編. 引いて調べる先天性代謝異常症, 東京: 診断と治療社; 2014年: 18-21.
 - 74) 深尾敏幸. 3-ヒドロキシアシル-CoA 脱水素酵素(HAD): 日本先天代謝異常学会編. 引いて調べる先天性代謝異常症, 東京: 診断と治療社; 2014年: 55.
 - 75) 深尾敏幸.(ミトコンドリア)β酸化系: 日本先天代謝異常学会編. 引いて調べる先天性代謝異常症, 東京: 診断と治療社; 2014年: 61.
 - 76) 堀 友博, 深尾敏幸. 横紋筋融解症: 日本先天代謝異常学会編. 引いて調べる先天性代謝異常症, 東京: 診断と治療社; 2014年: 65.
 - 77) 深尾敏幸. 長鎖脂肪酸β酸化異常症基本3病型: 日本先天代謝異常学会編集委員. 引いて調べる先天性代謝異常症, 東京: 診断と治療社; 2014年: 80.
 - 78) 堀 友博, 深尾敏幸. Reye 様症候群: 日本先天代謝異常学会編. 引いて調べる先天性代謝異常症, 東京: 診断と治療社; 2014年: 92.
 - 79) 深尾敏幸. イムノブロット: 日本先天代謝異常学会編集委員. 引いて調べる先天性代謝異常症, 東京: 診断と治療社; 2014年: 95.
 - 80) 深尾敏幸. ケトアシドーシス: 日本先天代謝異常学会編. 引いて調べる先天性代謝異常症, 東京: 診断と治療社; 2014年: 104.
 - 81) 青山友佳, 深尾敏幸. ケトン性ジカルボン酸尿と非(低)ケトン性ジカルボン酸尿: 日本先天代謝異常学会編. 引いて調べる先天性代謝異常症, 東京: 診断と治療社; 2014年: 104.
 - 82) 青山友佳, 深尾敏幸. 非(低)ケトン性低血糖症: 日本先天代謝異常学会編. 引いて調べる先天性代謝異常症, 東京: 診断と治療社; 2014年: 126.
 - 83) 深尾敏幸. 遊離脂肪酸/総ケトン体比: 日本先天代謝異常学会編. 引いて調べる先天性代謝異常症, 東京: 診断と治療社; 2014年: 131.
 - 84) 深尾敏幸. 長鎖脂肪酸β酸化系の治療法の原則: 日本先天代謝異常学会編. 引いて調べる先天性代謝異常症, 東京: 診断と治療社; 2014年: 160.
 - 85) 下澤伸行. ペルオキシソーム病: 別冊日本臨床 新領域別症候群シリーズ No28 神経症候群(第2版)III, 東京: 日本臨床社; 2014年: 728-736.
 - 86) 下澤伸行. ペルオキシソーム病: 別冊日本臨床 新領域別症候群シリーズ No31 神経症候群(第2版)VI, 東京: 日本臨床社; 2014年: 229-236.
 - 87) 下澤伸行. ペルオキシソーム病: 日本先天代謝異常学会編. 引いて調べる先天性代謝異常症, 東京: 診断と治療社; 2014年: 34-37.
 - 88) 折居建治. ETF 脱水素酵素、脂肪酸β酸化系酵素、ETF-α、ETF-β(グルタル酸血症 II 型): 引いて調べる先天代謝異常症 日本先天代謝異常学会編, 東京: 診断と治療社; 2014年: 45.
 - 89) 折居建治. グルタルル-CoA 脱水素酵素(グルタル酸血症 I 型): 引いて調べる先天代謝異常症 日本先天代謝異常学会編, 東京: 診断と治療社; 2014年: 50-51.
 - 90) 下澤伸行. ペルオキシソーム: プログレッシブ生命科学, 東京: 南山堂; 2014年: 60-63.

著書 (欧文)

- 1) Tomatsu S, Montaña AM, Oikawa H, Giugliani R, Harmatz P, Smith M, Suzuki Y, Orii T. Impairment of Body Growth in Mucopolysaccharidoses. In: Preedy VR ed. Handbook of Growth and Growth Monitoring in Health and Disease. Heidelberg: Springer; 2012.
- 2) Suzuki Y. Perspective for the future medical education in Japan. In: 日本の医学教育の挑戦. Tokyo: 篠原出版新社; 2012: 9-15.
- 3) Fukao T. Cryptic Splice Sites and Cryptic Splicing. In: Maloy S, Hughes K ed. Brenner's Encyclopedia of Genetics, vol. 2. New York: Elsevier; 2013:245-248.

総説 (和文)

- 1) 近藤直実, 寺本貴英, 松井永子, 加藤善一郎, 赤坂 徹, 赤澤 晃, 伊藤浩明, 足立雄一, 今井孝成, 大矢幸弘, 勝沼俊雄, 南部光彦, 藤澤隆夫, 二村昌樹, 松井猛彦, 三浦克志, 森川みき, 佐久間真帆. II. 支援活動報告 4)日本小児アレルギー学会としての取り組み, アレルギー・免疫 2012年; 19巻: 72-76.
- 2) 山岡明子, 阿部 弘, 渡邊庸平, 角田文彦, 梅林宏明, 稲垣徹史, 虻川大樹, 柳田紀之, 箕浦貴則, 森川みき, 近藤直実, 三浦克志. 速報 東日本大震災におけるアレルギー児の保護者へのアンケート調査, 日本小児アレルギー学会誌 2012年; 25巻: 801-809.
- 3) 下澤伸行. ペルオキシソーム病(Zellweger 症候群, 原発性高シュウ酸尿症1型), 日本臨床 別冊 新領域別症候群シリーズ 腎臓症候群(第2版) 2012年; 17巻: 369-373.
- 4) 大西秀典, 寺本貴英, 久保田一生, 近藤直実. 皮膚症状からみた自己炎症性症候群, 小児科 2012年; 53巻: 1201-1209.
- 5) 大西秀典, 寺本貴英, 久保田一生, 山本崇裕, 渡邊倫子, 加藤善一郎, 金子英雄, 近藤直実. 原発性(先天性)免疫不全症の分類-2012 update-, 小児科診療 2012年; 75巻: 134-151.
- 6) 大西秀典, 松井永子, 木全かおり, 加藤善一郎, 近藤直実. 周産期環境とアレルギー アレルギー疾患と関連する自然免疫のシグナル伝達経路における遺伝子多型(Gene polymorphisms in innate immune signaling pathways associated with allergic disease), 日本小児アレルギー学会誌 2012年; 26巻: 113-119.
- 7) 松井永子, 木全かおり, 大西秀典, 加藤善一郎, 金子英雄, 近藤直実. 喘息/COPDの基礎研究最前線 遺伝子検索による喘息, アレルギー疾患発症のテラーメイド的予知および予防指導の試み, International Review of Asthma & COPD 2012年; 14巻: 23-28.
- 8) 近藤直実. clinical topics 小児喘息の段階で寛解・治癒を目指す. 発症予知・予防指導とテラーメイド型治療の確立が鍵, Medical Tribune 2012年; 45巻: 30.
- 9) 大西秀典, 山本崇裕. IRAK4 欠損・MyD88 欠損をはじめとする Toll 様受容体(TLR)シグナル伝達の異常症に関する最近の知見, 小児内科 2012年; 44巻: 1227-1233.
- 10) 近藤直実. 小児気管支喘息の長期管理, アレルギー 2012年; 61巻: 771-784.
- 11) 近藤直実, 松井永子, 大西秀典, 寺本貴英, 加藤善一郎, 川本典生, 大鋸愛美. 小児喘息の治癒を獲得するために-新たな提言 両輪療法-, アレルギー 2012年; 60巻: 1736-1743.
- 12) 鈴木康之. 成人学習, 日本小児科学会雑誌 2012年; 116巻: 133-135.
- 13) 鈴木康之, 関口進一郎. カリキュラムの基本, 日本小児科学会雑誌 2012年; 116巻: 813-815.
- 14) 西屋克己, 鈴木康之. 学習者評価の基本, 日本小児科学会雑誌 2012年; 116巻: 1197-1198.
- 15) 鈴木康之. よりよい後進育成は全ての医療者の責任であり, 今こそティーチャー・トレーニングが求められている. 医療羅針盤・私の提言, 月刊新医療 2012年; 449巻: 18-21.
- 16) 鈴木康之. モルキオ症候群. VIII代謝-ムコ多糖症-, 内科増大号 知っておきたい内科症候群 2012年; 109巻: 1361-1362.
- 17) 鈴木康之. ムコ多糖症III型, 日本臨床 新領域別症候群シリーズ 2012年; 20巻: 539-542.
- 18) 鈴木康之. ムコ多糖症の治療とケア, 難病と在宅ケア 2012年; 18巻: 20-23.
- 19) 鈴木康之. ムコ多糖症, Brain Medical 2012年; 24巻: 247-254.
- 20) 近藤直実. 特集 アレルギー疾患における特異的抗体の意義. I. 免疫学的側面 1. IgE 抗体産生のメカニズム: 遺伝素因と環境の影響, アレルギー・免疫 2012年; 20巻: 14-23.
- 21) 深尾敏幸. Alu 配列の関連した遺伝子異常が遺伝性疾患を引き起こす, 実験医学 2012年; 9巻: 2240-2246.
- 22) 深尾敏幸. HMG-CoA リアーゼ欠損症, 日本臨床 別冊 先天代謝異常症候群(上) -病因・病態研究, 診断・治療の進歩-(第2版) 2012年; 19巻: 378-380.
- 23) 深尾敏幸. HMG-CoA 合成酵素欠損症, 日本臨床 別冊 先天代謝異常症候群(上) -病因・病態研究, 診断・治療の進歩-(第2版) 2012年; 19巻: 381-385.
- 24) 深尾敏幸, 大西秀典. メバロン酸キナーゼ欠損症, 日本臨床 別冊 先天代謝異常症候群(上) -病因・病態研究, 診断・治療の進歩-(第2版) 2012年; 19巻: 386-391.
- 25) 深尾敏幸. β -ケトチオラーゼ欠損症, 日本臨床 別冊 先天代謝異常症候群(上) -病因・病態研究, 診断・治療の進歩-(第2版) 2012年; 19巻: 392-396.
- 26) 深尾敏幸. 3-ヒドロキシイソ酪酸-CoA ヒドロラーゼ欠損症, 日本臨床 別冊 先天代謝異常症候群(上) -病因・病態研究, 診断・治療の進歩-(第2版) 2012年; 19巻: 397-400.
- 27) 深尾敏幸. 3-ヒドロキシイソ酪酸尿症, 日本臨床 別冊 先天代謝異常症候群(上) -病因・病態研究, 診断・治療の進歩-(第2版) 2012年; 19巻: 401-404.
- 28) 深尾敏幸. エチルマロン酸脳症, 日本臨床 別冊 先天代謝異常症候群(上) -病因・病態研究, 診断・治療

- の進歩—(第2版) 2012年; 19巻: 409-412.
- 29) 堀友博, 深尾敏幸. サクシニル-CoA:3-ケト酸 CoA トランスフェラーゼ欠損症, 日本臨床 別冊 先天代謝異常症候群(上) -病因・病態研究, 診断・治療の進歩—(第2版) 2012年; 19巻: 451-454.
 - 30) 深尾敏幸. 遺伝病遺伝子診断のビットフォール, 小児内科 2012年; 44巻: 1614-1618.
 - 31) 深尾敏幸. 脂肪酸代謝異常症, ケトン体代謝異常症の最近の進歩, 日本小児科学会雑誌 2012年; 116巻: 1801-1812.
 - 32) 近藤直実. 特集 アレルギー疾患における特異的抗体の意義. I. 免疫学的側面 1. IgE 抗体産生のメカニズム: 遺伝素因と環境の影響, アレルギー・免疫 2013年; 20巻: 14-23.
 - 33) 舩戸道徳, 近藤直実. Li-Fraumeni 症候群の新知見, 癌と科学療法 2013年; 40巻: 148-153.
 - 34) 近藤直実, 大鋸愛美. 特集 喘息・アレルギーと遺伝子 Up-To-Date 小児気管支喘息と遺伝子多型, 喘息 2013年; 26巻: 48-59.
 - 35) 大西秀典, 山本崇裕, 久保田一生, 堀 友博. <新しく発見された疾患>自然免疫関連分子の異常による免疫不全, 小児内科 2013年; 45巻: 1142-1145.
 - 36) 近藤直実. 特集II アレルギー疾患に対する免疫療法の効果と展望 アレルギー疾患に対する免疫療法の基礎的背景, 臨床免疫・アレルギー科 2013年; 60巻: 161-168.
 - 37) 近藤直実, 小玉ひとみ, 熊田ますみ, 松野ゆかり. 食物アレルギーの現状. 特集 日常生活とアレルギー, 公衆衛生 2013年; 77巻: 790-795.
 - 38) 近藤直実, 大鋸愛美. 小児気管支喘息と遺伝子多型. 特集 喘息・アレルギーと遺伝子 Up-To-Data, 喘息 2013年; 26巻: 48-59.
 - 39) 河野陽一, 近藤直実, 森川昭廣, 西牟田敏之, 西間三馨, 佐々木香織. 診療 保護者からみた小児気管支喘息の実態 インターネット調査の結果, 小児科 2013年; 54巻: 912-922.
 - 40) 近藤直実, 寺本貴英, 松井永子, 佐久間真帆, 赤坂 徹, 赤澤 晃, 伊藤浩明, 足立雄一, 今井孝成, 大矢幸弘, 勝沼俊雄, 南部光彦, 藤澤隆夫, 二村昌樹, 松井猛彦, 三浦克志, 森川みき. 4. アレルギー患児への対応. 東日本大震災—小児科医の足跡—, 日本小児科医会 2013年; 132-138.
 - 41) 大西秀典, 久保田一生. 遺伝性自己炎症性疾患の臨床像と診断フローチャート, 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会雑誌 2013年; 7巻: 169-176.
 - 42) 金子英雄, 近藤直実. 食物アレルギーにおける経口免疫療法, 小児科診療 2013年; 76巻: 857-861.
 - 43) 鈴木康之. 医学・歯学教育者の人材育成, 日本歯科医学教育学会雑誌 2013年; 29巻: 7-10.
 - 44) 下澤伸行. ペルオキシソーム病, 小児科診療 2013年; 76巻: 35-43.
 - 45) 大西秀典, 山本崇裕, 久保田一生, 堀 友博. 自然免疫関連分子の異常による免疫不全, 小児内科 2013年; 45巻: 1142-1145.
 - 46) 大西秀典, 久保田一生. 遺伝性自己炎症疾患の臨床像と診断フローチャート, 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会雑誌 2013年; 7巻: 169-176.
 - 47) 加藤善一郎. 【小児の痛みについて考える】 小児神経と痛み 泣き入りひきつけ(憤怒けいれん)への対応, 小児科臨床 2013年; 66巻: 2481-2485.
 - 48) 加藤善一郎. 先端医学講座 アレルギー性疾患の病態解析のための構造医学の応用, アレルギーの臨床 2013年; 33巻: 856-859.
 - 49) 藤野明浩, 上野 滋, 岩中 督, 木下義晶, 小関道夫, 森川康英, 黒田達夫. リンパ管種, 小児外科 2014年; 46巻: 1181-1186.
 - 50) 大西秀典, 加藤善一郎. 細胞内寄生菌に脆弱性を示す免疫不全症(MSMD など), 小児内科 2014年; 46巻: 1492-1498.
 - 51) 下澤伸行. 小児の治療指針 ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィー, ペルオキシソーム形成異常症), 小児科診 2014年; 77巻: 548-551.
 - 52) 川本典生. 【小児食物アレルギー診療 UP DATE-診る前に確認したい最新知見-】 (1章)発症メカニズム 食物アレルギーの遺伝, 小児科 2014年; 55巻: 518-526.

総説 (欧文)

- 1) Tomatsu S, Mackenzie WG, Theroux MC, Mason RW, Thacker MM, Shaffer TH, Montano AM, Rowan D, Sly W, Alméciga-Díaz CJ, Barrera LA, Chinen Y, Yasuda E, Ruhnke K, Suzuki Y, Orii T. Current and emerging treatments and surgical interventions for Morquio A syndrome: a review. Research and Reports in Endocrine Disorders. 2012;2:65-77.
- 2) Suzuki Y, Niwa M. e-PBL: possibilities and limitations. J Med Education. 2012;16:1-8.
- 3) Kondo N, Maspero J, Ebisawa M. Early intervention and individualized treatment in pediatric Asthma. Round table discussion. International Review of Asthma & COPD. 2012;14:105-119.
- 4) Tomatsu S, Alméciga-Díaz CJ, Barbosa H, Montano AM, Barrera LA, Shimada T, Yasuda E, Mackenzie WG, Mason RW, Suzuki Y, Orii KE, Orii T. Therapies of mucopolysaccharidosis IVA (Morquio A syndrome). Expert Opinion on Orphan Drugs. 2013;1:805-818.
- 5) Okumura A, Nakagawa S, Kawashima H, Morichi S, Muguruma T, Saito O, Fujimoto J, Toida C, Kuga S, Imamura T, Shimizu T, Kondo N, Morishima T. Severe form of encephalopathy associated with 2009 pandemic influenza A (H1N1) in Japan. J Clin Virol. 2013;56:25-30.
- 6) Ebisawa M, Kondo N, Ohnishi H, Nishima S. Pediatric Allergy Immunology in Japan. Pediatric Allergy and Immunology. 2013;24:704-714.

原著 (和文)

- 1) 南部光彦, 車谷典男, 大矢幸弘, 勝沼俊雄, 亀田 誠, 坂本龍雄, 三浦克志, 濱崎雄平, 近藤直実. 小児気管支喘息長期管理薬に関する病院および診療所小児科医と内科医の比較, 日本小児科学会誌 2012 年; 116 巻: 1503-1511.
- 2) 西城卓也, 久保田伊代, 鈴木康之. 認知的徒弟制に基づいた、学生による臨床指導医評価: マーストリヒト臨床教育評価表(The Maastricht Clinical Teaching Questionnaire (MCTQ))日本語版, 医学教育 2012 年; 43 巻: 86.
- 3) 阿部恵子, 若林英樹, 西城卓也, 川上ちひろ, 藤崎和彦, 丹羽雅之, 鈴木康之. Trait Emotional Intelligence Que-SF と Jefferson Scale of Physician Empathy の日本語版開発と信頼性・妥当性の検討, 医学教育 2012 年; 43 巻: 351-359.
- 4) 吉原重美, 藤沢隆夫, 栗原和幸, 宇理須厚雄, 濱崎雄平, 西傘田敏之, 西間三馨, 森川昭廣, 近藤直実. 軽症～中等症持続型の小児気管支喘息の長期管理におけるツロブテロール貼付薬の有用性—ツロブテロール貼付薬追加投与と吸入ステロイド増量の多施設共同群間比較オープンラベル試験 PEACOC—, 日本小児アレルギー学会誌 2013 年; 27 巻: 107-115.
- 5) 阿部恵子, 藤崎和彦, 丹羽雅之, 鈴木康之. 医学生 of Emotional Intelligence (EI) と Empathy: 性差および学年差の検討, 医学教育 2013 年; 44 巻: 315-326.
- 6) 奥村陽子, 加納宏行, 大西秀典, 清島真理子. BCG 接種後に生じた丘疹状結核疹の 1 小児例, 日本小児皮膚科学会雑誌 2013 年; 32 巻: 61-64.
- 7) 近藤直実, 吉原重美, 松井永子. アイピーディ鼎談企画 ここまで来た小児気管支喘息のテラーメイド治療—遺伝子診断による薬剤選択と発症予防—, 別冊 Medical ASAHI 2013 年; 42 巻: 1-7.
- 8) 近藤直実, 望月博之. 2013 学会アップデート SPECIAL 第 62 回日本小児アレルギー学会秋季学術大会教育セミナー 小児気管支喘息と末梢気道病変, 日経メディカル シリーズ広告企画 2013 年: 1-6.
- 9) 松井永子. 小児喘息におけるテラーメイド医療と薬剤選択, AIR 2013 年; 12 巻: 4-5.
- 10) 松井永子. 講演 3 喘息・アレルギーのテラーメイド治療について, 第 13 回喘息 Early Intervention 研究会 2013 年.
- 11) 塩田睦記, 舟塚 真, 小田絵里, 白戸由理, 竹下暁子, 石垣景子, 斉藤加代子, 下澤伸行, 大澤眞木子. 極長鎖脂肪酸の反復検査で診断し得た D-bifunctional protein 欠損症の 1 例, 東京女子医科大学雑誌 2013 年; 83 巻: E103-106.

原著 (欧文)

- 1) Morita H, Kaneko H, Ohnishi H, Kato Z, Kubota K, Yamamoto T, Matsui E, Teramoto T, Fukao T, Kasahara K, Kondo N. Structural property of soybean protein P34 and specific IgE response to recombinant P34 in patients with soybean allergy. *Int J Mol Med.* 2012;29:153-158. IF 1.880
- 2) Ohnishi H, Miyata R, Suzuki T, Nose T, Kubota K, Kato Z, Kaneko H, Kondo N. A rapid screening method to detect autosomal-dominant ectodermal dysplasia with immune deficiency syndrome. *J Allergy Clin Immunol.* 2012;129:578-580. IF 11.248
- 3) Katsunuma T, Matsui T, Iwata T, Nambu M, Kondo N. Hospitalizations associated with pandemic influenza A(H1N1)2009 in asthmatic children in Japan. *Allergol Int.* 2012;61:75-82.
- 4) Ohnishi H, Tochio H, Kato Z, Kawamoto N, Kimura T, Kubota K, Yamamoto T, Funasaka T, Nakano H, Wong RW, Shirakawa M, Kondo N. TRAM Is Involved in IL-18 Signaling and Functions as a Sorting Adaptor for MyD88. *PLoS One.* 2012;7:e38423. IF 3.534
- 5) Ohnishi H, Teramoto T, Iwata H, Kato Z, Kimura T, Kubota K, Nishikomori R, Kaneko H, Seishima M, Kondo N. Characterization of NLRP3 variants in Japanese cryopyrin-associated periodic syndrome patients. *J Clin Immunol.* 2012;32:221-229. IF 2.654
- 6) Omoya K, Naiki Y, Kato Z, Yoshioka S, Uchida Y, Taga T, Aoki Y, Deguchi H, Kondo N. Sweet's syndrome in a neonate with non-B54 types of human leukocyte antigen. *World J Pediatr.* 2012;8:181-184. IF 1.048
- 7) Fukao T, Maruyama S, Ohura T, Hasegawa Y, Toyoshima M, Haapalainen AM, Kuwada N, Imamura M, Yuasa I, Wierenga RK, Yamaguchi S, Kondo N. Three Japanese patients with beta-ketothiolase deficiency who share a mutation, c. 431A>C(H144P)in ACAT1: subtle abnormality in urinary organic acid analysis and blood acylcarnitine analysis using tandem mass spectrometry. *JIMD reports.* 2012;3:107-115.
- 8) Kawamoto N, Fukao T, Kaneko H, Hirayama K, Sakurai S, Arai T, Kondo M, Kawamoto M, Matsui E, Teramoto T, Kasahara K, Bai C, Zhang G, Omoya K, Matsukuma E, Morimoto M, Suzuki H, Aoki Y, Kimura T, Nada M, Morita H, Tokumi T, Takemura M, Seishima M, Shiraki M, Iwasa S, Kondo N. Risk factors for infantile atopic dermatitis and recurrent wheezing. *J Invest Allerg Clin.* 2012;22:116-125. IF 2.642
- 9) Kanzawa N, Shimozawa N, Wanders RJ, Ikeda K, Murakami Y, Waterham HR, Mukai S, Fujita M, Maeda Y, Taguchi R, Fujiki Y, Kinoshita T. Defective lipid remodeling of GPI anchors in peroxisomal disorders, Zellweger syndrome and rhizomelic chondrodysplasia punctata. *J Lipid Res.* 2012;53:653-663. IF 4.730
- 10) Teramoto T, Matsui E, Fukao T, Sakai K, Yonezawa H, Kato Z, Ohnishi H, Kaneko H, Kondo N, Azuma J, Nishima S. Repeated-Dose Pharmacokinetics of Inhaled Ciclesonide (CIC-HFA) in Japanese

- Children with Bronchial Asthma: A Phase I Study. *Allergol Int.* 2012;61:619-624.
- 11) Hori T, Ohnishi H, Teramoto T, Tsubouchi K, Naiki T, Hirose Y, Ohara O, Seishima M, Kaneko H, Fukao T, Kondo N. Autosomal-Dominant Chronic Mucocutaneous Candidiasis with STAT1-Mutation can be Complicated with Chronic Active Hepatitis and Hypothyroidism. *J Clin Immunol.* 2012;32:1213-1220. IF 2.654
 - 12) Nada M, Ohnishi H, Tochio H, Kato Z, Kimura T, Kubota K, Yamamoto T, Kamatari YO, Tsutsumi N, Shirakawa M, Kondo N. Molecular analysis of the binding mode of Toll/interleukin-1 receptor (TIR) domain proteins during TLR2 signaling. *Mol Immunol.* 2012;52:108-116. IF 4.185
 - 13) Kuramitsu M, Matsubara A, Morio T, Takagi M, Toki T, Terui K, RuNan W, Kanno H, Ohga S, Ohara A, Kitoh T, Sugita K, Kudo T, Matsubayashi T, Mizue N, Ozeki M, Masumi A, Momose H, Takizawa K, Mizukami T, Yamaguchi K, Ogawa S, Ito E, Hamaguchi I. Extensive gene deletions in Japanese patients with Diamond-Blackfan anemia. *Blood.* 2012;119:2376-2384. IF 9.775
 - 14) Kato H, Kanematsu M, Kato Z, Teramoto T, Kondo N, Hoshi H. Computed tomographic findings of Kawasaki disease with cervical lymphadenopathy. *J Comput Assist Tomo.* 2012;36:138-142. IF 1.602
 - 15) Katsunuma T, Ohya Y, Fujisawa T, Akashi K, Imamura N, Ebisawa M, Daikoku K, Kondo N, Terada A, Doi S, Nishimuta T, Noma T, Hamasaki Y, Kurihara K, Masuda K, Yamada T, Yamada M, Yoshihara S, Watanabe K, Watanabe T, Kitabayashi T, Morikawa A, Nishima S. Effects of the tulobuterol patch on the treatment of acute asthma exacerbations in young children. *Allergy Asthma Proc.* 2012;33:28-34. IF 3.353
 - 16) Fujisawa T, Murase K, Kanoh H, Takemura M, Ohnishi H, Seishima M. Adsorptive depletion of CD14+ CD16+ proinflammatory monocyte phenotype in patients with generalized pustular psoriasis: clinical efficacy and effects on cytokines. *Ther Apher Dial.* 2012;16:436-444. IF 1.532
 - 17) Tanaka A, Okuyama T, Suzuki Y, Sakai N, Takakura H, Sawada T, Tanaka T, Otomo T, Ohashi T, Ishige-Wada M, Yabe H, Ohura T, Suzuki N, Kato K, Adachi S, Kobayashi S, Mugishima H, Kato S. Long-term efficacy of hematopoietic stem cell transplantation on brain involvement in patients with mucopolysaccharidosis type II: A nationwide survey in Japan. *Mol Genet Metab.* 2012;107:513-520. IF 2.827
 - 18) Kato H, Kanematsu M, Kato Z, Teramoto T, Mizuta K, Aoki M, Makita H, Kato K. Necrotic cervical nodes: Usefulness of diffusion-weighted MR imaging in the differentiation of suppurative lymphadenitis from malignancy. *Eur J Radiol.* 2012;82:e28-35. IF 2.160
 - 19) Purevsuren J, Hasegawa Y, Fukuda S, Kobayashi H, Mushimoto Y, Yamada K, Takahashi T, Fukao T, Yamaguchi S. Clinical and Molecular Aspects of Japanese Children with Medium Chain Acyl-CoA Dehydrogenase Deficiency. *Mol Genet Metab.* 2012;107:237-240. IF 2.827
 - 20) Yamaguchi S, Li H, Purevsuren J, Yamada K, Furui M, Takahashi T, Mushimoto Y, Kobayashi H, Taketani T, Fukao T, Fukuda S. Bezafibrate can be a new treatment option for mitochondrial fatty acid oxidation disorder: evaluation by in vitro probe acylcarnitine assay. *Mol Genet Metab.* 2012;107:87-91. IF 2.827
 - 21) Hori T, Fukao T, Murase K, Sakaguchi N, Harding CO, Kondo N. Molecular Basis of Two-Exon Skipping (Exons 12 and 13) by c.1248+5g>a in *OXCT1* gene: Study on Intermediates of *OXCT1* Transcripts in Fibroblasts. *Hum Mutat.* 2013;34:473-480. IF 5.122
 - 22) Yamamoto T, Tsutsumi N, Tochio H, Ohnishi H, Kubota K, Kato Z, Shirakawa M, Kondo N. Functional assessment of the mutational effects of human IRAK4 and MyD88 genes. *Mol Immunol.* 2013;58:66-76.
 - 23) Kubota K, Ohnishi H, Teramoto T, Matsui E, Murase K, Kanoh H, Kato Z, Kaneko H, Seishima M, Kondo N. In Vitro Analysis of the Functional Effects of an NLRP3 G809S Variant with the co-Existence of MEFV Haplotype Variants in Atypical Autoinflammatory Syndrome. *J Clin Immunol.* 2013;33:325-334. IF 2.654
 - 24) Kato Z, Sasai H, Funato M, Asano T, Kondo N. Acute cerebellitis associated with rotavirus infection. *World J Pediatr.* 2013;9:87-89.
 - 25) Ozeki M, Kanda K, Kawamoto N, Ohnishi H, Fujino A, Hirayama M, Kato Z, Azuma E, Fukao T, Kondo N. Propranolol as an alternative treatment option for pediatric lymphatic malformation. *Tohoku J Exp Med.* 2013;229:61-66. IF 1.283
 - 26) Kato H, Kanematsu M, Kato Z, Teramoto T, Mizuta K, Aoki M, Makita H, Kato K. Necrotic cervical nodes: usefulness of diffusion-weighted MR imaging in the differentiation of suppurative lymphadenitis from malignancy. *Eur J Radiol.* 2013;82:e28-35. IF 2.160
 - 27) Funato M, Kaneko H, Sasai H, Kubota K, Ozeki M, Kanda K, Kato Z, Kondo N. Peripheral blood stem cell transplantation in a significant body weight difference between a smaller donor and a larger recipient: a case report. *Transfus Apher Sci.* 2013;49:504-506. IF 1.072
 - 28) Yoshioka T, Nishikomori R, Hara J, Okada K, Hashii Y, Okafuji I, Nodomi S, Kawai T, Izawa K, Ohnishi H, Yasumi T, Nakahata T, Heike T. Autosomal dominant anhidrotic ectodermal dysplasia with immunodeficiency caused by a novel NFKBIA mutation, p.Ser36Tyr, presents with mild ectodermal dysplasia and non-infectious systemic inflammation. *J Clin Immunol.* 2013;7:33. IF 2.654
 - 29) Kawamoto N, Ohnishi H, Kondo N. Strominger JL. The role of dendritic cells in the generation of CD4+ CD25HI Foxp3+ T cells induced by amino acid copolymers. *Int Immunol.* 2013;25:53-65. IF 3.181
 - 30) Purevsuren J, Kobayashi H, Hasegawa Y, Yamada K, Takahashi T, Takayanagi M, Fukao T, Fukuda S,

- Yamaguchi S. Intracellular in vitro acylcarnitine cylcarnitine assay for identifying deficiencies of carnitine transporter and carnitine palmitoyltransferase-1. *Anal Bioanal Chem.* 2013;405:1345-1351.
- 31) Shafqat N, Kavanagh KL, Sass JO, Christensen E, Fukao T, Lee WH, Oppermann U, Yue WW. A structural mapping of mutations causing succinyl-CoA:3-ketoacid CoA transferase (SCOT) deficiency. *J Inherit Metab Dis.* 2013;36:983-987. IF 4.138
- 32) Buhaş D, Bernard G, Fukao T, Lortie A, Décarie J-C, Chouinard S, Mitchell GA. A treatable new cause of cholea:beta-ketothiolase deficiency. *Movement Disord.* 2013;28:1054-1056. IF 5.634
- 33) Kawamoto N, Fukao T, Kaneko H, Hirayama K, Sakurai S, Arai T, Kondo M, Kawamoto M, Matsui E, Orii K, Kasahara K, Takemura M, Seishima M, Shiraki M, Iwasa S, Kondo N. Total IgE at 6 months predicts remittance or persistence of atopic dermatitis at 14 months. *Allergy Asthma Proc.* 2013;34:362-369. IF 3.353
- 34) Fukao T, Aoyama Y, Murase K, Hori T, Wierenga R, Boneh A, Kondo N. Development of MLPA for Human ACAT1 Gene and Identification of a Heterozygous Alu-mediated Deletion of Exons 2 and 3 in a Patient with Mitochondrial Acetoacetyl-CoA Thiolase (T2) Deficiency. *Mol Genet Metab.* 2013;110:184-187. IF 2.827
- 35) Fukushima T, Kaneoka H, Yasuno T, Sasaguri Y, Tokuyasu T, Tokoro K, Fukao T, Saito T. Three novel mutations in the carnitine-acylcarnitine translocase (CACT) gene in patients with CACT deficiency and in healthy individuals. *J Hum Genet.* 2013;58:788-793. IF 2.526
- 36) Yamaguchi S, Purevusren J, Kobayashi H, Hasegawa Y, Mushimoto Y, Yamada K, Takahashi T, Furui M, Taketani T, Fykuda S, Fukao T, Shigematsu Y. Expanded newborn mass screening with MS/MS and medium-chain acyl-CoA dehydrogenase (MCAD) deficiency in Japan. *J Jap Soc Mass-screening.* 2013;23:270-276.
- 37) Abe K, Evans P, Austin JE, Suzuki Y, Fujisaki K, Niwa M, Aomatsu M. Expressing one's feelings and listening to others increases emotional intelligence: a pilot study of Asian medical students. *Bmc Med Educ.* 2013;13:82. IF 1.409
- 38) Dũng VC, Tomatsu S, Montaño AM, Gottesman G, Bober MB, Mackenzie W, Maeda M, Mitchell GA, Suzuki Y, Orii T. Mucopolysaccharidosis IVA: Correlation between genotype, phenotype and keratin sulfate levels. *Mol Genet Metab.* 2013;110:129-138. IF 2.827
- 39) Tomatsu S, Fujii T, Fukushi M, Oguma T, Shimada T, Maeda M, Kida K, Shibata Y, Futatsumori H, Montaño AM, Mason RW, Yamaguchi S, Suzuki Y, Orii T. Newborn screening and diagnosis of mucopolysaccharidoses. *Mol Genet Metab.* 2013;110:42-53. IF 2.827
- 40) Yasuda E, Fushimi K, Suzuki Y, Shimizu K, Takami T, Zustin J, Patel P, Ruhnke K, Shimada T, Boyce B, Kokas T, Barone C, Theroux M, Mackenzie W, Nagel B, Ryerse JS, Orii KE, Iida H, Orii T, Tomatsu S. Pathogenesis of Morquio A syndrome: an autopsied case reveals systemic storage disorder. *Mol Genet Metab.* 2013;109:301-311. IF 2.827
- 41) Vu Chi Dung, Shimozawa N, Nguyen Ngoc Khanh, Bui Phuong Thao, Can Thi Bich Ngoc, Nguyen Phu Dat, Nguyen Thi Hoan. Mutations of ABCD1 gene and phenotype of Vietnamese patients with X-linked adrenoleukodystrophy (X-ALD). *International Journal of Pediatric Endocrinology.* 2013; Suppl 1: 127.
- 42) Ohba C, Osaka H, Iai M, Yamashita S, Suzuki Y, Aida N, Shimozawa N, Takamura A, Doi H, Tomita-Katsumoto A, Nishiyama K, Tsurusaki Y, Nakashima M, Miyake N, Eto Y, Tanaka F, Matsumoto N, Saito H. Diagnostic utility of whole exome sequencing in patients showing cerebellar and/or vermis atrophy in childhood. *Neurogenetics.* 2013;14:225-232.
- 43) Hama K, Nagai T, Nishizawa C, Ikeda K, Morita M, Satoh N, Nakanishi H, Imanaka T, Shimozawa N, Taguchi R, Inoue K, Yokoyama K. Molecular Species of Phospholipids with Very Long Chain Fatty Acids in Skin Fibroblasts of Zellweger Syndrome. *Lipids.* 2013;48:1253-1267.
- 44) Matsui S, Funahashi M, Honda A, Shimozawa N. Newly identified milder phenotype of peroxisome biogenesis disorder caused by mutated PEX3 gene. *Brain Dev-JPN.* 2013;35:842-848. IF 1.542
- 45) Mizuno Y, Ninomiya Y, Nakachi Y, Iseki M, Iwasa H, Akita M, Tsukui T, Shimozawa N, Ito C, Toshimori K, Nishimukai M, Hara H, Maeba R, Okazaki T, Nasser A, Alodaib A, Amoudi MA, Jacob M, Alkuraya FS, Horai Y, Watanabe M, Motegi H, Wakana S, Noda T, Kurochkin IV, Mizuno Y, Schönbach C, Okazaki Y. Tysnd1 deficiency in mice interferes with the peroxisomal localization of PTS2 enzymes, causing lipid metabolic abnormalities and male infertility. *PLoS Genet.* 2013;9:e1003286. IF 8.167
- 46) Morita M, Kobayashi J, Yamazaki K, Kawaguchi K, Honda A, Sugai K, Shimozawa N, Koide R, Imanaka T. A novel double mutation in the ABCD1 gene in a patient with X-linked adrenoleukodystrophy: Analysis of the stability and function of the mutant ABCD1 protein. *JIMD Reports.* 2013;10:95-102.
- 47) Iwasa M, Yamagata T, Mizuguchi M, Itoh M, Matsumoto A, Hironaka M, Honda A, Momoi M, Shimozawa N. Contiguous ABCD1 DXS1357E deletion syndrome: Report of an autopsy case. *Neuropathology.* 2013;33:292-298.
- 48) Yamada M, Tanaka M, Takagi M, Kobayashi S, Taguchi Y, Takashima S, Tanaka K, Touge T, Hatsuta H, Murayama S, Hayashi Y, Kaneko M, Ishiura H, Mitsui J, Atsuta N, Sobue G, Shimozawa N, Inuzuka T, Tsuji S, Hozumi I. Evaluation of SLC20A2 mutations that cause idiopathic basal ganglia

- calcification in Japan. *Neurology*. 2014;82:705-712.
- 49) Kamemura N, Kawamoto N, Nakamura R, Teshima R, Fukao T, Kido H. Low-affinity allergen-specific IgE in cord blood and affinity maturation after birth. *J Allergy Clin Immunol*. 2014;133:904-905. IF 11.248
 - 50) Akella RR, Aoyama Y, Mori C, Lingappa L, Cariappa R, Fukao T. Metabolic encephalopathy in beta-ketothiolase deficiency: the first report from India. *Brain Dev*. 2014;536-537. IF 1.542
 - 51) Kubota K, Ozeki M, Hori T, Kanda K, Funato M, Asano T, Fukao T, Kondo N. Facial palsy as an unusual presenting symptom associated with acute myeloid leukemia. *Pediatr Int*. 2014;56:e37-40. doi: 10.1111/ped.12384. IF 0.735
 - 52) Patel P, Suzuki Y, Tanaka A, Yabe H, Kato S, Shimada T, Mason RW, Orii KE, Fukao T, Orii T, Tomatsu S. Impact of Enzyme Replacement Therapy and Hematopoietic Stem Cell Therapy on Growth in Patients with Hunter Syndrome. *Mol Genet Metab*. 2014;1:184-196. IF 2.287
 - 53) Shimada T, Kelly J, LaMarr WA, van Vlies N, Yasuda E, Mason RW, Mackenzie W, Kubaski F, Giugliani R, Chinen Y, Yamaguchi S, Suzuki Y, Orii KE, Fukao T, Orii T, Tomatsu S. Novel heparan sulfate assay by using automated high-throughput mass spectrometry: Application to monitoring and screening for mucopolysaccharidoses. *Mol Genet Metab*. 2014;113:92-99. doi: 10.1016/j.ymgme.2014.07.008. Epub 2014 Jul 21 IF 2.827
 - 54) Fujisawa T, Fukao T, Shimomura Y, Seishima M. A novel TRPS1 mutation in a family with tricho-rhino-phalangeal syndrome type 1. *J Dermatol*. 2014;41:514-517. doi: 10.1111/1346-8138.12511.
 - 55) Fukao T, Akiba K, Goto M, Kuwayama N, Morita M, Hori T, Aoyama Y, Venkatesan R, Wierenga R, Moriyama Y, Hashimoto T, Usuda N, Murayama K, Ohtake A, Hasegawa Y, Shigematsu Y, Hasegawa Y. The first case in Asia of 2-methyl-3-hydroxybutyryl-CoA dehydrogenase deficiency (HSD10 disease) with atypical presentation. *J Hum Genet*. 2014;59:609-614. doi: 10.1038/jhg.2014.79. Epub 2014 Sep 18. IF 2.526
 - 56) Vatanavicharn N, Yamada K, Aoyama Y, Fukao T, Densupsoontorn N, Jirapinyo P, Sathienkijkanchai A, Yamaguchi S, Wasant P. Carnitine-acylcarnitine translocase deficiency: Two neonatal cases with common splicing mutation and in vitro bezafibrate response. *Brain Dev*. 2014. pii: S0387-7604(14)00253-8. doi: 10.1016/j.braindev.2014.10.005. IF 1.542
 - 57) Kiema TR, Harijan RK, Strozyk M, Fukao T, Alexson SE, Wierenga RK. The crystal structure of human mitochondrial 3-ketoacyl-CoA thiolase (T1): insight into the reaction mechanism of its thiolase and thioesterase activities. *Acta Crystallogr D*. 2014;70:3212-3225. doi: 10.1107/S1399004714023827. Epub 2014 Nov 22. IF 7.232
 - 58) Wang SP, Yang H, Wu JW, Gauthier N, Fukao T, Mitchell GA. Metabolism as a tool for understanding human brain evolution: lipid energy metabolism as an example. *J Hum Evol*. 2014;77:41-49. doi: 10.1016/j.jhevol.2014.06.013. Epub 2014 Dec 6. IF 3.867
 - 59) Yamada M, Tanaka M, Takagi M, Kobayashi S, Taguchi Y, Takashima S, Tanaka K, Touge T, Hatsuta H, Murayama S, Hayashi Y, Kaneko M, Ishiura H, Mitsui J, Atsuta N, Sobue G, Shimozawa N, Inuzuka T, Tsuji S, Hozumi I. Evaluation of SLC20A2 mutations that cause idiopathic basal ganglia calcification in Japan. *Neurology*. 2014;82:705-712. IF 8.303
 - 60) Aihara Y, Oh-oka K, Kondo N, Sharma J, Ishimaru K, Hara M, Yamagata Z, Nakao A. Comparison of colostrum TGF- β 2 levels between lactating women in Japan and Nepal. *Asian Pac J Allergy Immunol*. 2014;32:178-184.
 - 61) Hamasaki Y, Kohno Y, Ebisawa M, Kondo N, Nishima S, Nishimuta T, Morikawa A, Aihara Y, Akasawa A, Adachi Y, Arakawa H, Ikebe T, Ichikawa K, Inoue T, Iwata T, Urisu A, Ohya Y, Okada K, Odajima H, Katsunuma T, Kameda M, Kurihara K, Sakamoto T, Shimojo N, Suehiro Y, Tokuyama K, Nambu M, Fujisawa T, Matsui T, Matsubara T, Mayumi M, Mochizuki H, Yamaguchi K, Yoshihara S. Japanese pediatric guideline for the treatment and management of bronchial asthma 2012. *Pediatr Int*. 2014;56:441-450. IF 0.731
 - 62) Urisu A, Ebisawa M, Ito K, Aihara Y, Ito S, Mayumi M, Kohno Y, Kondo N. Committee for Japanese Pediatric Guideline for Food Allergy, Japanese Society of Pediatric Allergy, Clinical Immunology, Japanese Society of Allergology: Japanese Guideline for Food Allergy 2014. *Allergol Int*. 2014;63:399-419.
 - 63) Katayama I, Kohno Y, Akiyama K, Aihara M, Kondo N, Saeki H, Shoji S, Yamada H, Nakamura K. Japanese Society of Allergology: Japanese Guideline for Atopic Dermatitis 2014. *Allergol Int*. 2014;63:377-398.
 - 64) Hamasaki Y, Kohno Y, Ebisawa M, Kondo N, Nishima S, Nishimuta T, Morikawa A. Japanese Society of Allergology, Japanese Society of Pediatric Allergy, Clinical Immunology: Japanese Guideline for Childhood Asthma 2014. *Allergol Int*. 2014;63:335-356.
 - 65) Yamamoto T, Tsutsumi N, Tochio H, Ohnishi H, Kubota K, Kato Z, Shirakawa M, Kondo N. Functional assessment of the mutational effects of human IRAK4 and MyD88 genes. *Mol Immunol*. 2014;58:66-76. IF 3.003
 - 66) Kimura T, Tsutsumi N, Arita K, Ariyoshi M, Ohnishi H, Kondo N, Shirakawa M, Kato Z, Tochio H. Purification, crystallization and preliminary X-ray crystallographic analysis of human IL-18 and its extracellular complexes. *Acta Crystallogr F Struct Biol Commun*. 2014;70:1351-1356. doi: 10.1107/S2053230X14016926. Epub 2014 Sep 25.

- 67) Funato M, Uemura O, Ushijima K, Ohnishi H, Orii K, Kato Z, Yamakawa S, Nagai T, Ohara O, Kaneko H, Kondo N. A Complement factor B mutation in a large kindred with atypical hemolytic uremic syndrome. *J Clin Immunol.* 2014;34:691-695. IF 2.654
- 68) Tsutsumi N, Kimura T, Ariyoshi M, Ohnishi H, Yamamoto T, Zuo X, Maenaka K, Park EY, Kondo N, Shirakawa M, Tochio H, Kato Z. The structural basis for receptor recognition of human interleukin-18. *Nat Commun.* 2014;5:5340. IF 10.742
- 69) Kamemura N, Kawamoto N, Nakamura R, Teshima R, Fukao T, Kido H. Low-affinity allergen-specific IgE in cord blood and affinity maturation after birth. *J Allergy Clin Immunol.* 2014;133:904-905.
- 70) Tamura K, Matsubara K, Ishiwada N, Nishi J, Ohnishi H, Suga S, Ihara T, Chang B, Akeda Y, Oishi K. Japanese IPD Study Group: Hyporesponsiveness to the infecting serotype after vaccination of children with seven-valent pneumococcal conjugate vaccine following invasive pneumococcal disease. *Vaccine.* 2014;32:1444-1450. IF 3.485
- 71) Ohkuma Y, Hayashi T, Yoshimine S, Tsuneoka H, Terao Y, Akiyama M, Ida H, Ohashi T, Okumura A, Ebihara N, Murakami A, Shimozaawa N. Retinal Ganglion Cell Loss in X-linked Adrenoleukodystrophy with an ABCD1 Mutation (Gly266Arg). *Neuro-Ophthalmology.* 2014;38:331-335.
- 72) Isogawa M, Yoshida S, Shimozaawa N. Evaluation of fourier transform infrared spectroscopy for diagnosis of peroxisomal diseases with abnormal very-long-chain fatty acid metabolism. *Am J Analytical Chemistry.* 2014;5:359-366.
- 73) Kubota K, Ohnishi H, Teramoto T, Kawamoto N, Kasahara K, Ohara O, Kondo N. Clinical and genetic characterization of Japanese sporadic cases of periodic Fever, aphthous stomatitis, pharyngitis and adenitis syndrome from a single medical center in Japan. *J Clin Immunol.* 2014;34:584-593. IF 2.654
- 74) Niwa M, Yoshida S, Takamizawa K, Nagaoka S, Kawakubo N, Takahashi Y, Suzuki Y. Facilitation of web-based internet PBL: what is an adequate group size? *International e-Journal of Science, Medicine & Education.* 2014;8:4-11.
- 75) Patel P, Suzuki Y, Maeda M, Yasuda E, Shimada T, Orii KE, Orii T, Tomatsu S. Growth charts for patients with Hunter Syndrome. *Mol Genet Metab.* 2014;1:5-18. IF 2.827
- 76) Tomatsu S, Shimada T, Mason RW, Kelly J, LaMarr WA, Yasuda E, Shibata Y, Futatsumori H, Montañó AM, Yamaguchi S, Suzuki Y, Orii T. Assay for Glycosaminoglycans by Tandem Mass Spectrometry and its Applications. *J Anal Bioanal Tech.* 2014;(Suppl 2):006 Published online 2014 Mar 1.
- 77) Shimada T, Kelly J, LaMarr WA, van Vlies N, Yasuda E, Mason RW, Mackenzie W, Kubaski F, Giugliani R, Chinen Y, Yamaguchi S, Suzuki Y, Orii KE, Fukao T, Orii T, Tomatsu S. Novel heparan sulfate assay by using automated high-throughput mass spectrometry: Application to monitoring and screening for mucopolysaccharidoses. *Mol Genet Metab.* 2014;113:92-99. IF 2.827
- 78) Shimada T, Tomatsu S, Yasuda E, Mason RW, Mackenzie WG, Shibata Y, Kubaski F, Giugliani R, Yamaguchi S, Suzuki Y, Orii K, Orii T. Chondroitin 6-Sulfate as a Novel Biomarker for Mucopolysaccharidosis IVA and VII. *JIMD Rep.* 2014;16:15-24. doi: 10.1007/8904_2014_311.

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：加藤善一郎；科学研究費補助金基盤研究(C)：新規に発見されたインターロイキン 18 阻害剤等によるアレルギー免疫病態解析治療開発；平成 22-24 年度；4,420 千円(1,690：1,430：1,300 千円)
- 2) 研究代表者：松井永子；学術研究助成基金助成金基盤研究(C)：遺伝、環境要因の相互作用がアレルギー発症に及ぼす影響；平成 23-25 年度；4,680 千円(1,820：1,430：1,430 千円)
- 3) 研究代表者：金子英雄；学術研究助成基金助成金基盤研究(C)：抗体産生不全症における臨床経過の多様性とその病態解析－新規治療法の基礎的検討－；平成 23-25 年度；5,200 千円(2,470：1,430：1,300 千円)
- 4) 研究代表者：大西秀典；学術研究助成基金助成金若手研究(B)：Toll-インターロイキン 1 受容体ドメインの結合特異性を利用した免疫抑制法の開発；平成 23-25 年度；4,160 千円(1,820：1,170：1,170 千円)
- 5) 研究代表者：小関道夫；学術研究助成基金助成金若手研究(B)：MRP1 モジュレーターのスクリーニング解析方法の確立；平成 23-24 年度；4,030 千円(2,080：1,950 千円)
- 6) 研究代表者：近藤直実；学術研究助成基金助成金基盤研究(C)：アレルギー発症憎悪における体内時計遺伝子と環境相互の分子遺伝学的解析と臨床展開；平成 24-26 年度；5,200 千円(2,080：2,080：1,040 千円)
- 7) 研究代表者：深尾敏幸；学術研究助成基金助成金基盤研究(C)：ケトン体代謝とその異常症の解析－SCOT 発現調節機構の解明を中心にして－；平成 24-26 年度；5,330 千円(1,950：1,690：1,690 千円)

- 8) 研究代表者：深尾敏幸；科学研究費補助金新学術領域研究：Alu 配列と遺伝性疾患の病態に関する研究；平成 24-25 年度；11,440 千円(5,590：5,850 千円)
- 9) 研究代表者：船戸道徳；学術研究助成基金助成金基盤研究(B)：L-アスパラギナーゼによる薬剤性急性膵炎に対する試験管内疾患モデルの開発；平成 24-25 年度；4,160 千円(2,080：2,080 千円)
- 10) 研究代表者：金子英雄，研究分担者：深尾敏幸，加藤善一郎；厚生労働省難治性疾患克服研究事業：遺伝子修復異常症(Bloom 症候群，Rothmund-thomson 症候群，Baller-Gerold 症候群)の実態調査、早期診断法の確立に関する研究；平成 23-24 年度；1,500 千円(500：1,000 千円)
- 11) 研究代表者：大西秀典，研究分担者：大西秀典，加藤善一郎；厚生労働省難治性疾患克服研究事業：インターロイキン 1 受容体関連キナーゼ 4(IRAK4)欠損症の全国症例数把握及び早期診断スクリーニング・治療法開発に関する研究；平成 22-24 年度；40,950 千円(17,550：13,000：10,400 千円)
- 12) 研究代表者：原 寿郎，研究分担者：近藤直実，加藤善一郎；厚生労働省難治性疾患克服研究事業：原発性免疫不全症候群に関する調査研究；平成 23-25 年度；4,500 千円(1,500：1,500：1,500 千円)
- 13) 研究代表者：海老澤元宏，研究分担者：近藤直実；厚生労働省免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業：小児期の食物アレルギーの新しい診断法・管理法の確立と治療法の開発に関する研究；平成 24-25 年度；2,500 千円(1,000：1,500 千円)
- 14) 研究代表者：大田 健，研究分担者：近藤直実；厚生労働省免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業：気管支喘息に対する喘息死の予防や自己管理手法の普及に関する研究；平成 24-25 年度；2,000 千円(1,000：1,000 千円)
- 15) 研究代表者：平家俊男，研究分担者：近藤直実；厚生労働省難治性疾患克服研究事業：自己炎症疾患とその類縁疾患に対する新規診療基盤の確立；平成 24-25 年度；3,500 千円(2,000：1,500 千円)
- 16) 研究代表者：小関道夫，研究分担者：小関道夫，近藤直実；厚生労働省難治性疾患克服研究事業：リンパ管腫症の全国症例数把握及び診断・治療法の開発に関する研究；平成 24-25 年度；5,226 千円(2,950：2,276 千円)
- 17) 研究代表者：遠藤文夫，研究分担者：深尾敏幸；厚生労働省難治性疾患克服研究事業：新しい新生児代謝スクリーニング時代に適応した先天代謝異常症の診断基準作成と治療ガイドラインの作成および新たな薬剤開発に向けた調査研究；平成 24 年度；3,500 千円
- 18) 研究代表者：山口清次，研究分担者：深尾敏幸；厚生労働省成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業：タンデムマス導入による新生児マスキューニング体制の整備と質的向上に関する研究；平成 24 年度；200 千円
- 19) 研究代表者：川本典生；研究科長・医学部長裁量経費(重点的配分)：臍帯血を用いた出生コホート研究によるアレルギー疾患に関わる遺伝子のスクリーニング；平成 24 年度；770 千円
- 20) 研究代表者：船戸道徳；研究科長・医学部長裁量経費(重点的配分)：Li-Fraumeni 様症候群患者疾患特異的 iPS 細胞を用いた発癌機構の解明；平成 24 年度；770 千円
- 21) 研究代表者：大西秀典；研究科長・医学部長裁量経費(重点的配分)：悪性リンパ腫発生に関与する MyD88 体細胞変異の構造学的検討；平成 24 年度；770 千円
- 22) 研究代表者：小関道夫；森永奉仕会研究奨励金：抗癌剤耐性機構の解析と多剤耐性関連蛋白質(MRP1)モジュレーターの開発；平成 23 年度；50 万円
- 23) 研究代表者：近藤直実；独立行政法人環境保全機構委託業務：気管支ぜん息発症予防のための客観的かつテーラーメイド的予知のスクリーニング基準の確立；平成 24-26 年度；10,400 千円(5,200：5,200 千円)
- 24) 研究代表者：近藤直実；糧食研究会：牛乳アレルギーなどの新規治療開発と予知予防；平成 23-25 年度；1,600 千円
- 25) 研究代表者：臼井規朗，研究分担者：小関道夫；厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業：小児呼吸器形成異常・低形成疾患に関する実態調査ならびに診療ガイドライン作成に関する研究；平成 26 年度；250 千円
- 26) 研究代表者：三村秀文，研究分担者：小関道夫；厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業：難治性血管腫・血管奇形・リンパ管種・リンパ管種症および関連疾患についての調査研究；平成 26 年度；850 千円
- 27) 研究代表者：田口智章，研究分担者：小関道夫；厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業：小児期からの希少難治性消化管疾患の移行期を包含するガイドラインの確立に関する研究；平成 26 年度；200 千円
- 28) 研究代表者：藤野明浩，研究分担者：小関道夫；厚生労働科学研究委託費難治性疾患実用化研究事業：先天性リンパ管疾患の診療指針作成および病理・細胞生物学的知見の臨床応用へ向けた研究；

- 平成 26 年度；1000 千円
- 29) 研究代表者：岡 明, 研究分担者：松井永子；厚生労働省科学研究費補助金食品の安全確保推進研究事業：母乳のダイオキシン類汚染の実態調査と乳幼児の発達への影響に関する研究；平成 26 年度；400 千円
 - 30) 研究代表者：深尾敏幸, 研究分担者：深尾敏幸；厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業：HSD10 病の発症形態と患者数の把握、診断基準の作成に関する研究；平成 26 年度；1,400 千円
 - 31) 研究代表者：遠藤文夫, 研究分担者：深尾敏幸；厚生労働省研究費補助金難治性疾患等政策研究事業：新しい先天代謝異常症スクリーニング時代に適応した治療ガイドラインの作成および生涯にわたる診療体制の確立に向けた調査研究；平成 26 年度；1,200 千円
 - 32) 研究代表者：深尾敏幸；厚生労働省科学研究委託費難治性疾患実用化研究事業：新生児タンデムマスキリーニング対象患者の診療ガイドライン改訂、診療の質を高めるための研究；平成 26 年度；29,900 千円
 - 33) 研究代表者：佐藤典宏, 研究分担者：深尾敏幸；厚生労働省研究費補助金医療技術実用化総合研究事業：新規医薬品・医療機器等の創出、難治性疾患の治療法の開発および最適な治療法の確立に関する研究；平成 26 年度；400 千円
 - 34) 研究代表者：平家俊男, 研究分担者：大西秀典；厚生労働省研究費補助金難治性疾患等政策研究事業：自己炎症性疾患とその類縁疾患の診断基準、重症度分類、診療ガイドライン確立に関する研究；平成 26 年度；1,000 千円
 - 35) 研究代表者：斎藤加代子, 研究分担者：加藤善一郎；厚生労働省研究費補助金難治性疾患等実用化研究事業：小児期発症脊髄性筋萎縮症に対するバルプロ酸ナトリウム多施設共同医師主導治験準備研究；平成 26 年度；1,000 千円
 - 36) 研究代表者：野々山恵章, 研究分担者：加藤善一郎；厚生労働省研究費補助金難治性疾患等政策研究事業：原発性免疫不全症候群の診断基準・重症度分類および診療ガイドラインの確立に関する研究；平成 26 年度；500 千円
 - 37) 研究代表者：野々山恵章, 研究分担者：加藤善一郎；厚生労働省科学研究委託費難治性疾患等政策研究事業：原発性免疫不全症候群の病態解明と新規治療法開発への応用に関する研究；平成 26 年度；1,000 千円
 - 38) 研究代表者：船戸道徳, 研究分担者：加藤善一郎；厚生労働省研究委託費難治性疾患等克服研究事業：脊髄性筋萎縮症患者細胞により新たに同定した薬剤候補により iPS 細胞を用いた非臨床試験及び薬剤臨床治験準備研究；平成 26 年度；2,500 千円
 - 39) 研究代表者：川本典生；学術研究助成基金助成金若手研究(B)：免疫寛容誘導に関わるバイオマーカーの網羅的探索とその診断技術の確立；平成 26-27 年度；4,030 千円(1,820：2,210 千円)
 - 40) 研究代表者：久保田一生；学術研究助成基金助成金若手研究(B)：アレルギー疾患発症の解明に向けた Toll 様受容体 10 を介したシグナル伝達経路解析；平成 25-27 年度；4,030 千円(1,690：1,170：1,170 千円)
 - 41) 研究代表者：堀 友博；学術研究助成基金助成金若手研究(B)：スプライシングオーダー解析による組織特異的な選択的スプライシング機構の解明；平成 26-27 年度；3,900 千円(1,950：1,950 千円)
 - 42) 研究代表者：加藤善一郎；科学研究費補助金基盤研究(C)：新規 IL18 阻害剤臨床応用研究及びβ-trefoil 型サイトカイン分子標的薬探索；平成 25-27 年度；5,070 千円(1,820：1,690：1,560 千円)
 - 43) 研究代表者：折居建治；科学研究費補助金基盤研究(C)：ムコ多糖症に対する新薬治療薬の安全性と効果に関する研究；平成 26-28 年度；4,680 千円(1,950：1,300：1,430 千円)
 - 44) 研究代表者：大西秀典；科学研究費補助金基盤研究(C)：クライオパイリン関連周期熱症候群の発症機序の構造生物学的解明；平成 26-28 年度；4,810 千円(1,950：1,430：1,430 千円)
 - 45) 研究代表者：小関道夫；科学研究費補助金基盤研究(C)：難治性血管腫・リンパ管種に対するプロプラノロール療法の確立；平成 25-27 年度；3,800 千円(1,400：1,400：1,000 千円)
 - 46) 研究代表者：深尾敏幸；科学研究費補助金新学術領域研究：ヒトゲノムにおける Alu 配列の遺伝性疾患、遺伝的多様性に与える影響に関する研究；平成 26-27 年度；9,900 千円(5,460：3,540 千円)
 - 47) 研究代表者：野坂俊介, 研究分担者：小関道夫；成育医療研究開発費：小児リンパ管疾患の実態調査および鑑別診断基準・治療指針の作成；平成 26 年度；300 千円

2) 受託研究

なし

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

近藤直実：

- 1) 日本小児科学会代議員(～現在)
- 2) 日本小児科学会施設認定・指導責任医(～現在)
- 3) 日本小児科学会専門医(～現在)
- 4) 日本小児科学会東海地方会理事長(～現在)
- 5) 日本小児科学会東海地方会理事(～現在)
- 6) 日本小児科学会東海地方会幹事(～現在)
- 7) 日本アレルギー学会常務理事(財務担当, 専門医制度担当)(～現在)
- 8) 日本アレルギー学会理事(～現在)
- 9) 日本アレルギー学会施設認定・指導医(～現在)
- 10) 日本アレルギー学会専門医(～現在)
- 11) 日本アレルギー学会アトピー性皮膚炎ガイドライン専門部委員(～現在)
- 12) 日本小児アレルギー学会理事(～現在)
- 13) 日本小児アレルギー学会理事長(～現在)
- 14) 日本小児アレルギー学会喘息治療・管理ガイドライン委員(～現在)
- 15) 日本小児アレルギー学会食物アレルギー委員(～現在)
- 16) 日本人類遺伝学会施設認定・指導医(～現在)
- 17) 日本人類遺伝学会専門医(～現在)
- 18) 日本小児保健協会評議員・支部長(～現在)
- 19) 食物アレルギー研究会世話人(～現在)

深尾敏幸：

- 1) 日本先天代謝異常学会評議員(～現在)
- 2) 日本先天代謝異常学会理事(～現在)
- 3) 日本人類遺伝学会評議員(～現在)
- 4) 日本小児科学会東海地方会幹事(～現在)
- 5) 日本人類遺伝学会指導医(～現在)
- 6) 日本小児科学会代議員(～現在)
- 7) 日本マスキリーニング学会評議員(～現在)
- 8) 日本マスキリーニング学会理事(平成 25 年度～現在)
- 9) 日本アレルギー学会代議員(～現在)
- 10) 東海臨床遺伝・代謝懇話会世話人(～現在)

金子英雄：

- 1) 日本アレルギー学会代議員(～現在)
- 2) 日本小児科学会東海地方会幹事(～現在)
- 3) 日本小児科学会代議員(～現在)

加藤善一郎：

- 1) 日本小児科学会代議員(～現在)
- 2) 日本アレルギー学会代議員(～現在)
- 3) 日本アレルギー学会広報委員(～現在)
- 4) 日本アレルギー学会化粧品中のタンパク加水分解物の安全性に関する特別委員(～現在)
- 5) 日本小児アレルギー学会選挙管理委員(～現在)
- 6) 日本小児神経学会評議員(～現在)

- 7) 日本小児神経学会東海地方会世話人(～現在)
- 8) 日本人類遺伝学会評議員(～現在)
- 9) 日本小児科学会東海地方会幹事(～現在)

寺本貴英：

- 1) 日本小児科学会東海地方会幹事(～現在)
- 2) 日本アレルギー学会代議員(～現在)

松井永子：

- 1) 日本アレルギー学会代議員(～現在)
- 2) 日本小児科学会代議員(～現在)
- 3) 日本小児科学会東海地方会幹事(～現在)

折居建治：

- 1) 日本小児科学会東海地方会幹事(～現在)

2) 学会開催

- 1) 第15回岐阜小児感染症懇話会(平成24年3月, 岐阜)
- 2) 第155回岐阜県小児科懇話会(平成24年3月, 岐阜)
- 2) 第155回岐阜県小児科懇話会(平成24年3月, 岐阜)
- 3) 第5回岐阜免疫・感染・川崎病研究会(平成24年7月, 岐阜)
- 4) 第16回東海小児感染症研究会(平成24年10月, 名古屋)
- 5) 岐阜県小児保健協会総会・岐阜県こどもの健康を考えるつどい(平成24年10月, 岐阜)
- 6) 第16回岐阜県小児感染症懇話会(平成25年1月, 岐阜)
- 7) 第10回岐阜小児血液免疫アレルギー難治疾患研究会(平成25年2月, 岐阜)
- 8) 第2回岐阜県小児臨床アレルギー研究会(平成25年2月, 岐阜)
- 9) 第8回岐阜小児アレルギー・喘息研究会(平成25年6月, 岐阜)
- 10) 岐阜県小児保健協会総会・第24回岐阜県こどもの健康を考えるつどい(平成25年10月, 岐阜)
- 11) 第259回日本小児科学会東海地方会(平成25年10月, 岐阜)
- 12) 第3回岐阜小児臨床アレルギー研究会(平成26年3月, 岐阜)
- 13) 第11回岐阜小児血液免疫アレルギー難治疾患研究会(平成26年6月, 岐阜)
- 14) 第7回岐阜免疫・感染・川崎病研究会(平成26年7月, 岐阜)
- 15) 障がい児者医療従事者育成シンポジウム(平成26年7月, 岐阜)
- 16) 第45回岐阜エPILEPSY研究会(平成26年9月, 岐阜)
- 17) 岐阜県小児保健協会総会・第25回岐阜県こどもの健康を考えるつどい(平成26年10月, 岐阜)

3) 学術雑誌

近藤直実：

- 1) Journal of Investigational Allergology & Clinical Immunology ; 編集委員(～現在)
- 2) アレルギーの領域 ; 編集顧問(～現在)
- 3) International Review of Asthma ; 編集委員(～現在)
- 4) Pediatric Allergy for Clinicians ; 顧問(～現在)
- 5) Pediatric Allergy Immunology ; Editorial Board(～現在)

深尾敏幸：

- 1) Case Reports in Medicine ; Editorial Board(～現在)
- 2) Intractable & Rare Diseases Research ; Editorial Board(～現在)

加藤善一郎：

- 1) Journal of Pediatric Neurology ; Asian Editor(～現在)

大西秀典：

- 1) The Scientific World JOURNAL ; Editorial Board(～現在)

7. 学会招待講演、招待シンポジスト、座長

近藤直実：

- 1) 第18回岐阜アレルギー疾患治療研究会(平成24年1月, 岐阜, 特別講演I「小児の慢性咳嗽の病態と治療」座長)
- 2) 第5回日本免疫不全症研究会(平成24年1月, 東京, 一般口演D 座長)
- 3) 第9回岐阜小児血液免疫アレルギー難治疾患研究会(平成24年2月, 岐阜, 特別講演「原発性免疫不全症候群の疫学と病態」座長)
- 4) 第12回食物アレルギー研究会(平成24年2月, 東京, 特別講演「食物アレルギー診療ガイドライン2012(JPGFA2012)作成を振り返って」座長)
- 5) 第1回岐阜小児臨床アレルギー研究会(平成24年2月, 岐阜, 特別講演「アトピー性皮膚炎に関する最近の話題」座長)
- 6) 第1回名古屋西臨床アレルギー研究会(平成24年3月, 名古屋, 特別講演「喘息、アレルギー治療の現在から近未来へ」演者)
- 7) 第15回岐阜小児感染症懇話会(平成24年3月, 岐阜, 特別講演「自然免疫異常と小児疾患」座長)
- 8) 第9回日本喘息・COPDフォーラム総会(平成24年3月, 東京, 基調講演「New strategy targeted to individual treatment」座長)
- 9) 第11回 Kinki Hokuriku Airway disease Conference(平成24年4月, 大阪, session2「アレルギー疾患のピットホール」座長)
- 10) 第115回日本小児科学会学術集会(平成24年4月, 福岡, 分野別シンポジウム1「食物アレルギーの日常管理と問題点(診断と治療)」座長)
- 11) 第115回日本小児科学会学術集会(平成24年4月, 福岡, 教育セミナー21「アトピー性皮膚炎におけるアレルギーの意味と治療的介入の実際」座長)
- 12) 第24回日本アレルギー学会春季臨床大会(平成24年5月, 大阪, シンポジウム1「小児喘息から成人喘息治療への移行」演者)
- 13) 第161回東三河小児科医会学術講演会(平成24年5月, 豊橋, 特別講演「喘息・アレルギーの治療の現在から近未来へ」演者)
- 14) 第24回日本アレルギー学会春季臨床大会(平成24年5月, 大阪, ランチプログラム6「食物アレルギー診療ガイドライン2012の実地臨床への応用」座長)
- 15) 第24回日本アレルギー学会春季臨床大会(平成24年5月, 大阪, ランチプログラム12「食物アレルギーの日常診療における特異的IgE検査の活用」座長)
- 16) 第24回日本アレルギー学会春季臨床大会(平成24年5月, 大阪, シンポジウム27「食物アレルギー診療ガイドライン」座長)
- 17) 第4回小児気道アレルギーフォーラム(平成24年6月, 京都, セッション2「小児喘息における新たな治療をどう考えるか」座長)
- 18) 第7回岐阜小児アレルギー・喘息研究会(平成24年6月, 岐阜, 特別講演「食物アレルギー診療ガイドライン2012のポイント」座長)
- 19) アドエア発売5周年記念講演会(平成24年6月, 岐阜「小児領域から：小児喘息患児のQOL向上を目指して～合剤の役割とその普及～」座長)
- 20) 第43回日本職業・環境アレルギー学会総会・学術大会ーアレルギーの原点をめざしてー(平成24年6月, 東京, 特別講演「気管支喘息の発症要因とその遺伝的背景ー職業環境アレルゲンを中心としてー」座長)
- 21) The 22nd Congress of Interasma Japan / North Asia(2012.07, Fukuoka, ランチョンセミナーI「小児喘息の長期管理」演者)
- 22) 第36回日本小児皮膚科学会学術大会(平成24年7月, 群馬, モーニングセミナー「アトピー性皮膚炎ー治療の工夫ー」座長)
- 23) 第5回岐阜免疫・感染・川崎病研究会(平成24年7月, 岐阜, 特別講演「小児における抗菌薬の適生使用」座長)
- 24) Premium Symposium for pediatric practices 2012～小児呼吸器疾患のトータルマネジメント～(平成24年8月, 東京, 学術講演「小児軽症喘息における“Early Supporting Use”ー新たなエビデンスからの問題提起と今後の課題ー. 小児咳嗽マネジメントの最前線」座長)
- 25) 小児軽症喘息マネジメント2012(平成24年8月, 岐阜, 「小児気管支喘息治療・管理ガイドライン2012を紐解く. 小児軽症喘息の新たな展開ーEarly Supporting Useを中心にー」座長)
- 26) 第48回中部日本小児科学会ランチョンセミナー(平成24年8月, 福井, 特別講演「アレルギー性鼻

- 炎の基礎と臨床」座長)
- 27) 滋賀県小児アレルギー研究会(平成 24 年 9 月, 滋賀, 特別講演 2「喘息・アレルギーの治療の現在から近未来へ」演者)
 - 28) 第 49 回日本小児アレルギー学会(平成 24 年 9 月, 大阪, 教育セミナー12「小児気管支喘息の寛解と治癒を獲得するために—新たな戦略—」演者)
 - 29) 第 49 回日本小児アレルギー学会(平成 24 年 9 月, 大阪, 招待講演 1「The human microbiome in the origins of asthma and atopy」座長)
 - 30) 第 49 回日本小児アレルギー学会(平成 24 年 9 月, 大阪, シンポジウム 8「なでしこシンポジウム—女性研究者支援を考える—」座長)
 - 31) Asia Pacific Association of Pediatric Allergy, Respiriology & Immunology 2012 (APAPARI 2012)(2012.10, Taiwan, symposium4: Drug Allergy and Anaphylaxis in the New Century; moderator)
 - 32) 第 16 回東海小児感染症研究会(平成 24 年 10 月, 名古屋, 特別講演「ラボからみた予防接種の方法」座長)
 - 33) Symposium for Pediatrics 2012(平成 24 年 10 月, 東京, 「第 1 部 小児科医療の Hot Topics」座長)
 - 34) 第 15 回東葛地区喘息懇話会(平成 24 年 11 月, 千葉, 特別講演「喘息のテーラーメイド医療—治癒を獲得するための新たな戦略—」演者)
 - 35) 第 62 回日本アレルギー学会秋季学術大会(平成 24 年 11 月, 大阪, シンポジウム 5「思春期喘息—小児科・内科のスムーズな連携を目指して—」座長)
 - 36) 第 62 回日本アレルギー学会秋季学術大会(平成 24 年 12 月, 大阪, 教育セミナー20「小児気管支喘息と末梢気道病変」座長)
 - 37) 第 62 回日本アレルギー学会秋季学術大会(平成 24 年 12 月, 大阪, 招請講演「From a sneeze to wheeze and dyspnea」座長)
 - 38) 第 16 回岐阜小児感染症懇話会(平成 25 年 1 月, 岐阜, 特別講演「小児感染症の診断法とそのピットホール—適切な治療のために—」座長)
 - 39) 第 50 回アレルギー Q&A 研究会(平成 25 年 1 月, 大阪, 特別講演 2「アレルギー治療の近未来—治癒を獲得するための新たな提言—」演者)
 - 40) 第 13 回食物アレルギー研究会(平成 25 年 1 月, 東京, 特別講演「食物アレルギー診療はまさに個別化医療」演者)
 - 41) 第 2 回岐阜県小児内分泌・代謝研究会(平成 25 年 2 月, 岐阜, 特別講演「リソソーム病の臨床と研究の進歩」座長)
 - 42) 第 10 回岐阜小児血液免疫アレルギー難治疾患研究会(平成 25 年 2 月, 岐阜, 特別講演「プロテオミクスと iPS 細胞の医学研究における位置付け—疾患関連タンパク質の構造生物学的研究と分子イメージング法の開発—」座長)
 - 43) 第 2 回岐阜小児臨床アレルギー研究会(平成 25 年 2 月, 岐阜, 特別講演「アトピー性皮膚炎とタクロリムス軟膏」座長)
 - 44) 小児気管支喘息ファールーム—キプレス細粒 4mg 発売 5 周年記念講演会(平成 25 年 2 月, 熊本, 特別講演「喘息・アレルギー治療の近未来—癒を獲得するための新たな提言—」演者)
 - 45) 第 63 回東海小児アレルギー談話会(平成 25 年 3 月, 名古屋, 特別講演「喘息, アレルギーの治療を獲得するために—新たな提言—両輪療法—」演者)
 - 46) 第 12 回 Kinki Hokuriku Airway disease Conference(KiHAC)(平成 25 年 4 月, 大阪, Session2「アレルギー疾患のピットホール」座長)
 - 47) 第 116 回日本小児科学会学術集会(平成 25 年 4 月, 広島, 教育セミナー23「小児喘息の現状と課題」座長)
 - 48) 第 25 回日本アレルギー学会(平成 25 年 5 月, 横浜, シンポジウム 1「アレルギーの発症メカニズムと予防」座長)
 - 49) 第 25 回日本アレルギー学会春季臨床大会(平成 25 年 5 月, 横浜, 教育セミナー16「小児アレルギー疾患における Th2 阻害療法の位置づけ」座長)
 - 50) 第 8 回岐阜小児アレルギー・喘息研究会(平成 25 年 6 月, 岐阜, シンポジウム「喘息におけるロイコトリエン受容体拮抗薬の役割—新たな視点から—」座長)
 - 51) 第 3 回岐阜小児臨床アレルギー研究会(平成 26 年 3 月, 岐阜, 特別講演 1「食物アレルギーの診療の実際—乳児期発症のアトピー性皮膚炎も含めて—」座長)

深尾敏幸：

- 1) 第 115 回日本小児科学会学術集会(平成 24 年 4 月, 福岡, 分野別シンポジウム 4-3「有機酸代謝異常症の治療戦略」演者)
- 2) The 8th Congress of Asian Society for Pediatric Research(2012.05, Korea, Free Paper2: Genetics and Metabolism; 座長)
- 3) 第 24 回日本アレルギー学会春季臨床大会(平成 24 年 5 月, 大阪, ミニシンポジウム 5「小児気管支喘息 1」座長)
- 4) Annual symposium of Society for the Study of Inborn Errors of Metabolism(2012.09, Birmingham, An Exonic splicing enhancer mutation indentified in German beta-ketothiolase deficient patients; 演者)
- 5) 第 54 回日本先天代謝異常学会総会/第 11 回アジア先天代謝異常症シンポジウム(平成 24 年 11 月, 岐阜, 学会賞受賞講演「ケトン体代謝異常症の病態解明に関する研究」演者)
- 6) 第 54 回日本先天代謝異常学会総会/第 11 回アジア先天代謝異常症シンポジウム(平成 24 年 11 月, 岐阜, シンポジウム「若手の人材育成, 臨床能力の修得戦略」演者)
- 7) 第 54 回日本先天代謝異常学会総会/第 11 回アジア先天代謝異常症シンポジウム(平成 24 年 11 月, 岐阜, イブニングセミナー「Fatty acid oxidation and carnitine」座長)
- 8) 12th International Congress of Inborn Errors of Metabolism(2013.09, Barcelona, Workshop; Keton body metabolism and its defects; 演者)
- 9) 第 18 回日本神経感染症学会(平成 25 年 10 月, 宮崎, シンポジウム 4「ケトン代謝異常症と急性脳症」演者)
- 10) The 3rd Asian Congress for Inherited Metabolic Diseases(ACIMD)/The 55th Annual Meeting of the Japanese Society for Interited Metabolic Diseases(JSIMD)(2013.11, Maihama, Chiba, Educatipnal lecture9; Inborn errors of ketogenesis and ketone body utilization; 演者)
- 11) The 3rd Asian Congress for Inherited Metabolic Diseases(ACIMD)/55th Annual Meeting of the Japanese Society for Interited Metabolic Diseases(JSIMD)(2013.11, Maihama, Chiba, O-31; The first case of HSD10 disease(2-Methyl-3-Hydroxybutyryl-CoA dehydrogenase deficiency) from Asia; 演者)
- 12) In 1st Asia Pacific IEM course(2014.01, Tokyo, Keton body metabolism and its defrccts; 演者)
- 13) 平成 25 年度岐阜県医師会アレルギーフォーラム(平成 26 年 3 月, 岐阜, 特別講演「食物アレルギーとアナフィラキシーへの対応」座長)
- 14) 第 11 回岐阜小児血液免疫アレルギー難治疾患研究会(平成 26 年 6 月, 岐阜, 特別講演「小児てんかん治療の考え方」座長)
- 15) 第 9 回岐阜小児アレルギー・喘息研究会(平成 26 年 6 月, 岐阜, 講演「アレルギー児への予防接種と投薬への注意」座長)
- 16) 第 7 回岐阜免疫・感染・川崎病研究会(平成 26 年 7 月, 岐阜, 特別講演「当院における難治性川崎病の治療戦略～冠動脈後遺症ゼロを目指して～」座長)
- 17) International Conference on Inborn Errors of Metabolism and 3rd National Conference of ISIEM(2014.11, Hyderabad, 招待講演; Clinical Importance of ketone body metabolism abnd its defects; 演者)
- 18) Seminar in National Hospital of Pediatrics(2014.11, Hanoi, 招待講演; Ketone body metabolism and its defects; 演者)

加藤善一郎：

- 1) 第 15 回岐阜小児感染症懇話会(平成 24 年 3 月, 岐阜, 講演「感染免疫関連分子のタンパク構造解析」演者)
- 2) 第 54 回日本小児神経学会総会(平成 24 年 5 月, 札幌, 講演「Thyrotropin-releasing hormone therapy in spinal muscular atrophy -3D motion analysis-」演者)
- 3) 第 67 回岐阜臨床神経集談会(平成 24 年 7 月, 岐阜, 講演「脊髄性筋萎縮症における TRH 療法一定量の評価法としての 3 次元運動解析の応用」演者)
- 4) 第 49 回日本小児アレルギー学会(平成 24 年 9 月, 大阪, シンポジウム 4「Pros and Cons : バリア障害か炎症か」座長)
- 5) 第 57 回日本人類遺伝学会(平成 24 年 10 月, 東京, 講演「脊髄性筋萎縮症における TRH 療法-New outcome measure ととしての 3 次元運動解析の応用」演者)

- 6) 第 68 回岐阜臨床神経集談会(平成 24 年 12 月, 岐阜, 講演「脊髄性筋萎縮症における TRH 療法— 定量的評価法としての 3 次元運動解析の応用 第 2 報—」 演者)
- 7) 第 49 回中部日本小児科学会(平成 25 年 8 月, 四日市, 一般講演「アレルギー免疫不全」 座長)

寺本貴英 :

- 1) 第 24 回日本アレルギー学会春季臨床大会(平成 24 年 5 月, 大阪, 講演「血清病様の経過をとったアセトアミノフェンによる薬剤アレルギーの一例」 演者)
- 2) 第 29 回日本小児難治喘息アレルギー疾患学会(平成 24 年 6 月, 大阪, シンポジウム「学校におけるアレルギー疾患のある子どもの支援の在り方」 座長)
- 3) Abbott Japan 小児軽症喘息マネジメント 2012(平成 24 年 8 月, 岐阜, 講演 I 「小児気管支喘息・管理ガイドライン 2012 を紐解く」 演者)
- 4) 予防接種講演会(平成 24 年 10 月, 揖斐, 特別講演「最近の小児予防接種について パートⅢ」 演者)

折居建治 :

- 1) 第 54 回日本小児神経学会総会(平成 24 年 5 月, 札幌, 講演「著明な低カルニチン血症と胆汁うっ滞肝障害をきたしたミオチューブラーミオパチーの 1 例」 演者)
- 2) 第 48 回中部日本小児科学会(平成 24 年 8 月, 福井, 講演「新生児期発症のミトコンドリア呼吸鎖 ComplexIV 欠損症の一例」 演者)

松井永子 :

- 1) 第 24 回日本アレルギー学会春季臨床大会(平成 24 年 5 月, 大阪, ミニシンポジウム 17「気管支喘息のテーラーメイド的予知および予防指導の試み」 演者)
- 2) 第 49 回日本小児アレルギー学会(平成 24 年 9 月, 大阪, シンポジウム 8「アレルギー疾患のテーラーメイド医療をめざして」 演者)
- 3) 第 25 回日本アレルギー学会春季臨床大会(平成 25 年 5 月, 横浜, シンポジウム 1「アレルギー発症のテーラーメイド予知予防」 演者)
- 4) 第 25 回日本アレルギー学会春季臨床大会(平成 25 年 5 月, 横浜, イブニングシンポジウム 2「発症予防の遺伝子ターゲット」 演者)
- 5) 第 26 回日本アレルギー学会春季臨床大会(平成 26 年 5 月, 京都, ミニシンポジウム口演 12「抗原感作」 座長)

船戸道徳 :

- 1) 第 115 日本小児科学会学術集会(平成 24 年 4 月, 福岡, 「新規 B 因子機能獲得型変異を有する非典型的溶血性尿毒症症候群の 1 家系」 演者)
- 2) 第 54 回日本小児血液・がん学会学術総会(平成 24 年 11 月, 横浜, 講演「Li-Fraumeni 症候群及び Li-Fraumeni 様症候群のがん対策に向けた実態調査」 演者)

大西秀典 :

- 1) 第 255 回日本小児科学会東海地方会(平成 24 年 1 月, 津, 講演「有熱症状を認めず長期間原因不明であった Castleman 病の一例」 演者)
- 2) 第 5 回日本免疫不全症研究会(平成 24 年 1 月, 東京, 講演「STAT1 遺伝子に変異を有する常染色体優性慢性皮膚粘膜カンジダ症に合併した慢性活動性肝炎の病態について」 演者)
- 3) 第 9 回岐阜小児血液免疫アレルギー難治疾患研究会(平成 24 年 2 月, 岐阜, 講演「難治性免疫異常症の診断戦略について—当科で長期間にわたり診断困難であった 3 症例をモデルケースに—」 演者)
- 4) 8th International Congress on Autoimmunity(2012.05, Spain, Characterization of NLRP3 Variants in Japanese Cryopyrin-associated Periodic Syndrome Patients; 演者)
- 5) 第 54 回日本小児神経学会総会(平成 24 年 5 月, 札幌, 講演「頭蓋内出血を繰り返した Hoyeraal-Hreidarsson Syndrome が疑われる男児例」 演者)
- 6) The 22nd Congress of Interasma Japan / North Asia(2012.07, Fukuoka, Molecular analysis of signal transduction pathway of IL-18, related with allergic condition; 演者)
- 7) Asia Pacific Association of Pediatric Allergy, Respiritology & Immunology (APAPARI) 2012(2012.10, Taiwan, The functional assessments of mutational effect of human IRAK4 and MyD88 gene; 演者)

- 8) 第 63 回日本皮膚科学会中部支部学術大会(平成 24 年 10 月, 大阪, 講演「遺伝性自己炎症疾患の臨床像と診断フローチャート」 演者)
- 9) 第 16 回東海小児感染症研究会(平成 24 年 10 月, 名古屋, 講演「自然免疫異常症(IRAK4 欠損症・MyD88 欠損症)の全国症例実態調査について」 演者)
- 10) 第 26 回日本アレルギー学会春季臨床大会(平成 26 年, 5 月, 東アジア・アレルギーシンポジウム 2014 「Structural basis for the receptor recognition of interleukin-18」 演者)

川本典生 :

- 1) 第 61 回東海小児アレルギー談話会(平成 24 年 3 月, 名古屋, 講演「臍帯血を用いた出生コホート研究-3 歳のアレルギー性疾患の発症に関わる因子の検討-」 演者)
- 2) 第 24 回日本アレルギー学会春季臨床大会(平成 24 年 5 月, 大阪, ミニシンポジウム 17 「臍帯血を用いた出生コホート研究-3 歳のアレルギー性鼻炎の発症に関わる因子の検討-」 演者)
- 3) 第 49 回日本小児アレルギー学会(平成 24 年 9 月, 大阪, 講演「末梢血のサイトカインプロファイルから見た IgE 症例のスクリーニングについての検討」 演者)
- 4) Asia Pacific Association of Pediatric Allergy, Respiritology & Immunology (APAPARI) 2012 (2012.10, Taiwan, The Role of Myeloid Cells in the Generation of Regulatory T Cells Induced by Amino Acid Copolymers; 演者)
- 5) 第 62 回日本アレルギー学会秋季学術大会(平成 24 年 11 月, 大阪, 講演「新規多発性硬化症治療薬 poly[Y, F, A, K] の骨髄系細胞に対する効果についての検討」 演者)
- 6) 第 63 回日本アレルギー学会秋季学術大会(平成 25 年 11 月, 東京, シンポジウム 5 食物アレルギー最前線 「食べて治す」免疫学的抗原改変食品の開発と治療法の確立」 演者)

戸松俊治 :

- 1) 第 9 回血管腫・血管奇形研究会(平成 24 年 7 月, 長崎「乳児血管腫に対するプロプラノロール療法とリンパ管腫に対する治療経験」 演者)
- 2) 第 54 回日本先天代謝異常学会(平成 24 年 11 月, 岐阜, 講演「Establishment of Morquio tissue repository bank」 演者)
- 3) 第 54 回, 日本先天代謝異常学会(平成 24 年 11 月, 岐阜, 講演「Newborn screening and biomarkers for mucopolysaccharidoses」 演者)
- 4) 第 54 回日本先天代謝異常学会(平成 24 年 11 月, 岐阜, Comparison of liquid chromatography-tandem mass spectrometry and sandwich ELISA for determination of keratan sulfate in plasma and urine. u T, Orii T. Comparison of liquid chromatography-tandem mass spectrometry and sandwich ELISA for determination of keratan sulfate in plasma and urine; 演者)

神田香織 :

- 1) 第 54 回日本小児血液・がん学会学術集会/第 10 回日本小児がん看護学会/第 17 回公益財団法人がんの子どもを守る会シンポジウム(平成 24 年 12 月, 横浜, 講演「小脳髄芽腫早期再発に対し大量化学療法および再放射線治療を行った 5 歳男児例」 演者)

小関道夫 :

- 1) 第 115 回日本小児科学会(平成 24 年 4 月, 福岡, 講演「小児血管腫・血管奇形に対するプロプラノロール療法の有効性と血漿中 VEGF 値の意義」 演者)
- 2) 第 9 回血管腫・血管奇形研究会(平成 24 年 7 月, 長崎, パネルディスカッション「乳児血管腫に対するプロプラノロール療法とリンパ管腫に対する治療経験」 演者)
- 3) 第 54 回日本小児血液・がん学会学術集会/第 10 回日本小児がん看護学会/第 17 回公益財団法人がんの子どもを守る会シンポジウム(平成 24 年 12 月, 横浜, 講演「乳児血管腫とリンパ管腫に対する Propranolol 療法および血管新生因子の臨床的意義」 演者)
- 4) 第 54 回日本小児血液・がん学会学術集会/第 10 回日本小児がん看護学会/第 17 回公益財団法人がんの子どもを守る会シンポジウム(平成 24 年 12 月, 横浜, 講演「同種移植後完全ドナータイプの骨髄不全症をきたした Refractory cytopenia of childhood の 1 例」 演者)

久保田一生 :

- 1) 8th International Congress on Autoimmunity(2012.05, Spain, Atypical periodic autoinflammatory

syndrome patients with a mutation the leucine-rich repeat domain of NLRP3 in Japanese children; 演者)

- 2) The 22nd Congress of Interasma Japan / North Asia(2012.07, Fukuoka, 気管支喘息のテーラーメイド的予知および予防指導の試み; 演者)

堀 友博 :

- 1) Annual symposium of Society for the Study of Inborn Errors of Metabolism(SSiEM) (2012.09, Birmingham, Molecular basis of two exon skipping (exons 12 and 13) by c. 1248+5G>A in fibroblasts from a SCOT deficient patient. Study of splicing order in SCOT transcripts in fibroblasts from controls and the patient. Annual symposium of Society for the Study of Inborn Errors of Metabolism; 演者)
- 2) 第14回東海小児内分泌セミナー(平成26年5月, 名古屋, 一般講演 座長)

山本崇裕 :

- 1) 第62回日本アレルギー学会秋季大会(平成24年11月, 大阪, 講演「IRAK4欠損症, MyD88欠損症の全国症例調査及び診断・治療方法の確立に向けた解析」演者)

8. 学術賞等の受賞状況

- 1) 川本典生 : 岐阜医学奨励賞(平成26年度)
- 2) 大西秀典 : 岐阜大学藤原賞(平成26年度)

9. 社会活動

近藤直実 :

- 1) 日本アレルギー学会評議員(～現在)
- 2) 岐阜県小児保健協会会長(～現在)
- 3) 日本小児アレルギー学会理事長(～現在)
- 4) 日本小児科学会東海地方会理事長(～現在)
- 5) 日本アレルギー学会常務理事(財務, 専門医制担当)(～現在)
- 6) 日本小児科学会代議員(～現在)
- 7) 日本小児科学会中部地区資格認定委員会委員(～現在)

深尾敏幸 :

- 1) 岐阜県小児保健協会常任理事(～現在)
- 2) 岐阜県小児保健協会会長(平成26年～現在)
- 3) 岐阜県予防接種健康被害調査専門医師集団専門医師(～現在)
- 4) 岐阜市保育所児童の健康を考える会委員(委員長) (～平成25年度)
- 5) 岐阜市こどもの健康を考えるつどい委員長(～平成25年度)
- 6) 岐阜市保健医療審議会委員(～現在)
- 7) 岐阜市予防接種健康被害調査委員会委員(～現在)
- 8) 岐阜市遺伝相談医(～現在)

加藤善一郎 :

- 1) 岐阜圏域小児救急医療協議会(～現在)
- 2) 岐阜市小児救急医療体制運営部会委員(～現在)
- 3) 岐阜県児童虐待対応リーフレット作成検討会委員(～現在)

折居建治 :

- 1) 岐阜市小児慢性特定疾患対策協議会委員(～現在)
- 2) 岐阜県小児慢性特定疾患対策協議会委員(～現在)

10. 報告書

- 1) 大西秀典, 久保田一生, 山本崇裕, 加藤善一郎, 金子英雄, 近藤直実: IKBA 遺伝子に新規変異を有する外胚葉形成不全免疫不全症の病態解析と迅速診断スクリーニングについて : 平成23年度厚生労働

- 科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 原発性免疫不全症候群に関する調査研究 総括・分担研究報告書(原班)：91-95(平成24年3月)
- 2) 大西秀典, 谷内江昭宏, 大石和徳, 加藤善一郎, 高田英俊, 西小森隆太, 桁尾豪人: インターロイキン1受容体関連キナーゼ4(IRAK4)欠損症の全国症例数把握及び早期診断スクリーニング・治療法開発に関する研究: 平成23年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 総括研究報告書(大西班)：1-12(平成24年3月)
 - 3) 大西秀典, 山本崇裕, 久保田一生, 松井永子, 寺本貴英, 加藤善一郎, 金子英雄, 近藤直実: IRAK4欠損症及びMyD88欠損症の全国症例調査(二次調査)結果について: 平成23年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 インターロイキン1受容体関連キナーゼ4(IRAK4)欠損症の全国症例数把握及び早期診断スクリーニング・治療法開発に関する研究 分担研究報告書(大西班)：13-16(平成24年3月)
 - 4) 大西秀典, 堤尚孝, 桁尾豪人, 山本崇裕, 久保田一生, 木村豪, 加藤善一郎, 近藤直実: Myddosome異常症で同定されるIRAK4及びMyD88遺伝子型のin vitro機能解析法の確立: 平成23年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 インターロイキン1受容体関連キナーゼ4(IRAK4)欠損症の全国症例数把握及び早期診断スクリーニング・治療法開発に関する研究 分担研究報告書(大西班)：17-21(平成24年3月)
 - 5) 大西秀典, 山本崇宏, 久保田一生, 加藤善一郎, 金子英雄, 近藤直実: 新規に同定された常染色体優性遺伝無汗性外胚葉形成不全免疫不全症(AD-EDA-ID)症例におけるIKBA遺伝子型の機能解析について: 平成23年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 インターロイキン1受容体関連キナーゼ4(IRAK4)欠損症の全国症例数把握及び早期診断スクリーニング・治療法開発に関する研究 分担研究報告書(大西班)：22-25(平成24年3月)
 - 6) 大西秀典, 山本崇宏, 久保田一生, 加藤善一郎, 金子英雄, 近藤直実: 新規に同定された常染色体優性遺伝無汗性外胚葉形成不全免疫不全症(AD-EDA-ID)症例におけるIKBA遺伝子型の機能解析について: 平成23年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 インターロイキン1受容体関連キナーゼ4(IRAK4)欠損症の全国症例数把握及び早期診断スクリーニング・治療法開発に関する研究 分担研究報告書(大西班)：22-25(平成24年3月)
 - 7) 加藤善一郎, 桁尾豪人, 久保田一生, 木村豪, 川本典生, 大西秀典, 近藤直実: IRAK4と関連する分子群の相互作用解析について: 平成23年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 インターロイキン1受容体関連キナーゼ4(IRAK4)欠損症の全国症例数把握及び早期診断スクリーニング・治療法開発に関する研究 分担研究報告書(大西班)：41-44(平成24年3月)
 - 8) 金子英雄, 田内久道, 山崎直也, 滝田順子, 内田靖, 清河信敬, 谷内江昭宏, 深尾敏幸: 遺伝子修復異常症(Bloom症候群、Rothmund-Thomson症候群、RAPADILINO症候群、Baller-Gerold症候群)の実態調査、早期診断法の確立に関する研究: 平成23年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 総括研究報告書(金子班)：1-12(平成24年3月)
 - 9) 深尾敏幸: Bloom症候群の最近の海外の報告: 平成23年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 遺伝子修復異常症(Bloom症候群、Rothmund-Thomson症候群、RAPADILINO症候群、Baller-Gerold症候群)の実態調査、早期診断法の確立に関する研究 分担研究報告書(金子班)：37-38(平成24年3月)
 - 10) 深尾敏幸, 堀川玲子, 新宅治夫, 高柳正樹, 重松陽介, 山口清次: 先天性ケトン体代謝異常症(HMG-CoA合成酵素欠損症、HMG-CoAリアーゼ欠損症、 β -ケトチオラーゼ欠損症、SCOT欠損症)の発症形態と患者数の把握、診断治療指針に関する研究: 平成23年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 総括研究報告書(深尾班)：1-15(平成24年3月)
 - 11) 深尾敏幸: 過去5年間のケトン体代謝異常症に関する相談、活性測定、遺伝子解析に関する検討: 平成23年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 先天性ケトン体代謝異常症(HMG-CoA合成酵素欠損症、HMG-CoAリアーゼ欠損症、 β -ケトチオラーゼ欠損症、SCOT欠損症)の発症形態と患者数の把握、診断治療指針に関する研究 分担研究報告書(深尾班)：17-19(平成24年3月)
 - 12) 深尾敏幸: SCOT欠損症の遺伝子診断に関する研究 MLPA法の確立: 平成23年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 先天性ケトン体代謝異常症(HMG-CoA合成酵素欠損症、HMG-CoAリアーゼ欠損症、 β -ケトチオラーゼ欠損症、SCOT欠損症)の発症形態と患者数の把握、診断治療指針に関する研究 分担研究報告書(深尾班)：33-34(平成24年3月)
 - 13) 深尾敏幸, 山口清次, 重松陽介, 高柳正樹, 新宅治夫, 堀川玲子: 先天性ケトン体代謝異常症(HMG-CoA合成酵素欠損症、HMG-CoAリアーゼ欠損症、 β -ケトチオラーゼ欠損症、SCOT欠損症)の発症形態

- と患者数の把握、診断治療指針に関する研究：平成 22～23 年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 統括総合研究報告書(深尾班)：1-15(平成 24 年 3 月)
- 14) 深尾敏幸：ケトン体代謝異常症の患者調査、酵素遺伝子診断. 平成 22～23 年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 先天性ケトン体代謝異常症(HMG-CoA 合成酵素欠損症、HMG-CoA リアーゼ欠損症、 β -ケトチオラーゼ欠損症、SCOT 欠損症)の発症形態と患者数の把握、診断治療指針に関する研究 分担総合研究報告書(深尾班)：17-21(平成 24 年 3 月)
 - 15) 船戸道徳, 小島勢二, 鶴澤正仁, 水谷修紀, 金子英雄, 永船建二：Li-Fraumeni 症候群とその類縁症候群の実態調査及び悪性腫瘍の発症予防法と治療法の確立に関する研究：平成 23 年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 総括研究報告書(船戸班)：1-16(平成 24 年 3 月)
 - 16) 船戸道徳, 松井永子, 近藤直実：Li-Fraumeni 症候群とその類縁症候群の実態調査について：平成 23 年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 Li-Fraumeni 症候群とその類縁症候群の実態調査及び悪性腫瘍の発症予防法と治療法の確立に関する研究 分担研究報告書(船戸班)：17-20(平成 24 年 3 月)
 - 17) 深尾敏幸：確定診断技術の向上 HMG-CoA リアーゼ欠損症の遺伝子解析体制の検討. 平成 23 年度厚生労働科学研究費補助金 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業 タンデムマス導入による新生児マスキューニング胎生の整備と質的向上に関する研究 総括・分担研究報告書(山口班)：34-35(平成 24 年 3 月)
 - 18) 近藤直実, 松井永子, 木全かおり：気管支ぜん息発症予防のための客観的かつテーラーメイド的予知のスクリーニング基準マニュアル(案)：平成 24 年度独立行政法人環境再生保全機構委託業務 気管支ぜん息発症予防のための客観的かつテーラーメイド的予知のスクリーニング基準の確立 マニュアル(近藤班)：1-7(平成 25 年 2 月)
 - 19) 近藤直実, 松井永子, 加藤善一郎, 篠田紳司, 福富 悌：気管支ぜん息発症予防のための客観的かつテーラーメイド的予知のスクリーニング基準の確立：平成 24 年度独立行政法人 環境再生保全機構委託業務 報告書(近藤班)：1-152(平成 25 年 3 月)
 - 20) 近藤直実, 大西秀典, 加藤善一郎, 川本典生, 木村 豪, 久保田一生, 山本崇裕：TIR ドメイン含有アダプター分子 TRAM の新規機能の解明：平成 24 年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 原発性免疫不全症候群に関する調査研究 分担研究報告書(原班)：1-26(平成 25 年 3 月)
 - 21) 金子英雄, 深尾敏幸, 谷内江昭宏, 清河信敬, 内田 靖, 滝田順子, 山崎直也, 田内久道, 加藤善一郎：遺伝子修復異常症(Bloom 症候群、Rothmund-Thomson 症候群、RAPADILINO 症候群、Baller-Gerold 症候群)の実態調査、早期診断法の確立に関する研究：平成 23～24 年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 総合研究報告書(金子班)：1-26(平成 25 年 3 月)
 - 22) 金子英雄, 谷内江昭宏, 田内久道, 加藤善一郎：Bloom 症候群の全国調査の解析：平成 23～24 年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 遺伝子修復異常症(Bloom 症候群、Rothmund-Thomson 症候群、RAPADILINO 症候群、Baller-Gerold 症候群)の実態調査、早期診断法の確立に関する研究 分担研究報告書(金子班)：27-30(平成 25 年 3 月)
 - 23) 金子英雄, 深尾敏幸：本邦 Bloom 症候群における BLM 遺伝子変異の解析：平成 23～24 年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 遺伝子修復異常症(Bloom 症候群、Rothmund-Thomson 症候群、RAPADILINO 症候群、Baller-Gerold 症候群)の実態調査、早期診断法の確立に関する研究 分担研究報告書(金子班)：34-36(平成 25 年 3 月)
 - 24) 小関道夫, 藤野明浩, 黒田達夫, 近藤直実：リンパ管腫症の全国症例数把握及び診断・治療法の開発に関する研究：平成 24 年度厚生労働か開く研究費補助金 難治性疾患等克服研究事業 リンパ管腫症の全国症例数把握及び診断・治療法の開発に関する研究 総括研究報告書(小関班)：1-23(平成 25 年 3 月)
 - 25) 小関道夫, 神田香織, 東 英一, 加藤善一郎, 深尾敏幸, 近藤直実：リンパ管腫症、リンパ管奇形に対する新規治療開発に関する研究：平成 24 年度厚生労働か開く研究費補助金 難治性疾患等克服研究事業 リンパ管腫症の全国症例数把握及び診断・治療法の開発に関する研究 分担研究報告書(小関班)：25-27(平成 25 年 3 月)
 - 26) 近藤直実, 神田香織, 小関道夫, 松井永子, 加藤善一郎, 深尾敏幸：乳児血管腫に対するプロプラノロール療法について：平成 24 年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等克服研究事業 リンパ管腫症の全国症例数把握及び診断・治療法の開発に関する研究 分担研究報告書(小関班)：28-30(平成 25 年 3 月)
 - 27) 大西秀典, 谷内江昭宏, 加藤善一郎, 高田英俊, 西小森隆太, 桁尾豪人, 大石和徳, 明田幸宏：インターロイキン 1 受容体関連キナーゼ 4(IRAK4)欠損症の全国症例数把握及び早期診断スクリーニン

- グ・治療法開発に関する研究：平成 23～24 年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等克服研究事業 総合研究報告書(大西班)：1-105(平成 25 年 3 月)
- 28) 大西秀典, 谷内江昭宏, 加藤善一郎, 高田英俊, 西小森隆太, 桁尾豪人, 明田幸宏：インターロイキン 1 受容体関連キナーゼ 4(IRAK4)欠損症の全国症例数把握及び早期診断スクリーニング・治療法開発に関する研究：平成 24 年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等克服研究事業 総括研究報告書(大西班)：1-4(平成 25 年 3 月)
- 29) 大西秀典, 山本崇裕, 堤 尚孝, 桁尾豪人, 木村 豪, 久保田一生, 加藤善一郎, 近藤直実：Myddosome 異常症で同定される IRAK4 及び MyD88 遺伝子型の in vitro 機能解析法の確立：平成 24 年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等克服研究事業 インターロイキン 1 受容体関連キナーゼ 4(IRAK4)欠損症の全国症例数把握及び早期診断スクリーニング・治療法開発に関する研究 分担研究報告書(大西班)：5-8(平成 25 年 3 月)
- 30) 大西秀典, 堀 友博, 寺本貴英, 近藤直実：STAT1 機能獲得型変異により発症した慢性皮膚粘膜カンジダ症の 1 家系：平成 24 年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等克服研究事業 インターロイキン 1 受容体関連キナーゼ 4(IRAK4)欠損症の全国症例数把握及び早期診断スクリーニング・治療法開発に関する研究 分担研究報告書(大西班)：9-13(平成 25 年 3 月)
- 31) 加藤善一郎, 大西秀典：自然免疫関連分子を標的とした薬剤開発研究：平成 24 年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等克服研究事業 インターロイキン 1 受容体関連キナーゼ 4(IRAK4)欠損症の全国症例数把握及び早期診断スクリーニング・治療法開発に関する研究 分担研究報告書(大西班)：31-3(平成 25 年 3 月)
- 32) 深尾敏幸：代表的疾患における診断基準策定のための検討と先天性ケトン体代謝異常症の研究：平成 24 年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服事業 新しい新生児代謝スクリーニング時代に適応した先天代謝異常症の診断基準作成と診療ガイドラインの作成および新たな薬剤開発に向けた調査研究 平成 24 年度 総括・分担研究報告書(研究代表者 遠藤文夫)：61-66(平成 25 年 3 月)
- 33) 深尾敏幸：Rothmund-Thompson 症候群の Clinical utility gene card に関する検討：平成 24 年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服事業 遺伝子修復異常症(Bloom 症候群、Rothmund-Thomson 症候群、PARADILINO 症候群、Baller-Gerold 症候群)の実態調査, 早期診断法の確立に関する研究 総括・分担研究報告書：28-31(平成 25 年 3 月)
- 34) 金子英雄, 深尾敏幸：本邦 Bloom 症候群における BLM 遺伝子変異の解析：平成 23～24 年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服事業 遺伝子修復異常症(Bloom 症候群、Rothmund-Thomson 症候群、PARADILINO 症候群、Baller-Gerold 症候群)の実態調査, 早期診断法の確立に関する研究 総合研究報告書：34-36(平成 25 年 3 月)
- 35) 深尾敏幸, 青山友佳：確定診断技術の向上(GC/MS, 酵素診断、遺伝子診断) CPT2, CACT 欠損症のための MLPA 法の確立に関する研究：平成 24 年度厚生労働科学研究費補助金 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業 タンデムマス導入による新生児マススクリーニング胎生の整備と質的向上に関する研究 平成 24 年度 総括・分担研究報告書(研究代表者 山口清次)：36-37(平成 25 年 3 月)
- 36) 近藤直実：NLRP3 バリエントと MEFV ハプロタイプバリエントの共保有症例における自己炎症性疾患発症の可能性について：平成 24 年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等克服研究事業 自己炎症疾患とその類縁疾患に対する新規診療基盤の確立 総括・分担研究報告書(平家班)：99-103(平成 25 年)
- 37) 近藤直実, 松井永子, 金子英雄, 大西秀典, 加藤善一郎, 川本典生：食物アレルギーの新規予知診断法と免疫学的改変食品による治療法の確立：平成 24 年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等克服研究事業 小児期の食物アレルギーの新しい診断法・管理法の確立と治療法の開発に関する研究 総括・分担研究報告書(海老澤班)：25-27(平成 25 年)
- 38) 加藤善一郎：分類不能型免疫不全症における遺伝子・分子病態解析：平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等克服研究事業 原発性免疫不全症候群に関する調査研究 総括・分担研究報告書(原班)：60-63(平成 26 年)
- 39) 小関道夫：リンパ管種症, リンパ管奇形に対する新規治療開発に関する研究：平成 24～25 年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等克服研究事業 難治性疾患克服研究事業 リンパ管種症の全国症例数把握及び診断・治療法の開発に関する研究 平成 24, 25 年度総合研究報告書(小関班)：43-45(平成 26 年)
- 40) 近藤直実：乳児血管腫に対するプロプラノロール療法について：平成 24～25 年度厚生労働科学研究

- 費補助金 難治性疾患等克服研究事業 難治性疾患克服研究事業 リンパ管種症の全国症例数把握及び診断・治療法の開発に関する研究 平成 24, 25 年度総合研究報告書(小関班) : 46-48(平成 26 年)
- 41) 小関道夫: リンパ管種症およびゴーハム病の全国調査結果: 平成 24~25 年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等克服研究事業 難治性疾患克服研究事業 リンパ管種症の全国症例数把握及び診断・治療法の開発に関する研究 平成 24, 25 年度総合研究報告書(小関班) : 53-66(平成 26 年)
- 42) 小関道夫: リンパ管種症およびゴーハム病の診断基準・治療指針作成: 平成 24~25 年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等克服研究事業 難治性疾患克服研究事業 リンパ管種症の全国症例数把握及び診断・治療法の開発に関する研究 平成 24, 25 年度総合研究報告書(小関班) : 67-73(平成 26 年)
- 43) 小関道夫: 乳児血管腫に対するプロプラノロール療法と血漿中 VEGF 値: 平成 24~25 年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等克服研究事業 難治性疾患克服研究事業 リンパ管種症の全国症例数把握及び診断・治療法の開発に関する研究 平成 24, 25 年度総合研究報告書(小関班) : 74-77(平成 26 年)
- 44) 小関道夫: リンパ管種症(ゴーハム病)の全国調査と診断基準・治療指針作成: 平成 24~25 年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等克服研究事業 難治性疾患克服研究事業 リンパ管種症の全国症例数把握及び診断・治療法の開発に関する研究 平成 25 年度総括・分担研究報告書(小関班) : 1-11(平成 26 年)
- 45) 小関道夫: リンパ管種症およびゴーハム病の全国調査結果: 平成 24~25 年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等克服研究事業 難治性疾患克服研究事業 リンパ管種症の全国症例数把握及び診断・治療法の開発に関する研究 平成 25 年度総括・分担研究報告書(小関班) : 19-32(平成 26 年)
- 46) 小関道夫: リンパ管種症およびゴーハム病の診断基準・治療指針作成: 平成 24~25 年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等克服研究事業 難治性疾患克服研究事業 リンパ管種症の全国症例数把握及び診断・治療法の開発に関する研究 平成 25 年度総括・分担研究報告書(小関班) : 33-39(平成 26 年)
- 47) 小関道夫: 乳児血管腫に対するプロプラノロール療法と血漿中 VEGF 値: 平成 24~25 年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等克服研究事業 難治性疾患克服研究事業 リンパ管種症の全国症例数把握及び診断・治療法の開発に関する研究 平成 25 年度総括・分担研究報告書(小関班) : 40-43(平成 26 年)
- 48) 松井永子: 乳幼児の健康影響調査: 平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金 食品の安全確保推進研究事業 母乳のダイオキシン類汚染の実態調査と乳幼児の発達への影響に関する研究 平成 25 年度総括・分担研究報告書(岡班) : 65-67(平成 26 年)
- 49) 深尾敏幸: 代表的疾患における診療ガイドライン案策定のための検討と先天性ケトン代謝異常症の診療ガイドライン案の作成: 平成 24~25 年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服事業 新しい新生児代謝スクリーニング時代に適応した先天代謝異常症の診断基準策士絵と診療ガイドラインの作成および新たな薬剤開発に向けた調査研究 平成 25 年度総括・分担研究報告書(遠藤班) : 61-63(平成 26 年)
- 50) 深尾敏幸: 代表的疾患における診断基準, 診療ガイドライン案策定のための検討と先天性ケトン代謝異常症の診療ガイドラインと総合的な対策について: 平成 24~25 年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服事業 新しい新生児代謝スクリーニング時代に適応した先天代謝異常症の診断基準策士絵と診療ガイドラインの作成および新たな薬剤開発に向けた調査研究 平成 24-25 年度総合研究報告書(遠藤班) : 93-96(平成 26 年)
- 51) 加藤善一郎: IL-18 リガンド受容体複合体タンパク立体構造情報を基盤とした抗 IL-18 薬の設計に関する研究: 平成 26 年度厚生労働科学研究委託事業 難治性疾患等実用化研究事業 原発性免疫不全症候群の病態解明と新規治療法開発への応用に関する研究 平成 26 年度分担研究報告書(野々山班) : 79-82(平成 26 年)
- 52) 加藤善一郎: 免疫不全を伴う特徴的な症候群 Bloom 症候群、シムケ症候群における診断基準・診断フローチャート試案に関する研究: 平成 26 年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業実 原発性免疫不全症候群の診断基準・重症度分類および診療ガイドラインの確立に関する研究 平成 26 年度総括・分担研究報告書(野々山班) : 28-29(平成 26 年)
- 53) 加藤善一郎: 自然免疫不全症の診断基準の作成について: 平成 26 年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業実 原発性免疫不全症候群の診断基準・重症度分類および診療ガイドラインの確立に関する研究 平成 26 年度総括・分担研究報告書(野々山班) : 51-52(平成 26 年)

11. 報道

- 1) 近藤直実, 寺本貴英, 松井永子: 2月20日はアレルギーの日ー日常生活の質向上目指すー: 岐阜新聞(2012年2月20日)
- 2) 近藤直実: 治癒と予防を: 岐阜新聞(2012年2月25日)
- 3) 松井永子: 患者に応じた「個別化医療」普及へー薬剤反応性を3つに分類し表に QOL 調査票簡易改訂版も作成ー: 教育医事新聞(2012年2月25日)
- 4) 松井永子: 教えてホームドクター 子どもの湿疹ー清潔がケアの基本ー: 岐阜新聞(2012年3月5日)
- 5) 加藤善一郎: 大学はいまー研究室からー 構造医学で疾病の原因解明: 岐阜新聞(2012年3月20日)
- 6) 折居建治: 新生児医療「集中治療部」を新設ーNICU など12床ー: 中日新聞(2012年3月30日)
- 7) 折居建治: 新生児の集中治療充実ー1日に部を新設ー: 岐阜新聞(2012年3月30日)
- 8) 折居建治: 岐阜大病院に新生児 ICU: 朝日新聞(2012年3月30日)
- 9) 近藤直実, 折居建治: 新生児集中治療部の開設にあたって: 鶴舟(2012年4月1日)
- 10) 寺本貴英: 教えてホームドクター 気管支喘息ーアレルギーが主因ー: 岐阜新聞(2012年5月14日)
- 11) 寺本貴英: 教えてホームドクター 子どもの不慮の事故ー死因の筆頭、予防を: 岐阜新聞(2012年7月23日)
- 12) 寺本貴英: 教えてホームドクター 不活化ポリオワクチン導入ー少ない副反応、利点ー: 岐阜新聞(2012年9月24日)
- 13) 近藤直実: 第23回県こどもの健康を考えるつどい: 岐阜新聞(2012年9月27日)
- 14) 寺本貴英: 子の病気予防テーマに講演ー岐阜でつどいー: 岐阜新聞(2012年10月5日)
- 15) 深尾敏幸: 「謎の病」診断法解けたー先天性ケトン体代謝異常症ー: 中日新聞(2012年11月15日)
- 16) 深尾敏幸: ケトン体代謝異常の原因特定ー深尾岐阜大教授に学会賞ー: 岐阜新聞(2012年11月16日)
- 17) 寺本貴英: 教えてホームドクター 食物アレルギー: 岐阜新聞(2013年4月1日)
- 18) 金子英雄, 船戸道徳: iPS で治療薬研究: 岐阜新聞(2013年8月25日)
- 19) 折居建治: 県内 NICU 連携が不可欠: 岐阜新聞(2013年12月11日)
- 20) 深尾敏幸: 障害者医療講座開設へ: 中日新聞(2014年1月8日)
- 21) 下澤伸行: 難病患者の家族, 岐阜大医学部で講演: 岐阜新聞(2014年1月15日)
- 22) 川本典生: 食物アレルギー学ぶ: 岐阜新聞(2014年2月18日)
- 23) 深尾敏幸: 正しい理解でアレルギー克服を: 岐阜新聞(2014年2月20日)
- 24) 大西秀典: 大学はいま研究室から「自然免疫異常症の病態解析»: 岐阜新聞(2014年3月4日)
- 25) 近藤直実: アドレナリン自己注射薬の使い方ー日本小児アレルギー学会の見解, info Allergy June, No.68(2014年6月)
- 26) 堀 友博: からだにスマイル 子どもの身長が気になったら早めに小児科へ: 幼稚園児とママの情報誌 あんふあん東海版(2014年7月)
- 27) 西村悟子: 「若手小児科医が語る障がい児医療への思い」座談会: 岐阜新聞(2014年7月12日)
- 28) 西村悟子: 発達障害児の親支援. 県内の女性小児科医研究会が初会合: 岐阜新聞(2014年7月14日)
- 29) 小関道夫: 複数の診療科で遭遇しうる「リンパ管種」の実像: 日経メディカル(2014年7月25日)
- 30) 西村悟子: 障害児者医療の課題探る 岐阜市で従事者シンポ: 岐阜新聞(2014年7月29日)
- 31) 深尾敏幸: 新生生前診断, 来春にも開始 県内初, 岐阜大病院に遺伝子診療部: 岐阜新聞(2014年10月2日)
- 32) 深尾敏幸: 県初の出生前診断, 来春から岐阜大病院遺伝子診療部を新設: 中日新聞(2014年10月2日)
- 33) 川本典生: エピペン実習: 岐阜新聞(2014年10月17日)
- 34) 深尾敏幸: 子どもの事故予防を, 岐阜市でつどい保健師が実践発表: 岐阜新聞(2014年10月18日)
- 35) 川本典生: 病児の食事、知識深める, 岐阜市保育士らが研修会: 岐阜新聞(2014年11月28日)
- 36) 山本崇裕: 介護やリハビリに熱視線, 岐阜大4年生が障がい児者医療実習: 岐阜新聞(2014年12月6日)
- 37) 山本崇裕: 来年9月「希望が丘こども医療福祉センター」座談会, 障がい児にかける夢: 岐阜新聞(2014年12月13日)
- 38) 加藤善一郎, 大西秀典: 岐阜大, 立体構造を解明リウマチ, アレルギーの原因物質: 岐阜新聞, 岐阜新聞 WEB (2014年12月16日)
- 39) 加藤善一郎: リウマチ, アトピー治療に光, 原因タンパク質構造解明: 中日新聞(2014年12月16日)

日)

- 40) リウマチ、アレルギー原因物質の立体構造解明 新薬の開発に前進：47NEWS(2014年12月16日)
- 41) 岐阜大、立体構造を解明 リウマチ、アレルギー原因物質：Yahoo!ニュース(2014年12月16日)
- 42) IL-18と受容体 α 、 β との複合体構造を解明 副作用の出にくい新薬の開発に期待：バイオの杜(2014年12月16日)
- 43) 関節リウマチなど免疫・神経難病の原因物質となる立体構造を解明 - 岐阜大：マイナビニュース、Yahoo!ニュース、excite ニュース、woman.excite ニュース、livedoor news,infoseek ニュース、goo ニュース、Yomerumo ニュース、Mapion ニュース、ニコニコニュース、アメーバニュース、トピックジャーニー、グノシー(2014年12月17日)
- 44) 岐阜大・京大、免疫誘導たんぱく質「インターロイキン18」の受容体との結合構造解明：日刊工業新聞 Business Line(2014年12月17日)
- 45) 木村 豪：リウマチなどの原因物質を解明：NHK 東海 NEWS WEB(2014年12月19日)

12. 自己評価

評価

総合的にはそれなりの評価はできるが、今後も引き続き研究成果と業績のさらなる維持、向上が望まれる。

現状の問題点及びその対策

これまでいくつかの分野で世界をリードした研究がおこなわれてきており、それを継続、発展させていくことが重要であるが、研究を目指す小児科医が少なくなっている点が問題である。リサーチマインドを持った臨床医をそだてるためにも研究は必要であり、積極的に働きかけていきたい。

今後の展望

国の目指す薬の開発につながる研究を行っていくことが重要であり、各分野においてシーズを開拓していく。

(8) 病態情報解析医学分野

1. 研究の概要

1) スタチン製剤の副作用としての筋障害

コレステロール低下薬である HMGCoA reductase 阻害剤であるいわゆるスタチン系薬剤の副作用である筋障害と遺伝子多型との関連性について検討し、さらに副作用発症機序の解明。

2) 肝炎発症機序

CH-B (B 型慢性肝炎) における Impaired CTL proliferation の機序の解明及び IDO の肝炎発症における役割。

3) NASH の発症機序について

動物モデルを用いて、分子生物学的見地からアポトーシス、オートファジーおよび線維化を評価。

4) 心筋細胞におけるオートファジー

オートファジーの役割と心機能に与える影響を絶食および心筋梗塞モデルを用いて検討。

5) プロテオーム解析

種々疾患における血清を解析し、病態を反映する新しいマーカーを見出し同定する。

2. 名簿

教授：	清島 満	Mitsuru Seishima
講師：	伊藤弘康	Hiroyasu Ito
併任講師：	金森寛充	Hiromitsu Kanamori
臨床講師：	白上洋平	Yohei Shirakami
助教(検査部)：	岩佐将充	Masamitsu Iwasa
助教：	加藤 卓	Taku Kato
助教：	有岡祐子	Yuko Arioka

3. 研究成果の発表

著書 (和文)

- 1) 林 晃司, 保科ひづる, 稲垣勇夫, 清島 満監修. 髄液細胞検査尿門編～これだけは理解しよう～サムソン法細胞数算定と分類, 名古屋: 臨床一般検査研究会; 2012 年.
- 2) 篠田貢一. 心電図—心臓の構造と正常心電図: 藤井徹也, 佐藤道子編. 看護学生のための看護技術 よくわかる BOOK, 東京: メヂカルフレンド社; 2012 年: 8—17.
- 3) 篠田貢一. 心電図の異常: 藤井徹也, 佐藤道子編. 看護学生のための看護技術 よくわかる BOOK, 東京: メヂカルフレンド社; 2012 年: 18—28.
- 4) 篠田貢一. 血圧の異常—高血圧と心臓の構造—: 藤井徹也, 佐藤道子編. 看護学生のための看護技術 よくわかる BOOK, 東京: メヂカルフレンド社; 2012 年: 35—42.
- 5) 清島 満. 「脂質・リポ蛋白」: 高木 康・山田俊幸編. 標準臨床検査医学 第 4 版, 東京: 医学書院; 2013 年: 163—175.

著書 (欧文)

なし

総説 (和文)

- 1) 佐藤正夫, 竹村正男, 渡邊恒夫, 福岡大輔, 清水克時. 超音波三次元イメージングを用いた関節リウマチ手指関節内血流量量化の試み, 別冊整形外科 2012 年; 62 巻: 188—193.
- 2) 清島 満. 脂質異常症の治療～動脈硬化予防の戦略として～, 臨床病理 2013 年; 61 巻: 334—341.
- 3) 兼村信宏, 鶴見 寿, 森脇久隆. 「血小板輸血不応症」, 日本臨床 血液症候群(第 2 版)(II), 別冊日本臨床 2013 年; 393—395.
- 4) 佐藤正夫, 竹村正男, 渡邊恒夫, 福岡大輔. 超音波三次元イメージングによる手指関節内血流量量化, 日本臨床 2014 年; 72 巻: 258—261.

総説 (欧文)

- 1) Murakami Y, Hoshi M, Imamura Y, Arioka Y, Yamamoto Y, Saito K. Remarkable role of indoleamine 2,3-dioxygenase and tryptophan metabolites in infectious diseases: potential role in macrophage-mediated inflammatory diseases. Mediators of Inflammation. 2013;2013:391984.

原著 (和文)

- 1) 佐藤正夫, 竹村正男, 渡邊恒夫, 福岡大輔, 関根綾子, 清島 満, 松岡敏男, 清水克時. 超音波 3D イメージングを用いた関節リウマチの手指関節炎評価, 日本整形外科超音波研究会誌 2012 年; 23 巻: 40

- 2) 足立真理子, 星 雅人, 牛丸星子, 服部高幸, 林 麻実, 稲垣勇夫, 伊藤弘康, 清島 満. 多項目自動血球分析装置 XE-5000 による体腔液細胞測定の検討—夜間・休日対応への取り組み—, 医学検査 2012 年; 61 巻: 133-139.
- 3) 山岸由佳, 三鴨廣繁, 末松寛之, 澤村治樹, 波多野正和, 太田浩敏, 浅野裕子, 石郷潮見. 岐阜県下および愛知県北部における肺炎球菌の疫学解析~2009 年~, THE JAPANESE JOURNAL OF ANTIBIOTICS 2012 年; 65 巻: 27-47.
- 4) 寺林伸夫, 伊藤芳毅, 松本 和, 瀧上伊織, 清水克時, 渡邊恒夫, 関根綾子. 夜間痛を伴う腱板断裂患者に対する超音波ドブラ血流評価, 肩関節 2012 年; 36 巻: 507-510.
- 5) 太田浩敏, 宮崎 崇, 仲本賢太郎, 米玉利 準, 竹村正男. 当院で分離された血液由来カンジダ属の検出状況および薬剤感受性について, 岐阜県臨床検査技師会雑誌 2012 年; 41 巻: 1-3.
- 6) 奥村陽子, 大楠清文, 宮崎 崇, 太田浩敏, 永井美貴, 清島真理子. 犬口傷後に生じた *Mycobacterium chelonae* 皮膚感染症の一例, 皮膚科の臨床 2012 年; 54 巻: 365-368.
- 7) 村上啓雄, 深尾亜由美, 丹羽 隆, 太田浩敏, 伊藤善規. 大学病院での取り組み 適切なチーム医療活動と各職種メンバーの役割 -岐阜大学医学部附属病院 ICT における抗菌薬適正使用の取り組み-, 月刊地域医学 2012 年; 26 巻: 316-321.
- 8) 丹羽 隆, 篠田康孝, 鈴木昭夫, 大森智史, 太田浩敏, 深尾亜由美, 安田 満, 北市清幸, 松浦克彦, 杉山 正, 村上啓雄, 伊藤善規. Infection Control Team による全入院患者を対象とした注射用抗菌薬適正使用 推進実施体制の確立とアウトカム評価, 医療薬学 2012 年; 38 巻: 273-281.
- 9) 寺林伸夫, 福田 雅, 伊藤芳毅, 松本 和, 瀧上伊織, 渡邊恒夫, 関根綾子, 清水克時. 肩関節周囲血流と臨床症状との関連—超音波ドブラ法を用いた夜間痛のある腱板断裂の血流評価—, 関節外科 2012 年; 31 巻: 734-740.
- 10) 石田秀和, 宮崎 崇, 鍋谷洋介, 中山純里, 浅野栄太, 安藤航平, 小池紀子, 古田伸行, 竹村正男, 伊藤弘康, 清島 満. ADVIA Centaur XP によるプロカルシトニン測定試薬「ケミルミ BRAHMS プロカルシトニン」の基礎的検討, 医学と薬学 2012 年; 68 巻: 519-528.
- 11) 林 麻実, 星 雅人, 牛丸星子, 足立真理子, 古田伸行, 伊藤弘康, 清島 満. 全自動血液凝固測定装置 CS-5100 と全自動凝固線溶装置 STA-R Evolutio の比較検討, Sysmex Journal 2012 年; 35 巻(Suppl.1): 45-56.
- 12) 牛丸星子, 稲垣勇夫, 足立真理子, 星 雅人, 古田伸行, 竹村正男, 伊藤弘康, 清島 満. 上皮円柱の検証と意義について—上皮円柱を円柱内上皮細胞 3 個以上とする妥当性に関する検討—, 医学検査 2012 年; 61 巻: 736-740.
- 13) 石田秀和, 宮崎 崇, 鍋谷洋介, 中山純里, 浅野栄太, 安藤航平, 小池紀子, 古田伸行, 竹村正男, 伊藤弘康, 清島 満. ケミルミ ADVIA Centaur XP によるプロカルシトニン測定試薬「ケミル BRAHM プロカルシトニン」の基礎的検討, 医学と薬学 2012 年; 68 巻: 519-528.
- 14) 渡邊恒夫, 竹村正男, 斎藤邦明, 伊藤弘康, 服部高幸, 関根綾子, 山田鉄也, 加藤則廣, 富田栄一, 松岡敏男, 清島 満. 非アルコール性脂肪肝(non-alcoholic steatohepatitis; NASH)における血清 Cytokeratin-18(CK-18)測定の臨床意義について, 臨床病理 2013 年; 61 巻: 19-24.
- 15) 足立真理子, 星 雅人, 牛丸星子, 林 麻実, 仲本賢太郎, 神戸 歩, 古田伸行, 稲垣勇夫, 伊藤弘康, 清島 満. CKD 重症度分類(KDIGO2009)における尿中硝子円柱の臨床的意義について, 臨床病理 2013 年; 61 巻: 104-111.
- 16) 石田秀和, 中山純里, 宮崎 崇, 小池紀子, 古田伸行, 竹村正男, 伊藤弘康, 清島 満. プロカルシトニン測定試薬「ミュータスワコー プラームス PCT」および PCT 半定量試薬「プラームス PCT-Q」の評価, JCCLA 2013 年; 38 巻: 304-311.
- 17) 石田秀和, 古田伸行, 中山純里, 浅野栄太, 安藤航平, 小池紀子, 伊藤弘康, 清島 満. 検体前処理装置 MPAM2 台並列運用と大型検体回収装置 RAA を利用した生化学・免疫総合緊急検査システムの構築, 医学検査 2013 年; 62 巻: 470-476.
- 18) 金森寛充, 竹村元三, 今井 一, 鈴木貴史, 高杉信寛, 久保田知希, 牛越博昭, 服部有博, 青山琢磨, 川崎雅規, 西垣和彦, 湊口信也. 心肥大の成因確定に苦慮した Fabry 病の 1 例, 心臓 2013 年; 45 巻: 440-445.
- 19) 村上啓雄, 深尾亜由美, 渡邊珠代, 土屋麻由美, 太田浩敏, 丹羽 隆. 厚生労働省モデル事業における院内感染対策地域支援ネットワーク, INFECTION CONTROL 2013 年; 22 巻: 80-83.
- 20) 渡邊珠代, 土屋麻由美, 丹羽 隆, 太田浩敏, 鈴木智之, 深尾亜由美, 村上啓雄. 感染制御における地域ネットワークの実際, 感染症 2013 年; 254 巻: 217-222.
- 21) 鍋谷洋介, 渡邊恒夫, 寺林伸夫, 廣瀬あゆみ, 野久 譲, 篠田貢一, 古田伸行, 伊藤弘康, 松岡敏男, 清島 満. 超音波検査による肩腱板断裂診断能の検討 —US 所見と MRI 所見との比較—, 臨床病理 2014 年; 62 巻: 31-37.
- 22) 寺林伸夫, 渡邊恒夫, 伊藤芳毅, 松本 和, 瀧上伊織, 清水克時, 秋山治彦. 変形性膝関節症における中膝動脈血流評価, 日本整形超音波学会誌 2014 年; 25 巻: 42-47.
- 23) 渡邊恒夫, 寺林伸夫, 名和寛文, 福岡大輔, 辛 紹熙, 松岡敏男. ロコモティブシンドローム定量評価のための腓腹筋 3 次元超音波画像解析, 日本整形超音波学会誌 2014 年; 25 巻: 100-105.
- 24) 石田秀和, 竹村正男, 浅野栄太, 中山純里, 片野由里子, 田内里奈, 中村真大, 古田伸行, 四戸隆基, 佐藤正夫, 伊藤弘康, 清島 満. マトリックスメタロプロテイナーゼ-3 測定試薬「LZ テスト'栄研'MMP-3」の基礎的検討と臨床的有用性, 日本臨床検査自動化学会誌 2014 年; 39 巻: 128-134.

- 25) 大瀧博文, 大楠清文, 中山麻美, 米玉利 準, 安藤航平, 宮崎 崇, 太田浩敏, 古田伸行, 渡邊珠代, 伊藤弘康, 村上啓雄, 清島 満. 中心静脈ライン関連血流感染の判定における細断法を用いた中心静脈カテーテル先端培養の菌量および血液培養結果に関する後方視的な検討, 臨床微生物迅速診断研究会誌 2014年; 24巻: 39-43.
- 26) 寺林伸夫, 伊藤芳毅, 松本 和, 瀧上伊織, 大野貴敏, 渡邊恒夫. 体位変換・肩関節加温下での肩周囲血流変化: 健常肩での検討. 肩関節 2014年; 38巻: 407-410.
- 27) 田内里奈, 石田秀和, 片野由里子, 中山純里, 中村真大, 古田伸行, 伊藤弘康, 清島 満. ラテックス免疫比濁法による H-FABP 測定試薬「ラテックス H-FABP キット「ヤマサ」」の基礎的検討, 岐阜県臨床検査技師会会誌 2014年; 43巻: 1-5.
- 28) 米玉利 準, 大瀧博文, 中山麻美, 安藤航平, 宮崎 崇, 太田浩敏, 古田伸行, 渡邊珠代, 兼村信宏, 伊藤弘康, 大楠清文, 村上啓雄, 清島 満. 血液培養好気ボトルより *Leptotrichia trevisanii* を分離した多発性骨髄腫患者における菌血症の1例, 日本臨床微生物学雑誌 2014年; 24巻: 3201-3206.
- 29) 丹羽 隆, 外海友規, 鈴木景子, 渡邊珠代, 土屋麻由美, 太田浩敏, 村上啓雄. Defined daily dose (DDD) と Days of therapy (DOT) を用いた抗菌薬使用量の評価, 環境感染学会誌 2014年; 29巻: 333-339.
- 30) 廣瀬あゆみ, 渡邊恒夫, 鍋谷洋介, 野久 謙, 古田伸行, 川地慎一, 伊藤弘康, 松岡敏男, 清島 満. 臨床検査データからみた2型糖尿病患者における末梢神経障害の評価: アルブミン尿とABIの関連性, 臨床病理 2014年; 62巻: 538-545.

原著 (欧文)

- 1) Kimura A, Sakurai T, Yamada M, Koumura A, Hayashi Y, Tanaka Y, Hozumi I, Ohtaki H, Chousa M, Takemura M, Seishima M, Inuzuka T. Antibodies against the Tom40 subunit of the translocase of the outer mitochondrial membrane complex and cognitive impairment in Alzheimer's disease. J Alzheimers Dis. 2012;29:373-377. IF 3.612
- 2) Watanabe T, Sakakibara N, Sugimori H, Yabumoto T, Takeyama T, Takemura M, Seishima M, Matsuoka T. Effect of long-term physical exercise of peripheral nerve: comparison of nerve conduction study and ultrasonography. J Sport Med Phys Fit. 2012;52:212-220. IF 0.757
- 3) Kawamoto N, Fukao T, Kaneko H, Hirayama K, Sakurai S, Arai T, Kondo M, Kawamoto M, Matsui E, Teramoto T, Kasahara K, Bai C, Zhang G, Omoya K, Matsukuma E, Morimoto M, Suzuki H, Aoki Y, Kimura T, Nada M, Morita H, Tokumi T, Takemura M, Seishima M, Shiraki M, Iwasa S, Kondo N. Risk factors for infantile atopic dermatitis and recurrent wheezing. J Invest Allerg Clin. 2012;22:116-125. IF 2.642
- 4) Murakami Y, Hoshi M, Hara A, Takemura M, Arioka Y, Yamamoto Y, Funato T, Matsunami H, Seishima M, Saito K. Inhibition of increased indoleamine 2,3-dioxygenase activity attenuates *Toxoplasma gondii* replication in the lung during acute infection. Cytokine. 2012;59:245-251. IF 2.874
- 5) Takeyama T, Takemura G, Kanamori H, Kawaguchi T, Ogino A, Watanabe T, Morishita K, Tsujimoto A, Goto K, Maruyama R, Ushikoshi H, Kawasaki M, Yamada K, Nikami H, Fujiwara T, Fujiwara H, Minatoguchi S. Asialoerythropoietin, a nonerythropoietic derivative of erythropoietin, displays broad anti-heart failure activity. Circ-Heart Fail. 2012;5:274-285. IF 5.945
- 6) Ogawa K, Hara T, Shimizu M, Ninomiya S, Nagano J, Sakai H, Hoshi M, Ito H, Tsurumi H, Saito K, Seishima M, Tanaka T, Moriwaki H. Suppression of azoxymethane-induced colonic preneoplastic lesions in rats by 1-methyltryptophan, an inhibitor of indoleamine 2,3-dioxygenase. Cancer Sci. 2012;103:951-958. IF 3.534
- 7) Nakashima T, Takasugi N, Kubota T, Takasugi M, Kanamori H, Ushikoshi H, Hattori A, Aoyama T, Kawasaki M, Nishigaki K, Takemura G, Minatoguchi S. 'False-positive' intrathoracic impedance monitor alarm caused by amiodarone-induced hypothyroidism in a patient with Cardiac resynchronization therapy-defibrillator. Europace. 2012;14:768-769. IF 3.050
- 8) Ninomiya S, Hara T, Tsurumi H, Goto N, Saito K, Seishima M, Takami T, Moriwaki H. Indoleamine 2,3-dioxygenase expression and serum kynurenine concentrations in patients with diffuse large B-cell lymphoma. Leukemia Lymphoma. 2012;53:1143-1145. IF 2.605
- 9) Fujigaki H, Seishima M, Saito K. Posttranslational modification of indoleamine 2,3-dioxygenase. Anal Bioanal Chem. 2012;403:1777-1782. IF 3.578
- 10) Takasugi N, Kubota T, Kawamura I, Takasugi M, Kanamori H, Ushikoshi H, Hattori A, Aoyama T, Kawasaki M, Nishigaki K, Takemura G, Minatoguchi S. Sudden reversible pacemaker failure in a patient with cardiac sarcoidosis: an unfortunate case of ventricular septal pacing. Europace. 2012;14:1061-1062. IF 3.050
- 11) Hoshi M, Matsumoto K, Ito H, Ohtaki H, Arioka Y, Osawa Y, Yamamoto Y, Matsunami H, Hara A, Seishima M, Saito K. L-tryptophan-kynurenine pathway metabolites regulate type I IFNs of acute viral myocarditis in mice. J Immunol. 2012;188:3980-3987. IF 5.362
- 12) Goto N, Tsurumi H, Takemura M, Kanemura N, Kasahara S, Hara T, Yasuda I, Shimizu M, Yamada T, Sawada M, Takahashi T, Yamada T, Seishima M, Moriwaki H, Takami T. Serum soluble CD27 level is associated with outcome in diffuse large B-cell lymphoma patients treated with R-CHOP. Leukemia Lymphoma. 2012;53:1494-1500. IF 2.605
- 13) Kawaguchi T, Takasugi N, Kubota T, Takasugi M, Kanamori H, Ushikoshi H, Hattori A, Aoyama T,

- Kawasaki M, Nishigaki K, Takemura G, Minatoguchi S, Verrier RL. In-hospital monitoring of T-wave alternans in a case of amiodarone-induced torsade de pointes: clinical and methodologic insights. *Europace*. 2012;14:1372-1374. IF 3.050
- 14) Ohtaki H, Ito H, Hoshi M, Osawa Y, Takamatsu M, Hara A, Ishikawa T, Moriwaki H, Saito K, Seishima M. High susceptibility to lipopolysaccharide-induced lethal shock inencephalomyocarditis virus-infected mice. *Sci Rep*. 2012;2:367. IF 5.078
- 15) Ito H, Iida N, Klinman M. Antibiotics delay wound healing: an effect reversed by co-administering TLR 7 and TLR 9 Ligands. *Curr Angiogen*. 2012;1:46-51.
- 16) Sekine A, Takahashi N, Watanabe T, Osawa Y, Ikeda T, Mori I, Kajita K, Morita H, Hirose Y, Seishima M, Ishizuka T. Adult itussusception of the descending colon due to inflammatory myofibroblastic proliferation. *Clin J Gastroenterol*. 2012;5:74-78.
- 17) Arioka Y, Yamamoto Y, Hoshi M, Natsumoto K, Takamatsu M, Hara A, Seishima M, Saito K. Pre-administration of L-tryptophan improved ADR-induced early renal failure in mice. *Life Sci*. 2012;91:100-106. IF 2.296
- 18) Watanabe T, Takemura M, Sato M, Sekine A, Fukuoka D, Seishima M, Shimizu K, Matsuoka T. Quantitative analysis of vascularization in the finger joints in patients with rheumatoid arthritis using three-dimensional volumetric ultrasonography with power Doppler. *Clin Rheumatol*. 2012;31:299-307. IF 1.774
- 19) Niwa T, Shinoda Y, Suzuki A, Ohmori T, Yasuda M, Ohta H, Fukao A, Kitaichi K, Matsuura K, Sugiyama T, Murakami N, Itoh Y. Outcome measurement of extensive implementation of antimicrobial stewardship in patients receiving intravenous antibiotics in a Japanese university hospital. *Int J Clin Pract*. 2012;66:999-1008. IF 2.538
- 20) Ogawa K, Hara T, Shimizu M, Nagano J, Ohno T, Hoshi M, Ito H, Tsurumi H, Saito K, Seishima M, Moriwaki H. (-)-Epigallocatechin gallate inhibits the expression of indoleamine 2,3-dioxygenase in human colorectal cancer cells. *Oncol Lett*. 2013;4:546-550. IF 0.987
- 21) Kimura A, Sakurai T, Yamada M, Koumura A, Hayashi Y, Tanaka Y, Hozumi I, Ohtaki H, Chousa M, Takemura M, Seishima M, Inuzuka T. Anti-endothelial cell antibodies in patients with cerebral small vessel disease. *Curr Neurovasc Res*. 2013;9:296-301. IF 2.735
- 22) Kawaguchi T, Takemura G, Kanamori H, Takeyama T, Watanabe T, Morishita K, Ogino A, Tsujimoto A, Goto K, Maruyama R, Kawasaki M, Mikami A, Fujiwara T, Fujiwara H, Minatoguchi S. Prior starvation mitigates acute doxorubicin cardiotoxicity through restoration of autophagy in affected cardiomyocytes. *Cardiovasc Res*. 2013;96:456-465. IF 5.808
- 23) Shirakami Y, Shimizu M, Moriwaki H. Cancer chemoprevention with green tea catechins: from bench to bed. *Curr Drug Targets*. 2013;13:1842-1857. IF 3.597
- 24) Osawa Y, Suetsugu A, Matsushima-Nishiwaki R, Yasuda I, Saibara T, Moriwaki H, Seishima M, Kozawa O. Liver acid sphingomyelinase inhibits growth of metastatic colon cancer. *J Clin Invest*. 2013;123:834-843. IF 13.765
- 25) Kanamori H, Takemura G, Goto K, Tsujimoto A, Ogino A, Takeyama T, Kawaguchi T, Watanabe T, Morishita K, Kawasaki M, Mikami A, Fujiwara T, Fujiwara H, Seishima M, Minatoguchi S. Resveratrol reverses remodeling in hearts with large, old myocardial infarctions through enhanced autophagy-activating AMP kinase pathway. *Am J Pathol*. 2013;182:701-713. IF 4.602
- 26) Ohtaki H, Ohkusu K, Ohta H, Miyazaki T, Yonetamari J, Usui T, Mori I, Ito H, Ishizuka T, Seishima M. A case of sepsis caused by *Streptococcus canis* in a dog owner: a first case report of sepsis without dog bite in Japan. *J Infect Chemother*. 2013;19:1206-1209. IF 1.384
- 27) Takamatsu M, Hirata A, Ohtaki H, Hoshi M, Hatano Y, Tomita H, Kuno T, Saito K, Hara A. IDO1 plays an immunosuppressive role in 2,4,6-trinitrobenzene sulfate-induced colitis in mice. *J Immunol*. 2013;191:3057-3064. IF 5.362
- 28) Kawamoto N, Fukao T, Kaneko H, Hirayama K, Sakurai S, Arai T, Kondo M, Kawamoto M, Matsui E, Orii K, Kasahara K, Takemura M, Seishima M, Shiraki M, Iwasa S, Kondo N. Total IgE at 6 months predicts remittance or persistence of atopic dermatitis at 14 months. *Allergy Asthma Proc*. 2013;34:362-369. IF 3.353
- 29) Kawasoe M, Yamamoto Y, Okawa K, Funato T, Takeda M, Hara T, Tsurumi H, Moriwaki H, Arioka Y, Takemura M, Matsunami H, Markey SP, Saito K. Acquired resistance of leukemic cells to AraC is associated with the upregulation of aldehyde dehydrogenase 1 family member A2. *Exp Hematol*. 2013;41:597-603. IF 2.806
- 30) Nagano J, Shimizu M, Hara T, Shirakami Y, Kochi T, Nakamura N, Ohtaki H, Ito H, Tanaka T, Tsurumi H, Saito K, Seishima M, Moriwaki H. Effects of indoleamine 2,3-dioxygenase deficiency on high-fat diet-induced hepatic inflammation. *PLoS One*. 2013;8:e73404. IF 3.534
- 31) Ando T, Ito H, Ohtaki H, Seishima M. Toll-like Receptor agonists and alpha-galactosylceramide synergistically enhance the production of interferon-gamma in murine splenocytes. *Sci Rep*. 2013;3:2559. IF 5.078
- 32) Nakamura N, Goto N, Tsurumi H, Takemura M, Kanemura N, Kasahara S, Hara T, Yasuda I, Shimizu M, Sawada M, Yamada T, Seishima M, Takami T, Moriwaki H. Serum level of soluble tumor necrosis

- factor receptor 2 is associated with the outcome of patients with diffuse large B-cell lymphoma treated with the R-CHOP regimen. *Eur J Haematol.* 2013;91:322-331. IF 2.414
- 33) Ohtaki H, Ohkusu K, Ohta H, Miyazaki T, Yonetamari J, Mori I, Ito H, Ishizuka T, Seishima M. A case of sepsis caused by *Streptococcus canis* in a dog owner: a first case report of sepsis without dog bite in Japan. *J Infect Chemother.* 2013;19:1206-1209. IF 1.384
- 34) Shi B, Watanabe T, Shin S, Yabumoto T, Takemura M, Matsuoka T. Effect of hypoxic training on inflammatory and metabolic risk factors: a cross-over study in healthy subjects. *Physiol Rep.* 2014;2:doi: 10.1002/phy2.198
- 35) Ito H, Ando T, Ando K, Ishikawa T, Saito K, Moriwaki H, Seishima M. Induction of hepatitis B virus surface antigen-specific cytotoxic T lymphocytes can be up-regulated by the inhibition of indoleamine 2, 3-dioxygenase activity. *Immunology.* 2014;142:614-623. IF 3.735
- 36) Nakamura N, Kanemura N, Shibata Y, Matsumoto T, Mabuchi R, Nakamura H, Kitagawa J, Goto N, Hara T, Tsurumi H, Moriwaki H. Lenalidomide-induced cytokine release syndrome in a patient with multiple myeloma. *Leukemia Lymphoma.* 2014;55:1691-1693. IF 2.605
- 37) Ohtaki H, Ito H, Ando K, Ishikawa T, Hoshi M, Ando T, Takamatsu M, Hara A, Moriwaki H, Saito K, Seishima M. Kynurenine production mediated by indoleamine 2,3-dioxygenase aggravates liver injury in HBV-specific CTL-induced fulminant hepatitis. *BBA-Mol Basis Dis.* 2014;1842:1464-1471. IF 5.089
- 38) Hoshi M, Osawa Y, Ito H, Ohtaki H, Ando T, Takamatsu M, Hara A, Saito K, Seishima M. Blockade of indoleamine 2,3-dioxygenase reduces mortality from peritonitis and sepsis in mice by regulating functions of CD11b+ peritoneal cells. *Infect Immun.* 2014;82:4487-4495. IF 4.156
- 39) Terabayashi N, Watanabe T, Matsumoto K, Takigami I, Ito Y, Fukuta M, Akiyama H, Shimizu K. Increased blood flow in the anterior humeral circumflex artery correlates with night pain in patients with rotator cuff tear. *J Orthop Sci.* 2014;19:744-749. IF 1.008
- 40) Watanabe T, Yabumoto T, Shin S, Shi B, Matsuoka T. Effect of short-term whole-body vibration training on metabolic risk factors, inflammatory markers, and arterial stiffness. *Adv Biosci Biotech.* 2014;5:438-445.
- 41) Shin S, Demura S, Watanabe T, Shi B, Yabumoto T, Matsuoka T. Differences between fallers by tripping and nonfallers in the OSFS Test. *Adv Aging Res.* 2014;3:124-129.
- 42) Shirakami Y, Shimizu M, Kubota M, Araki H, Tanaka T, Moriwaki H, Seishima M. Chemoprevention of colorectal cancer by targeting obesity-related metabolic abnormalities. *World J Gastroentero.* 2014;20:8939-8946. IF 2.433
- 43) Niwa T, Watanabe T, Suzuki A, Ohmori T, Tsuchiya M, Suzuki T, Ohta H, Murakami N, Itoh Y. Reduction of linezolid-associated thrombocytopenia by the dose adjustment based on the risk factors such as basal platelet count and body weight. *Diagn Micr Infec Dis.* 2014;79:93-97. IF 2.568

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：清島 満，研究分担者：伊藤弘康，金森寛充，大澤陽介，斉藤邦明；科学研究費補助金基盤研究(B)：スタチン製剤による筋障害予防のためのスクリーニング法と遺伝子解析；平成 21-24 年度；14,600 千円(4,500：5,000：3,100：2,000 千円)
- 2) 研究代表者：清島 満；学術研究助成基金助成金挑戦的萌芽研究：肝炎ウィルス感染症におけるインドールアミン酸素添加酵素の役割と新規治療法の開発；平成 24-25 年度；2,900 千円(1,500:1,400 千円)
- 3) 研究代表者：伊藤弘康；科学研究費補助金研究活動スタート支援：転移性腫瘍に対する NKT 細胞免疫と免疫抑制因子の制御を用いた新規癌免疫療法の開発；平成 24 年度；1,200 千円
- 4) 研究代表者：金森寛充；学術研究助成基金助成金若手研究(B)：心筋オートファジー制御による左室リモデリング改善効果と治療応用；平成 24-25 年度；3,200 千円(1,900：1,300 千円)
- 5) 研究代表者：金森寛充；かなえ医薬振興財団第 41 回助成金：糖尿病心筋におけるオートファジーの病態生理解明と治療応用；平成 23-24 年度；1,000 千円
- 6) 研究代表者：白上洋平；Liver Forum in Kyoto：肝発癌過程における肝レチノイド貯蔵の役割に関する研究；平成 24 年度；1,000 千円
- 7) 研究代表者：伊藤弘康，研究分担者：清島 満，白上洋平；科学研究費補助金基盤研究(C)：NKT 細胞活性化と免疫抑制因子の制御を用いた癌転移に対する新規免疫療法の開発；平成 25 年度；1,690 千円
- 8) 研究代表者：有岡祐子；科学研究費補助金スタートアップ：iPS 細胞樹立過程には組織ごとの特異的な指向性があるのか；平成 25 年度；1,430 千円
- 9) 研究代表者：白上洋平；大学活性化経費(研究：科研採択支援)：肝発癌過程における肝星細胞と肝レチノイド貯蔵の役割に関する研究；平成 25 年度；700 千円

- 10) 研究代表者：安達達也；研究科長・医学部長裁量経費(重点的配分)：NKT 細胞の活性化と Toll 様受容体リガンドを用いた新規癌免疫療法の開発；平成 25 年度；1,000 千円
- 11) 研究代表者：伊藤弘康；科学研究費補助金基盤研究(C)：NKT 細胞活性化と免疫抑制因子の制御を用いた癌転移に対する新規免疫療法の開発；平成 26 年度；1,560 千円
- 12) 研究代表者：白上洋平；学術研究助成基金助成金若手研究(B)：非アルコール性脂肪肝疾患と肝レチノイドシグナルの関連性の解明；平成 26 年度；1,300 千円
- 13) 研究代表者：伊藤弘康；血液医学分野一般研究助成先進医薬研究振興財団：肝再生における免疫担当細胞内インフラマソームの活性化とその役割；平成 26 年度；1,000 千円
- 14) 研究代表者：安藤達也；笹川科学研究助成金：無菌状態で生じる炎症反応が肝再生を促進するのか？～肝再生におけるインフラマソームの関与とメカニズム解明～；平成 26 年度；650 千円
- 15) 研究代表者：伊藤弘康；岐阜大学活性化経費(研究：若手研究支援)：肝再生過程におけるインフラマソーム群の解析と治療への応用；平成 26 年度；1,850 千円

2) 受託研究

なし

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

清島 満：

- 1) 日本臨床検査医学会評議員(～現在)
- 2) 日本臨床化学会評議員(～現在)
- 3) 日本臨床化学会国際交流委員(～現在)
- 4) 日本臨床検査自動化学会評議員(～現在)
- 5) 日本動脈硬化学会評議員(～現在)
- 6) 日本臨床分子医学会評議員(～現在)
- 7) 日本臨床検査医学会理事(平成 26 年 1 月～現在)

2) 学会開催

なし

3) 学術雑誌

清島 満：

- 1) 医療と検査機器試薬；編集同人(～現在)

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

清島 満：

- 1) 第 4 回日本臨床一般検査学会学術集会(平成 24 年 10 月，岐阜，招待講演「検査情報を生かすための病態情報解析医学に学ぶ」)
- 2) 第 59 回日本臨床検査医学会学術集会(平成 24 年 12 月，京都，教育講演「脂質異常症の治療～動脈硬化予防の戦略として」)
- 3) 第 46 回日本臨床自動化学会大会(平成 26 年 10 月，神戸，教育講演「脂質代謝異常と動脈硬化」)

8. 学術賞等の受賞状況

- 1) 金森寛充：岐阜医学奨励賞「心筋オートファジーの病態生理解明と虚血性心疾患への治療応用」(平成 24 年度)
- 2) 白上洋平：岐阜医学奨励賞「肝レチノイド貯蔵と肝発癌」(平成 26 年度)

9. 社会活動

清島 満：

- 1) 国立大学医学部長会議会員(平成 24 年 4 月～現在)
- 2) 岐阜県地方独立行政法人評価委員会委員長(平成 24 年 4 月～現在)
- 3) 岐阜県産業保健推進連絡事務所運営協議会委員(平成 24 年 4 月～現在)
- 4) 岐阜県医療対策協議会委員(平成 24 年 4 月～現在)
- 5) 岐阜県医師育成・確保コンソーシアム組織運営委員会議長(平成 24 年 4 月～現在)
- 6) 岐阜県精度管理専門委員(~現在)
- 7) 岐阜市精度管理専門委員(~現在)
- 8) 岐阜県医師会臨床検査精度管理委員会委員(~現在)
- 9) 公益信託 稲原記念医・歯学留学生援助基金運営委員(平成 24 年 4 月～現在)

10. 報告書

なし

11. 報道

なし

12. 自己評価

評価

研究業績は質、量ともに目標レベルに達したと自己評価しているが、なるべく IF 5 以上のジャーナルを目指す。

現状の問題点及びその対応策

院生は現在 2 名（当分野所属院生 1 名と他分野からの社会人大学院生 1 名）であり、更なる院生もしくは研究生確保に努める。研究資金は科研費を中心にその他助成金獲得に努める。研究テーマについてはある程度継続性のあるものを優先する。

今後の展望

研究テーマは多岐にわたるが、他分野他施設との共同研究も積極的に行い、効率的な研究を目指したい。